Nikon

デジタル一眼レフカメラ

使用説明書

Jp

この使用説明書について

この使用説明書では、次の方法で、知りたいことを簡単に探し出すことができます。

目次 から ➜ 🕮vi～xi

撮影、再生、メニューなど、項目別に探すことができます。

目的別かんたん検索 から ➜ 🕮ii～v

使いたい機能や知りたい機能を、簡単に探すことができます。
機能名がわからなくても大丈夫です。

索引 から ➜ 🕮218～222

さまざまな項目を五十音順の一覧から探すことができます。
機能名や用語がわかっているときに便利です。

警告メッセージ から ➜ 🕮206～209

液晶モニターやファインダーに表示されている警告メッセージから、今のカメラの状態を知ることができます。

故障かな？と思ったら から ➜ 🕮200～205

カメラの動作がおかしいときに、原因を調べるのに役立ちます。

⚠安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは🕮xii～xviiをご覧ください。

ヘルプ機能

このカメラにはヘルプ機能が付いています。メニュー操作時などに、液晶モニターでその項目の意味などを調べることができます。詳しくは🕮11をご覧ください。

表記について

- SDメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。

「見て聞くマニュアル」デジチューター

インターネット上でD3000の操作方法を、動画や作例写真を交えながら説明しています。
下記アドレスのホームページをご覧ください。

http://www.nikondigitutor.com/

D3000

目的別かんたん検索

使いたい機能や知りたい機能から、説明が記載されているページを簡単に調べることができます。

表示関連

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
液晶モニターやファインダー内の表示の意味を知りたい	ファインダー	5
	インフォ画面	6
使用中のSDカードであと何コマ撮影できるのか知りたい	SDカードの残量を確認する	26
バッテリーの残量を確認したい	バッテリー残量の表示	25
液晶モニターやファインダー内の表示がすぐに消えないようにしたい	パワーオフ時間	143
メニューに表示される言語を変えたい	言語	140
液晶モニターの明るさを調整したい	液晶モニターの明るさ	135
ファインダー内に構図用格子線を出したい	格子線の表示	145
撮影した画像の情報を詳しく知りたい	画像情報の表示	94

撮影関連

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
とにかく簡単に撮影したい	オート撮影モード	25
モードダイヤルの**GUIDE**の機能を知りたい	ガイドモード	35
風景、人物など、撮影シーンに合わせて簡単に撮影したい	シーンモード	31
大きくプリントするための画像を撮影したい	画質モード、画像サイズ	51、53
撮影できるコマ数を増やしたい		
電子メールで送る画像を撮りたい		

撮影関連

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
ピントの合わせ方を自分で選びたい	フォーカスモード	41
ピントを合わせる位置を自分で選びたい	フォーカスポイント	46
構図を変えながら簡単にピントを合わせ続けたい	3D-トラッキング	45
フォーカスポイントから外れた位置にある被写体にピントを合わせたい	フォーカスロック	47
暗い場所でフラッシュが自動的に光るようにしたい	自動発光	60
瞳が赤くならないようにしたい	赤目軽減発光	60
フラッシュを光らせずに撮影したい	発光禁止オートモード	25
	発光禁止	61
ピント合わせ時に照射する光（AF補助光）を出さないようにしたい	内蔵AF補助光の照射	132
1コマ撮影と連続撮影（連写）を切り換えたい	レリーズモード	54
セルフタイマーを使って撮影したい	セルフタイマー	56
別売のリモコンを使って撮影したい	リモコン	56
露出について知りたい	露出について	67
動きの速い被写体を写し止めたり、川の流れなどの流動感を出したい	撮影モード**S**（シャッター優先オート）	69
背景をぼかして被写体を浮かび上がらせたい	撮影モード**A**（絞り優先オート）	70
画像を明るく、または暗くしたい	露出補正	78
花火や天体の写真、自動車のライトの流れを撮影したい	長時間露出	73
白とびや黒つぶれの少ない画像を撮影したい	アクティブD-ライティング	65
ファインダーをはっきりと見えるようにしたい	視度調節	23
撮影時にピピッという電子音が鳴らないようにしたい	電子音設定	144

画像の再生/編集/印刷

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
撮影した画像をカメラで見たい	画像をカメラで再生する	33、93
不要な画像を削除したい	画像を削除する	34、105
画像を拡大して表示したい	拡大表示	103
撮影した画像を誤って削除しないようにしたい	プロテクト	104
画像をスライドショーにしてカメラで見たい	スライドショー	108
画像をテレビで見たい	画像をテレビで見る	124
パソコンに画像を転送したい	画像をパソコンに転送する	111
画像を印刷したい	画像をプリンターで印刷する	114
日付を入れて印刷したい	日付プリント	116、120
プリントサービス店にプリントを依頼したい	プリント指定（DPOF）	122
撮影した画像のサイズ、色、明るさなどを変更したい	画像編集メニュー	154
フラッシュで瞳が赤くなってしまった画像を補正したい	赤目補正	158
2コマのRAW画像を1コマに合成したい	画像合成	165
撮影したRAW画像をJPEG画像に変換したい	RAW現像	167
塗り絵の原画のような画像を作りたい	塗り絵	168
模型（ミニチュア）を撮影したような画像に加工したい	ミニチュア効果	169
撮影した画像をつなぎ合わせて動画を作りたい	ストップモーション作成	169

メニュー/設定関連

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
メニューの操作方法を知りたい	メニューの操作方法	11
メニュー項目や警告メッセージについて知りたい	ヘルプ機能	11
	警告メッセージ	206
撮影機能の設定を変えたい	インフォ画面	6
	コマンドダイヤル	8
	撮影メニュー	128
最初の設定に戻したい	撮影メニューのリセット	129
	セットアップメニューのリセット	135
内蔵時計の時刻を設定したい	地域と日時	19、139
画像に付けられる番号（ファイル番号）が、SDカードを換えても続き番号になるようにしたい	連番モード	146
ファイル番号をリセットして1から始めたい		
最近使ったメニューの履歴から設定したい	最近設定した項目	174

その他

使いたいこと・知りたいこと	キーワード	📖
付属品のアイピースキャップの用途を知りたい	セルフタイマー、リモコン	56
使えるSDカードを知りたい	推奨SDカード	188
使えるレンズを知りたい	使用できるレンズ	175
使えるスピードライト（外付けフラッシュ）を知りたい	使用できるスピードライト	180
使えるアクセサリーを知りたい（リモコン、ACアダプターなど）	使用できるアクセサリー	185
使えるパソコン用ソフトウェアを知りたい	使用できるアクセサリー	186
カメラを掃除したい	カメラのお手入れについて	189
カメラを点検や修理に出したい	アフターサービスについて	226

目 次

お使いになる前に 1

かんたんな撮影と再生 25

P、S、A、M モードで撮影する 67

画像の再生 93

パソコン、プリンター、テレビとの接続　111

メニューガイド　125

資料 175

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は、次のようになっています。

危険　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

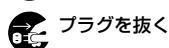
警告（カメラとレンズについて）

分解禁止	**分解したり修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 バッテリー、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
バッテリーを取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかにバッテリーを取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 バッテリーを取り出す際、やけどに充分注意してください。 バッテリーを抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

⚠ 警告（カメラとレンズについて）

使用禁止	**レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと** 失明や視力障害の原因となります。
発光禁止	**車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは直ちに医師にご相談ください。
警告	**ストラップが首に巻き付かないようにすること** 特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと。 首に巻き付いて窒息の原因となります。
使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
警告	**指定のバッテリーまたは専用ACアダプターを使用すること** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意（カメラとレンズについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
保管注意	**製品は幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
使用注意	**逆光撮影では、太陽を画角から充分にずらすこと** 太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。
保管注意	**使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
移動注意	**三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりして、ケガの原因となることがあります。
使用注意	**航空機内で使うときは、離着陸時に電源をOFFにすること** **病院で使うときは病院の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
禁止 プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源（バッテリーやACアダプター）を外すこと** バッテリーの液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。
発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因になることがあります。

⚠ 注意（カメラとレンズについて）

禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。
放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪影響を与え、火災の原因になることがあります。
禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠ 危険（専用リチウムイオン充電池について）

禁止	**バッテリーを火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**バッテリーをショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**専用の充電器を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと** ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。
使用禁止	**Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9aに対応していない機器には使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。 Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9aは、D3000に対応しています。
危険	**バッテリーからもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告（専用リチウムイオン充電池について）

保管注意	**バッテリーは幼児の手の届かない所に置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
警告	**変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは、充電をやめること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**バッテリーをリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはテープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関やリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。
警告	**バッテリーからもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠ 注意（専用リチウムイオン充電池について）

注意	**バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。

⚠ 警告（クイックチャージャーについて）

分解禁止	**分解したり修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
プラグを抜く すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。
警告	**電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること** そのまま使用すると火災の原因になります。
使用禁止	**雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
禁止	**電源コードを傷つけたり加工したりしないこと** **また、重いものを載せたり、加熱したり、引っ張ったり、無理に曲げたりしないこと** 電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。
感電注意	**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと** 感電の原因になることがあります。
禁止	**専用バッテリーチャージャーを海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わないこと** 発熱、故障、火災の原因となります。

⚠ 注意（クイックチャージャーについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
放置注意	**製品は幼児の手の届かないところに置くこと** ケガの原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

ご確認ください

保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入１年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録ができます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

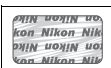
http://www.nikon-image.com/jpn/support/

大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合せでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL9a には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。
  http://www.nikon-image.com/jpn/support/manual/
  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

SDカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。SDカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

SDカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にSDカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、ホワイトバランスのプリセットマニュアル画像（🕮85）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。SDカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、ラジオやテレビの近くでお使いになると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書にしたがって正しくお取り扱いください。

お使いになる前に

はじめに

ニコンデジタル一眼レフカメラをお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

 カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。

 カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。

 使用説明書上で関連情報が記載されているページです。

アクセサリーについてのご注意

このカメラには、ニコン製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

カメラなどの点検サービスについて

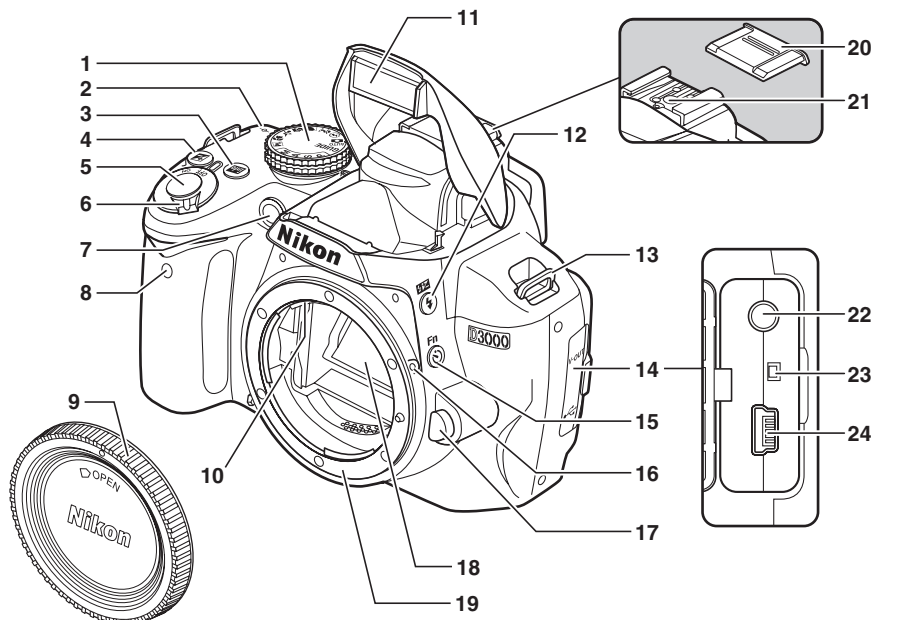
カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

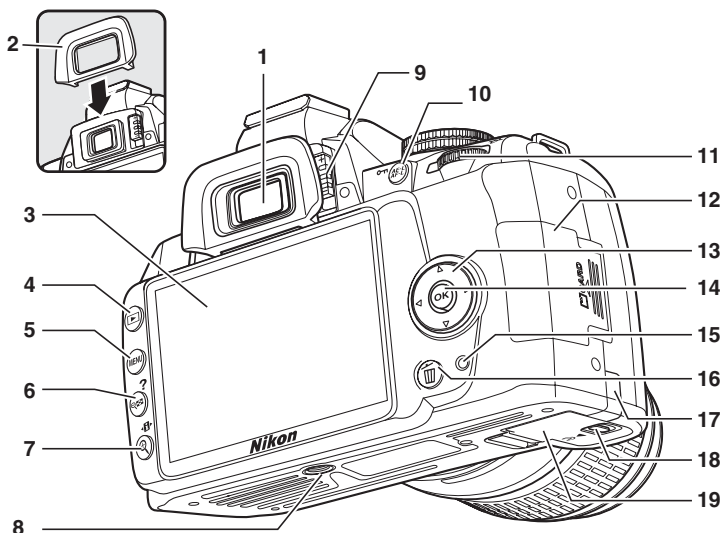
- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズや別売スピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

操作説明について

操作説明は、初期設定になっていることを前提に説明しています。

各部の名称と機能

カメラ本体

1	モードダイヤル........................ 4	11	内蔵フラッシュ..................... 59	18	ミラー.................................. 192
2	-⊖-距離基準マーク................ 50	12	⚡フラッシュモードボタン .... 59 フラッシュ調光補正ボタン................................ 81	19	レンズマウント........................ 50
3	インフォボタン................... 6	13	ストラップ取り付け部（吊り金具）	20	アクセサリーシューカバー BS-1................................ 180
4	露出補正ボタン................. 79 絞り変更ボタン .... 71 フラッシュ調光補正ボタン. 81	14	端子カバー	21	フラッシュ取り付け部（アクセサリーシュー） 180
5	シャッターボタン................ 28	15	セルフタイマーボタン .... 56 Fn ファンクションボタン 147	22	ビデオ出力端子................... 124
6	電源スイッチ......................... 25	16	レンズ着脱指標........................ 17	23	リセットボタン....................200
7	AF補助光ランプ...................... 43 セルフタイマーランプ.......... 57 赤目軽減ランプ....................... 61	17	レンズ取り外しボタン.......... 18	24	USB端子 パソコンと接続する........ 112 プリンターと接続する.... 115
8	リモコン受光部....................... 57				
9	ボディーキャップBF-1A				
10	レンズ信号接点				

カメラ本体（つづき）

1	ファインダー接眼窓 23
2	接眼目当てDK-20
3	液晶モニター 撮影時の設定を確認する .... 6 撮影した画像を確認する 33 画像を1コマずつ再生する 93
4	▶ 再生ボタン .... 33、93
5	MENU メニューボタン .... 11、125
6	縮小/ サムネイルボタン .... 100 ? ヘルプボタン 11
7	拡大ボタン .... 103 インフォ設定ボタン 7
8	三脚ネジ穴
9	視度調節レバー 23
10	AE/AFロックボタン .... 47、148 プロテクトボタン 104
11	コマンドダイヤル 8
12	SDカードカバー 20
13	マルチセレクター 12
14	OKボタン 12
15	SDカードアクセスランプ .... 20、29
16	削除ボタン 撮影した画像を削除する .... 34 再生中の画像を削除する 105
17	パワーコネクターカバー ... 187
18	バッテリー室カバー開閉ノブ 15
19	バッテリー室カバー 15

モードダイヤル

モードダイヤルを回すと、次の各モードに切り換えられます。

P、S、A、Mモード

シャッタースピードや絞り値、各種メニューの設定を自分で決めて、より本格的な撮影を楽しむことができます。

P：**プログラムオート**（□68） シャッタースピードと絞り値の設定をカメラまかせにして、気軽に撮影したいとき。	**A**：**絞り優先オート**（□70） 好みの絞り値を使って、背景をぼかしたポートレートや奥行きのある風景を撮影したいとき。
S：**シャッター優先オート**（□69） 好みのシャッタースピードを使って、動きのある被写体の一瞬をとらえたり、流動感を表現したいとき。	**M**：**マニュアル**（□71） シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定して、個性的な映像表現をしたいとき。

GUIDEモード（□35）

ガイドメニューを使って撮影、再生、設定の変更をしたいとき。

オートモード

AUTO：**オートモード**（□25）

撮影状況に合わせて、各種設定をカメラが自動的にコントロールするので、カメラまかせで簡単に撮影することができます。デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方におすすめのモードです。

発光禁止オートモード（□25）

オートモードで、フラッシュを発光させたくないとき。

シーンモード

ポートレートモード（□31）

背景をぼかし、人物を強調させた人物写真を撮影したいとき。

風景モード（□31）

風景や街並みを撮影したいとき。

こどもスナップモード（□32）

子供の肌を滑らかに、衣服・背景を鮮やかに撮影したいとき。

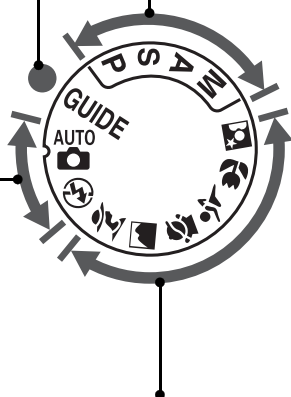
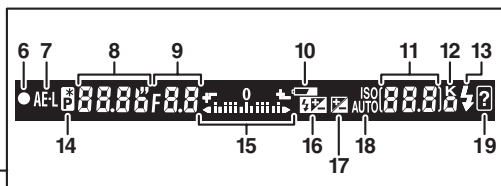
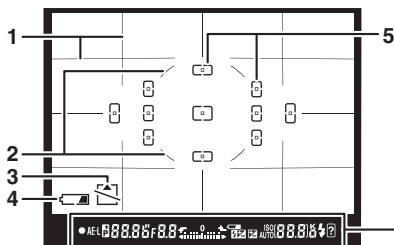
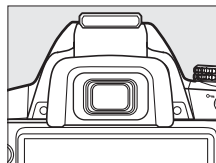
スポーツモード（□32）

スポーツなど一瞬の動きをとらえた撮影をしたいとき。

クローズアップモード（□32）

草花や昆虫などを接写したいとき。

夜景ポートレートモード（□32）

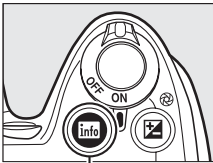
夜景や雰囲気のある夕景をバックに、人物を撮影したいとき。

ファインダー（説明のため、全ての表示を点灯させています）

1	構図用格子線 145（セットアップメニュー［**ファインダー表示の設定**］の［**格子線の表示**］を［**する**］に設定している場合のみ表示されます）
2	中央部重点測光エリア 75
3	カード警告表示 207
4	バッテリー警告表示 25
5	フォーカスポイント表示 46
6	ピント表示 28、50
7	AEロックマーク 76
8	シャッタースピード 69、71
9	絞り値 70、71
10	バッテリー警告表示 25
11	記録可能コマ数 26 連続撮影可能コマ数 55 ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ取得モード表示 85 露出補正値 78 フラッシュ調光補正値 80 ISO感度 63
12	1000コマ以上補助表示 26
13	レディーライト 30
14	プログラムシフトマーク 68
15	露出インジケーター 72 露出補正インジケーター 79 フォーカスエイドインジケーター 145
16	フラッシュ調光補正マーク 80
17	露出補正マーク 78
18	ISO-AUTOマーク 130
19	警告表示 206

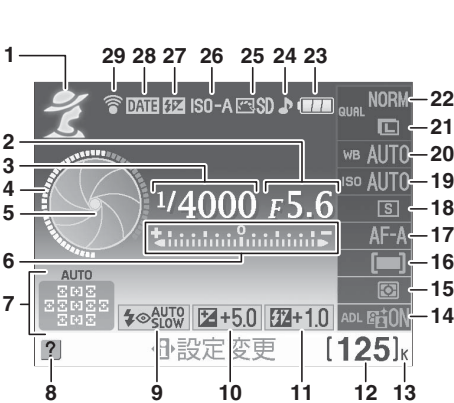
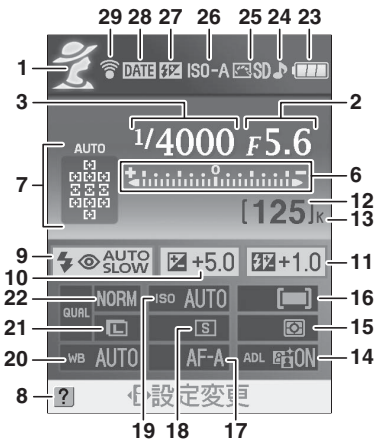
ファインダーについて

- 液晶の特性上、ファインダー内のフォーカスポイントなどから外側に延びる細い線が見える場合があります。
- カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなります。充電したバッテリーを入れると明るくなります。
- ファインダー内の表示の応答速度や明るさは、温度によって変化しますが、故障ではありません。

液晶モニター表示

インフォ画面（説明のため、全ての表示を点灯させています）

infoボタンを押すと、液晶モニターに次のような「インフォ画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、記録可能コマ数など、撮影に関する情報や設定の確認ができます。インフォ画面の表示中は、コマンドダイヤルとボタンを操作して、撮影時の設定を変更することもできます。

infoボタン

カメラを横に構えたとき

カメラを縦に構えたとき

No.	項目	ページ
1	撮影モード	
	（オート）または（発光禁止オート）で撮影する	25
	シーンに合わせて撮影する	31
	ガイドモード	35
	撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**を使う	67
2	絞り値	70、71
3	シャッタースピード	69、71
4	シャッタースピードイメージ	7
5	絞りイメージ	7
6	露出インジケーター	72
	露出補正インジケーター	79
	フォーカスエイドインジケーター	145
7	オートエリアAF設定マーク	44
	3D-トラッキング設定マーク	45
	フォーカスポイント	46
8	ヘルプあり表示	206
9	フラッシュモード	60
10	露出補正値	78
11	フラッシュ調光補正値	80
12	記録可能コマ数	26
13	1000コマ以上補助表示	26
14	アクティブD-ライティング	65
15	測光モード	75
16	AFエリアモード	44
17	フォーカスモード	41
18	レリーズモード	54
19	ISO感度	63
20	ホワイトバランス	82
21	画像サイズ	53
22	画質モード	51
23	バッテリー残量表示	25
24	電子音マーク	144
25	ピクチャーコントロール	89
26	ISO-AUTOマーク	129
27	マニュアル発光設定マーク	133
	スピードライト調光補正マーク	183
28	デート写し込み設定マーク	149
29	Eye-Fi通信マーク	153

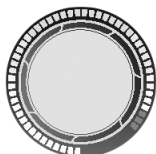
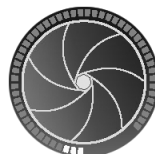
インフォ画面で設定を変更する

インフォ画面を表示中にⓘボタンを押すと、表示されている撮影時の設定を変更できるようになります。マルチセレクターで項目を選んでⓄⓀボタンを押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

ⓘボタン

インフォ画面でのシャッタースピードイメージと絞りイメージについて

シャッタースピードイメージと絞りイメージは、シャッタースピードと絞りの動きを表します。

シャッタースピードが速く、絞りが開いた（小さい絞り値の）場合	**シャッタースピードが遅く、絞りが絞り込まれた（大きい絞り値の）場合**

- モードダイヤルを回すと、シャッタースピードと絞りイメージがモードダイヤルの絵に変わります。

液晶モニターを消灯・点灯するには

次の場合は、液晶モニターが消灯します：

- シャッターボタンを押している間
- インフォ画面を表示中にinfoボタンを押したとき
- 操作を行わないまま約8秒（初期設定）が経過したとき（液晶モニターが消灯するまでの時間は、セットアップメニュー［**パワーオフ時間**］（□143）で変更できます。）

インフォ画面が消灯しているときは、次の操作で点灯します：

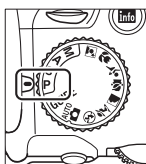
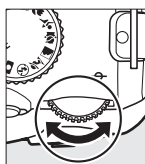
- infoボタンを押す

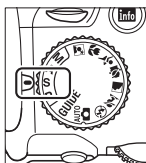
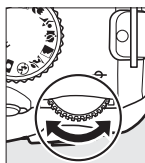
関連ページ

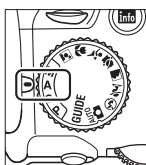
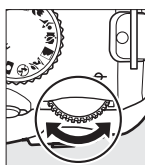
- インフォ画面のデザインや背景色を変更する→ 🔧［**インフォ画面デザイン**］（□136）
- シャッターボタンの半押し後にインフォ画面を自動表示しないようにする→ 🔧［**インフォ画面の自動表示**］（□138）

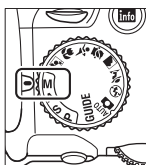
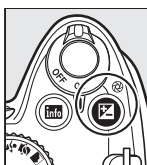
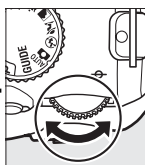
コマンドダイヤル

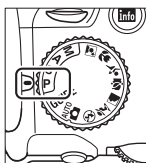
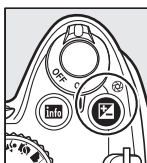
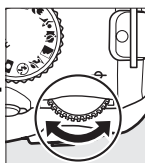
インフォ画面を表示中に、コマンドダイヤルを単体で回すか、次のボタンを押しながら回すと、画面を見ながら撮影時の設定を変更できます。

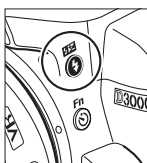
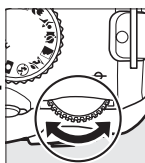
プログラムシフト
（撮影モードが**P**のとき 🕮68）

撮影モード**P**

コマンド
ダイヤル

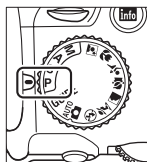
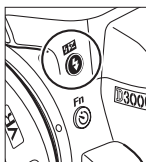
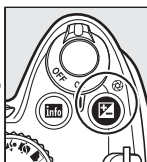
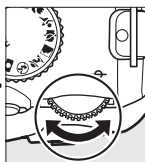
シャッタースピードの設定
（撮影モードが**S**または**M**のとき 🕮69、71）

撮影モード**S**
または**M**

コマンド
ダイヤル

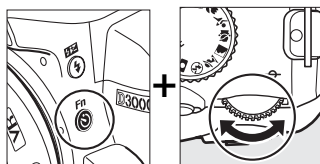
絞り値の設定
（撮影モードが**A**のとき 🕮70）

撮影モード**A**

コマンド
ダイヤル

絞り値の設定
（撮影モードが**M**のとき ◻71）

撮影モード**M**

ボタン

コマンドダイヤル

露出補正値の設定
（撮影モードが**P**、**S**または**A**のとき ◻78）

撮影モード**P**、**S**または**A**

ボタン

コマンドダイヤル

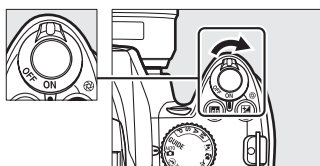
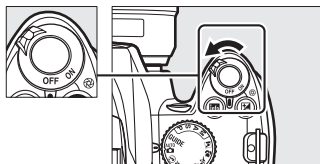
フラッシュモードの設定
（◻60）

ボタン
コマンドダイヤル

フラッシュ調光補正値の設定（撮影モードが**P**、**S**、**A**または**M**のとき ◻80）

撮影モード**P**、**S**、**A**または**M**

ボタン

ボタン

コマンドダイヤル

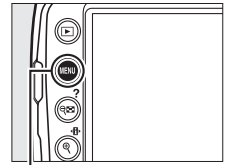
セットアップメニュー［**ボタン動作のオプション**］の［**⏲/Fnボタンの機能**］（□147）では、**Fn**（⏲）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの動作を次のいずれかに設定できます。

Fn（⏲）ボタン　　コマンドダイヤル

レリーズモード（単写、連写、セルフタイマー、2秒リモコン、瞬時リモコン）設定（□54）		ホワイトバランス設定（□82）	
画質モード/画像サイズ設定（□51）		アクティブD-ライティング（□65）	
ISO感度設定（□63）		格子線表示設定（□145）	ファインダー

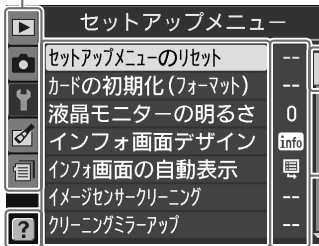
電源スイッチ

電源スイッチを矢印の方向に回して「ON」の指標に合わせると、カメラの電源がONになります。

電源スイッチを矢印の方向に回して「OFF」の指標に合わせると、カメラの電源がOFFになります。

メニューの操作方法

再生や撮影、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニュー画面を使います。

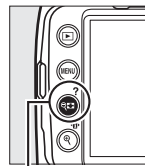
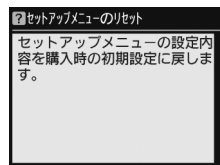
MENUボタンを押すと、液晶モニターに次のようなメニュー画面（例：セットアップメニュー）を表示します。

メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます。

▶	**再生メニュー（□125）**	✎	**画像編集メニュー（□154）**
📷	**撮影メニュー（□128）**	≣	**最近設定した項目（□174）**
Y	**セットアップメニュー（□134）**		

?

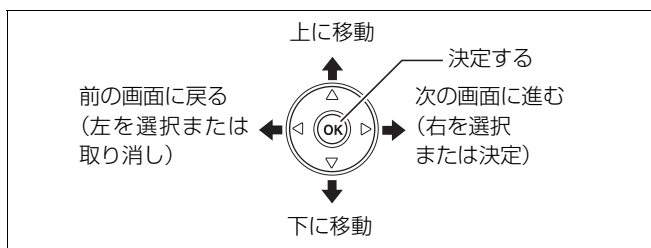
ヘルプがある場合に表示します。

このアイコンを表示しているときに**?**（⊖▦）ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します。

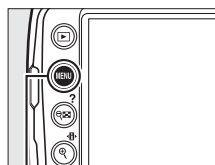
- 説明が2ページ以上ある場合は、**?**（⊖▦）ボタンを押しながらマルチセレクターの▼を押して、次のページを表示してください。
- **?**（⊖▦）ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。

?（⊖▦）ボタン

ガイドモード

ガイドモードのメニューを表示するときは、モードダイヤルをGUIDEに合わせてください（□35）。

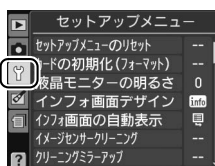
メニュー項目の設定

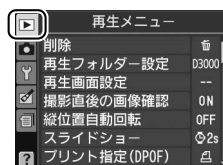
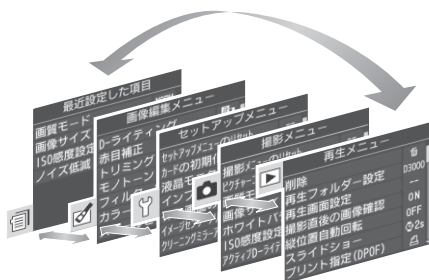
メニューの操作には、マルチセレクターとⓄⓀボタンを使います。

▌メニュー項目の設定方法

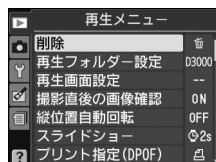
1　メニュー画面を表示する

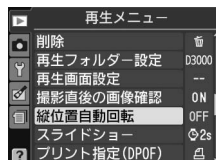
- MENUボタンを押します。

MENUボタン

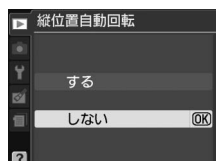
2　メニューのタブを選ぶ

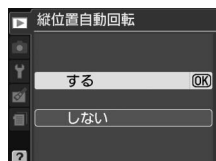
- ◀を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。

3　メニューを切り換える

- ▲または▼を押して、メニューのタブを切り換えます。

4 選んだメニューに入る

- ▶を押して、選んだメニューに入ります。

5 メニュー項目を選ぶ

- ▲または▼で項目を選びます。

6 設定内容を表示する

- ▶を押して設定内容を表示します。

7 設定内容を選ぶ

- ▲または▼で設定内容を選びます。

8 決定する

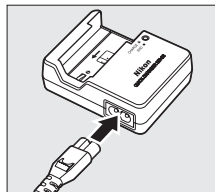
- ㊋ボタンを押して設定内容を決定します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、MENUボタンを押してください。

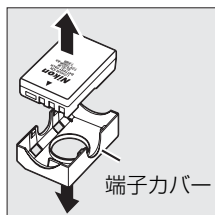
- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
- ㊋ボタンの代わりにマルチセレクターの▶を押しても決定できますが、画像の削除やSDカードの初期化などの重要な設定項目については、㊋ボタンしか使えないことがあります。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押し（□29）してください。

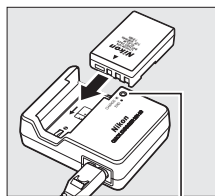
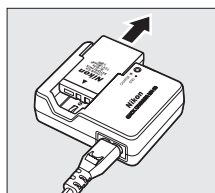
撮影前の準備

バッテリーを充電する

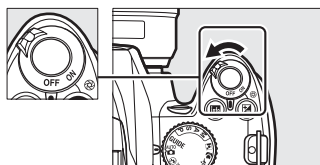
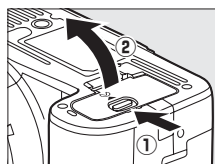
付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9aは、お使いになる前に付属のクイックチャージャー MH-23でフル充電してください。使い切ったバッテリー 1個を充電するには約1時間40分かかります。

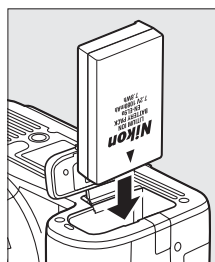
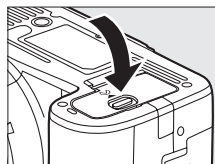
1 クイックチャージャーと電源コードを接続する

2 電源プラグをコンセントに差し込む

3 バッテリーの端子カバーを取り外す

4 バッテリーを充電する

- バッテリーをクイックチャージャーの中に描かれている図に合わせて取り付けます。
- 「CHARGE」ランプが点滅し、充電が始まります。
- 充電が完了すると、「CHARGE」ランプが点滅から点灯に変わります。

5 充電が完了したら、バッテリーを取り外し、電源プラグをコンセントから抜く

カメラにバッテリーを入れる

1 カメラの電源をOFFにする

電源スイッチ

2 バッテリー室カバー開閉ノブを矢印の方向に押して（①）、カメラ底面のバッテリー室カバーを開ける（②）

3 充電したバッテリーを入れる

- 右図のように、正しい向きで入れてください。

4 バッテリー室カバーを閉じる

✔ バッテリーを出し入れするときは

バッテリーをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

☑ バッテリーとクイックチャージャーの使用上のご注意

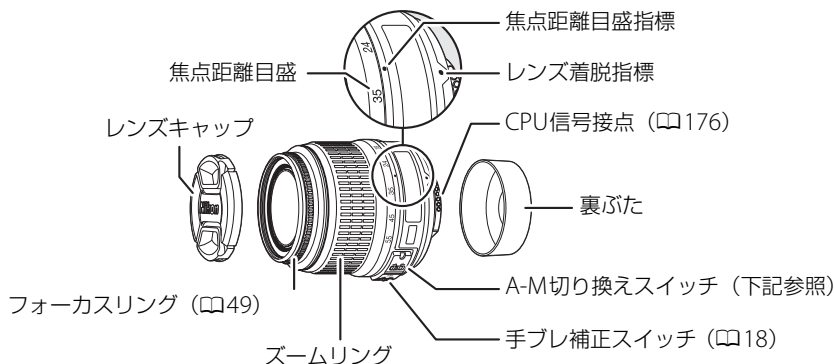
- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（🕮xii～xv）、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」（🕮194～196）をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは0～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。周囲の温度が5～35℃の室内で充電してください。バッテリーの性能を充分に発揮するために、約20℃以上で充電することをおすすめします。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量や、使用できるバッテリー容量は少なくなります。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。
- バッテリーをカメラやクイックチャージャーから取り外しておくときは、ショートを防止するため、付属の端子カバーを取り付けてください。
- クイックチャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- クイックチャージャーMH-23に対応していないバッテリーは、クイックチャージャーMH-23で充電しないでください。

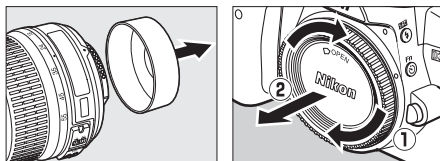
☑ 付属の電源コードについてのご注意

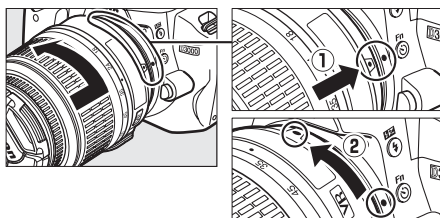
付属の電源コードは、クイックチャージャー MH-23以外の機器に接続しないでください。この電源コードは、日本国内専用（AC 100V対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用電源コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、ニコンオンラインショップ（http://shop.nikon-image.com/）でもお求めいただけます。

レンズを取り付ける

レンズを取り付けるときは、カメラ内部にほこりなどが入らないようにご注意ください。

この使用説明書では、主にAF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VRのレンズを使用して、説明しています。各部名称は次の通りです。

1 カメラの電源をOFFにする

2 レンズの裏ぶたとカメラのボディーキャップを外す

3 レンズとカメラの着脱指標を合わせ（①）、矢印の方向にレンズを回す（②）

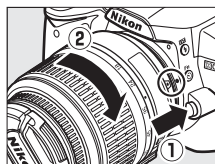
- カチッと音がするまでレンズを回します。このとき、レンズ取り外しボタンは押さないでください。

- A-M切り換えスイッチは、**A**（オートフォーカス）に合わせてください。フォーカスモード切り換えスイッチのあるレンズを使用する場合は、**M/A**（マニュアル優先オートフォーカス）に合わせてください。

オートフォーカスで撮影できるレンズについて

オートフォーカスでピントを合わせるには、AF-SレンズまたはAF-Iレンズが必要です。AF-S、AF-Iレンズは、オートフォーカス用のモーターを内蔵したレンズです。AF-S、AF-Iレンズ以外のオートフォーカス（AF）レンズを取り付けても、このカメラではオートフォーカス撮影できません。

レンズを取り外すには

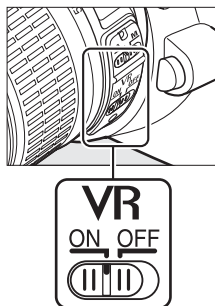
カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら（①）、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し（②）、引き抜いてください。

- レンズを取り外した後は、カメラのボディーキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。

手ブレ補正機能（VR）を使う

AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VRには、手ブレ補正機能（VR）があります。

このレンズでは、シャッタースピードで約3段分※（焦点距離55mm時）の手ブレを補正します。パンニング（流し撮り）にも対応しています。

※ 当社測定条件によります。また、手ブレ補正効果は、撮影者や撮影条件によって異なります。

- 手ブレ補正機能を使うときは、手ブレ補正スイッチをONにしてください。
- シャッターボタンを半押しすると、手ブレを補正します。このときファインダー内の画像のブレも補正するため、ピント合わせが容易で、構図が決めやすくなります。
- 手ブレ補正スイッチをOFFにすると、手ブレを補正しません。

絞りリングのあるCPUレンズについてのご注意

絞りリングのあるCPUレンズ（🕮176）を取り付ける場合は、最小絞り（一番大きい数値）にして、ロックしてください。

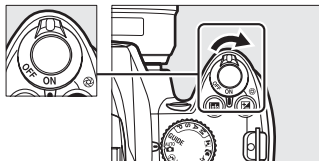
手ブレ補正使用時のご注意

- パンニング（流し撮り）でカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。例えば、流し撮りで横方向にパンニングすると、縦方向の手ブレだけが補正され、流し撮りができます。
- 手ブレ補正の原理上、シャッターをきるとファインダー像がわずかに動くことがありますが、異常ではありません。
- 手ブレ補正中にカメラの電源をOFFにしたり、レンズを取り外したりしないでください（その状態でレンズを振るとカタカタと音がすることがありますが、故障ではありません。カメラの電源をもう一度ONにすれば、音は消えます）。
- 内蔵フラッシュ充電中には、手ブレを補正しません。
- 三脚を使用するときは、手ブレ補正スイッチをOFFにしてください。ただし、三脚を使っても雲台を固定しないときや、一脚を使用するときには、手ブレ補正スイッチをONにするようおすすめします。

日付と時刻を設定する

ご購入後、初めて電源をONにすると、カメラの内蔵時計の日付と時刻を設定する画面が表示されます。日時の設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません。

1 カメラの電源をONにする

電源スイッチ

2 日付と時刻を合わせる

- マルチセレクターの▲または▼を押して、選択中の項目の数値を合わせます。
- マルチセレクターの▶を押して、次の項目に移動します。◀を押すと元の項目に戻ります。

3 設定を完了する

- ⓚボタンを押して日付と時刻の設定を完了します。
- 設定が完了すると、インフォ画面が表示されます。

セットアップメニュー［地域と日時］

設定した日付と時刻は、セットアップメニュー［**地域と日時**］（□139）の［**日時の設定**］で変更できます。［**地域と日時**］では、日時の他に、［**現在地の設定**］（現在地のタイムゾーン）、［**日付の表示順**］、［**夏時間の設定**］を設定できます。

時計用電池について

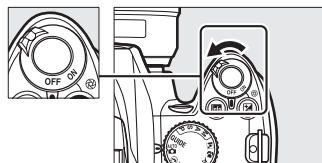
カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のパワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5aを接続すると（□187）、時計用電池が充電されます。フル充電するには約3日間かかります。充電すると、約1カ月の間時計を動かすことができます。液晶モニターに［日時未設定］と表示された場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。もう一度日時設定を行ってください。

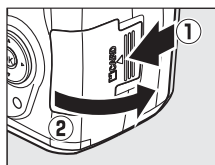
カメラの内蔵時計について

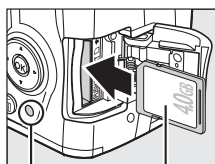
カメラの内蔵時計は、一般的な時計（腕時計など）ほど精度は良くありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

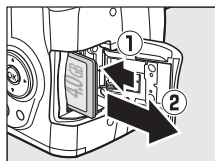
SDカード（別売）をカメラに入れる

このカメラは、撮影した画像をSDカードに記録します。
SDカードは付属していないため、別途お買い求めください。

1 カメラの電源をOFFにする

2 SDカードカバーを開ける

- SDカードカバーは、矢印の方向にスライドさせて（①）、開きます（②）。

3 SDカードを入れる

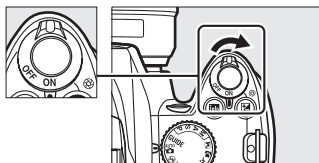
- 右図のように正しい向きで、カチッと音がするまで挿入してください。
- **向きを間違えて挿入すると、カメラおよびSDカードが破損するおそれがあります。正しい方向で挿入しているか、必ずご確認ください。**
- SDカードが正しく挿入されると、SDカードアクセスランプが数秒間点灯します。
- 挿入後、SDカードカバーを閉めてください。
- このカメラに他の機器で使ったSDカードを初めて入れたときは、SDカードを初期化してください（🕮21）。

▌SDカードを取り出すときは

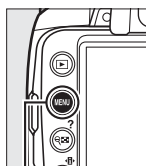
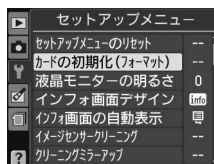
SDカードカバーを開ける前に、SDカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。SDカードカバーを開けて、SDカードを奥に押し込むと（①）、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください（②）。

☑ SDカードを出し入れするときは
SDカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

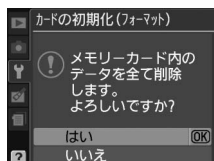
SDカードを初期化（フォーマット）する

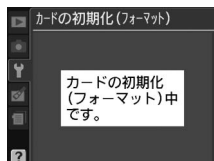
このカメラに他の機器で使ったSDカードを初めて入れたときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。**SDカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**必要なデータがある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください（□111）。

1 カメラの電源をONにする

電源スイッチ

2 セットアップメニューの［カードの初期化（フォーマット)］を選ぶ

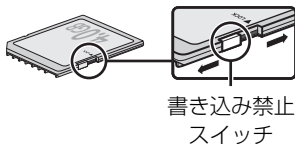
- MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**カードの初期化（フォーマット)**］を選んで▶を押します。
- メニューの操作方法については、「メニューの操作方法」をご覧ください（□11）。

MENUボタン

3 ［カードの初期化（フォーマット)］画面で［はい］を選ぶ

- 初期化をキャンセルするには、［**いいえ**］を選びます。

4 ⓀボタンⓀを押す

- 初期化が始まり、右の画面が表示されます。
- 初期化が完了してセットアップメニュー画面に戻るまで、電源をOFFにしたり、バッテリーやSDカードを取り出したりしないでください。

SDカード取り扱い上のご注意

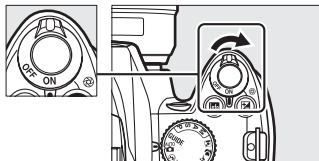
- カメラの使用後は、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- SD カードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やSDカードの故障の原因となります。
  - SDカードの着脱をしないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - バッテリーを取り出さないでください
  - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- 無理な力を加えないでください。破損の恐れがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。

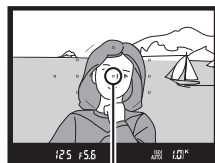
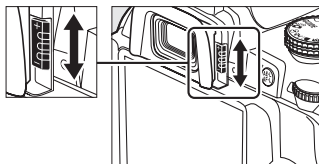
SDカードの書き込み禁止スイッチについて

- SD カードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「Lock」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。
- 「Lock」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとすると、警告音が鳴り、撮影できません。撮影時や、画像を削除するときは「Lock」を解除してください。

ファインダーを見やすくする（視度調節）

ファインダーで構図を決めながら撮影する場合は、あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように調節してください。

1 レンズキャップを取り外し、カメラの電源をONにする

電源スイッチ

2 視度調節レバーを動かして調節する

- ファインダーをのぞきながら視度調節レバーを上下に動かし、フォーカスポイントが最もはっきり見えるように調節してください。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

フォーカスポイント

視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は

- フォーカスモード（□41）を［**AF-S**］、AFエリアモード（□44）を［**[□] シングルポイントAFモード**］に設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
- 視度調節レバーの範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします（□186）。

かんたんな撮影と再生

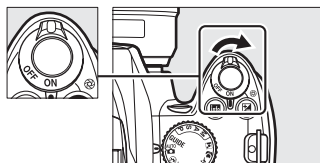
（オート）または（発光禁止オート）で撮影する—カメラまかせの簡単撮影

撮影モードは、シャッターボタンを押すだけの簡単な操作で、さまざまな状況での撮影を楽しむことができます。暗いときや逆光のときなど、自動的にフラッシュが光ります。撮影モードは、フラッシュを光らせずに撮影したい場合に使用します。次のステップ1～5の手順で撮影してください。

ステップ1：電源をONにする

1 電源をONにする

- レンズキャップを外してください。
- 電源をONにすると、インフォ画面が表示されます。

電源スイッチ

2 バッテリーの残量を確認する

- インフォ画面でバッテリー残量を確認します。
- バッテリーの残量が少なくなると、ファインダー内にもバッテリー残量が表示されます。

液晶モニター	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
		残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備してください。
（点滅）	（点滅）	バッテリーが消耗して撮影できません。バッテリーを交換してください。

- 液晶モニターが消灯したときは、infoボタンを押すとインフォ画面が表示されます。
- infoボタンを押してもインフォ画面が表示されない場合、バッテリー残量がありません。バッテリーを交換してください。

3 SDカードの残量を確認する

- SDカードの記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）が、インフォ画面またはファインダー内に表示されます。

- SDカードの残量がなくなると右のように表示され、撮影できなくなります。不要な画像を削除するか（□105）、別のSDカードに交換してください。

- 記録可能コマ数が1000コマ以上あるときは「K」マークが点灯します。「K」は1000倍を意味しており、たとえば1260コマ撮影できるときは、右のように表示されます。

半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを軽く押す（半押しする □29）とオンになり、何も操作が行われないまま約8秒（初期設定）経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、ファインダー内表示が消灯します。インフォ画面を表示している場合は、インフォ画面も消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、セットアップメニュー［**パワーオフ時間**］（□143）で変更できます。

8秒後

半押しタイマーオン

半押しタイマーオフ

半押しタイマーオン

イメージセンサークリーニングについて

カメラの電源をON/OFFするたびに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターを振動させてゴミをふるい落とすイメージセンサークリーニングが作動します（初期設定 □190）。

ステップ2：撮影モードをAUTOまたは⦸にする

カメラ上面のモードダイヤルをAUTOまたは⦸に合わせる

- 内蔵フラッシュを発光させたくない場合は、⦸に合わせてください。

モードダイヤル

ステップ3：カメラを構える

1　カメラを構える

撮影するときは、カメラをしっかりと構えます。

- 脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
- 片足を少し前に踏み出すと、上半身が安定します。

- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。

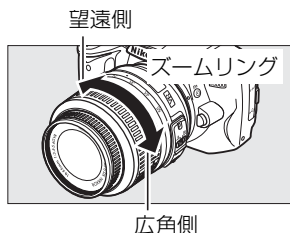
- 暗いときに撮影モード⦸（発光禁止オート）で撮影する場合、手ブレしやすいので三脚の使用をおすすめします。

2　構図を決める

- ファインダーをのぞいて、構図を決めてください。
- 11カ所あるフォーカスポイントの少なくとも1つに、被写体が重なるようにしてください。

フォーカスポイント

ズームレンズの使い方

被写体を大きく写したいときはズームリングを望遠側（焦点距離目盛の大きい数値側）に、広い範囲を写したいときはズームリングを広角側（焦点距離目盛の小さい数値側）に回してください。

ステップ4：ピントを合わせる

1 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- フォーカスポイントの少なくとも1つに被写体が重なるようにして、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）と、被写体に自動的にピントが合います。
- 暗い場所などでは、AF補助光ランプが光ったり内蔵フラッシュが上がることがあります。

2 ファインダー内のピント表示（●）を確認する

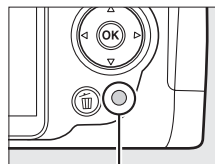
- ピントが合うと、ピピッという電子音が鳴り、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します（被写体が動いているときは、電子音が鳴らない場合があります）。

ファインダー内ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
●（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません。

- シャッターボタンを押している間、続けて撮影できるコマ数（連続撮影可能コマ数）がファインダー内に表示されます。連続撮影可能コマ数の先頭には、「r」（□55）が付きます。
- ピント合わせができない場合は、「オートフォーカスの苦手な被写体」（□42）をご覧ください。

ステップ5：撮影する

撮影する

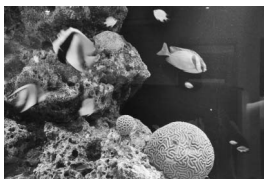
- シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）、撮影します。
- シャッターがきれ、画像がSDカードに記録されます。
- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。**SDカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプター（別売）を取り外さないでください。**
- 撮影した画像が液晶モニターに数秒間、再生されます。
- 再生中でもシャッターボタンを半押しすると、すぐに次の撮影ができます。

シャッターボタンの半押し

シャッターボタンは、2段階に押し込むようになっています。まず、シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「**シャッターボタンを半押しする**」といいます。次に、そのまま深く押し込む（これを「**シャッターボタンを全押しする**」といいます）と、シャッターがきれます。

半押しして
ピントを合わせる

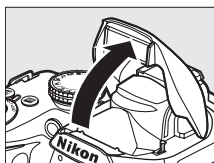
全押しして
撮影する

発光禁止オートモードについて

フラッシュが禁止されている場所での撮影や、フラッシュを光らせずに撮影したいときなどに使います。フラッシュを使わないことで、被写体を自然な感じに表現します。

発光禁止オートモード

オートモード

内蔵フラッシュについて

撮影モードでは、被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵フラッシュが上がります。

ファインダー内にが点灯しているときは、シャッターボタンを全押しすると、内蔵フラッシュが発光します。内蔵フラッシュが上がっている状態でが点灯していないときは、フラッシュが充電中のため、撮影できません。

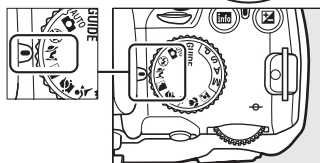
内蔵フラッシュを使わないときは、フラッシュを収納しておいてください。内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げてください。

関連ページ

撮影状況に関わらずフラッシュを強制発光させたい →「内蔵フラッシュを使う」(59)

シーンに合わせて撮影する—簡単操作でより美しく

撮影するシーンが決まっているときは、シーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、美しく撮影できます。

シーンモードは、モードダイヤルを回して設定します。撮影モードを選ぶ以外は、AUTOと同じ操作で撮影できます。

モードダイヤル

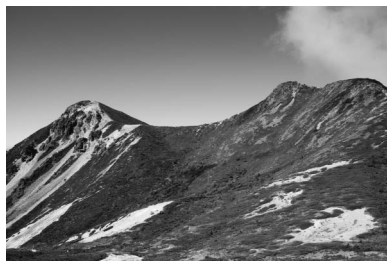
ダイヤルの位置	シーンモード
	ポートレート
	風景
	こどもスナップ
	スポーツ
	クローズアップ
	夜景ポートレート

各シーンモードの特徴

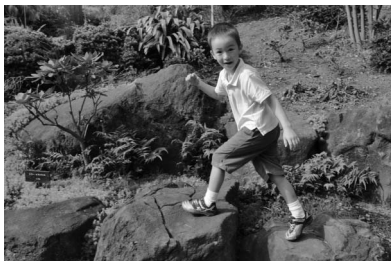
（ポートレート）

人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌をなめらかで自然な感じに仕上げます。

- 被写体と背景が離れているときや、望遠レンズを使って撮影したときは、背景がぼけて立体感のある画像になります。

（風景）

自然の風景や街並みを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

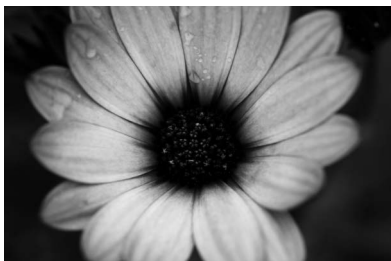
- 内蔵フラッシュと AF 補助光ランプは光りません。
- 暗いところでは手ブレしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

（こどもスナップ）

子供の撮影に向いています。肌の色を美しく表現すると同時に、服装や背景も鮮やかに仕上げます。

（スポーツ）

運動会などスポーツ写真の撮影に向いています。動きのある被写体の一瞬の動きを鮮明にとらえ、躍動感のある画像に仕上げます。

- 内蔵フラッシュと AF 補助光ランプは光りません。

（クローズアップ）

草花や昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写したいときに使います。

- マイクロレンズを使用すると、より被写体に近づいて撮影することができます。
- 手ブレしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

（夜景ポートレート）

夕景や夜景をバックに、人物を撮影したいときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。

- 手ブレしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

撮影した画像を確認する

撮影した画像は、撮影直後に約4秒間（初期設定）、液晶モニターに表示されます。画像が表示されていないときに撮影した画像を確認したい場合は、▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

1 ▶ボタンを押す

- 撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

▶ボタン

2 マルチセレクターの◀または▶を押して他の画像を確認する

- コマンドダイヤルを回しても、表示する画像を切り換えられます。

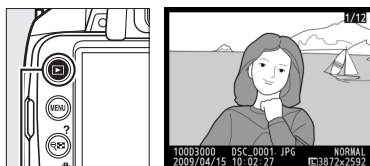
- ▲または▼を押すたびに、撮影情報の表示が切り替わります（📖94）。

- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

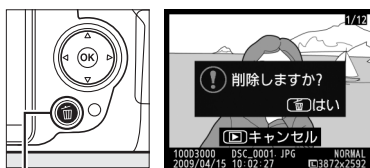
画像を削除する

表示中の画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。

1 削除したい画像を表示する

- ▶を押して液晶モニターに画像を表示してから、マルチセレクターの◀または▶で削除したい画像を選びます。

▶ボタン

2 画像を削除する

- 🗑ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。
  もう一度🗑ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。
- 削除確認画面で、▶ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。

🗑ボタン

再生メニュー［削除］

再生メニューの［**削除**］では次の方法で、複数の画像を一度に削除できます：

- 複数の画像を選んで削除する：選択画像削除（🕮106）
- 同じ日付の画像をまとめて削除する：日付選択（🕮107）
- 全画像を一括で削除する：全画像削除（🕮105）

GUIDE（ガイド）モードを使う

ガイドメニュー

GUIDEモードでは、よく使う機能や使うと便利な機能を液晶モニターに表示されるガイドメニューを使って設定できます。カメラ上面のモードダイヤルをGUIDEに合わせると、次のようなガイドメニューのトップ画面を表示します。

次の各ガイドメニューを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます。

撮る	見る・消す	設定する
状況や被写体に合わせて撮影できるようにカメラを設定できます。	撮影した画像を確認したり、不要な画像を削除できます。	よく使う機能や使うと便利な機能の設定を変更できます。

✓ ガイドモード操作時のご注意

- 次の場合は、［**おまかせで撮る**］の設定になります。
  - 電源をOFFにしてもう一度ONにしたとき
  - モードダイヤルをGUIDEに合わせてから、何も設定しないで撮影するとき
  - 他のモードに切り換えてからGUIDEモードに戻ったとき
- ガイドメニューの操作の途中で液晶モニターが消えたときは、MENU ボタンを押すとガイドメニューのトップ画面に戻ります。液晶モニターの表示時間を長くしたい場合は、［**設定する**］の［**パワーオフ時間**］で設定できます。

GUIDEモードでの操作方法

操作		説明
項目を選ぶ		マルチセレクターの▲と▼を使って項目を選択します。
		右のような画面のときは、マルチセレクターの▲▼◀▶を使って項目を選択します。
選んだ項目を設定する		㊍ボタンを押します。
前の画面に戻る		マルチセレクターの◀を押します。
		右のような画面のときに、項目を選択せず前の画面に戻りたいときは、⮌を選んで㊍ボタンを押します。
ガイドメニューのトップ画面を表示する	MENUボタン	MENUボタンを押します。
項目のヘルプ（説明）を見る	?（⊖⊞）ボタン	画面に?アイコンが表示されているときに?（⊖⊞）ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）が表示されます。 • 説明が 2 ページ以上ある場合は、?（⊖⊞）ボタンを押しながらマルチセレクターの▼を押して、次のページを表示してください。 • ?（⊖⊞）ボタンを放すと、前の画面に戻ります。 ?アイコン

G

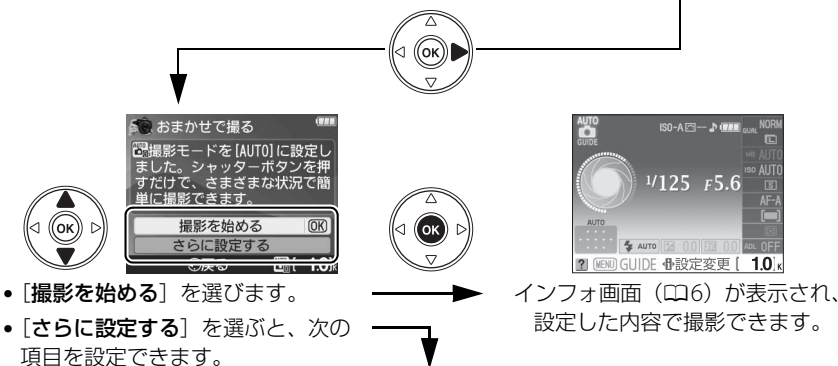
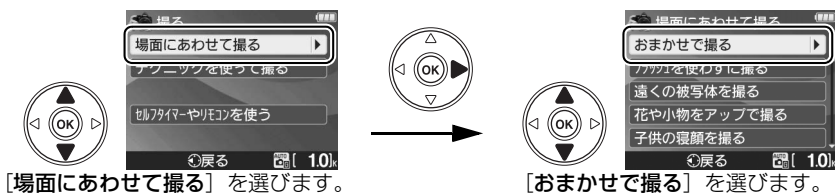
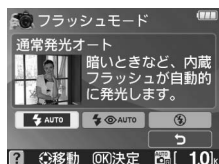
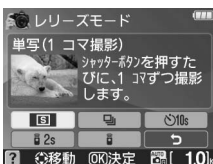
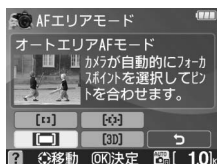
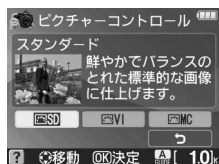
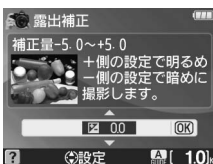
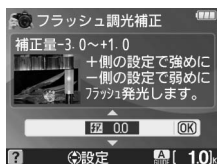
撮る：GUIDEモードで撮影する

ガイドメニューのトップ画面で［**撮る**］を選んで㊞ボタンを押します。

トップ画面

［**撮る**］メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目		
場面にあわせて撮る		
	AUTO	おまかせで撮る
		フラッシュを使わずに撮る
		遠くの被写体を撮る
		花や小物をアップで撮る
		子供の寝顔を撮る
		動く被写体を撮る
		風景や街並みを撮る
		ポートレートを撮る
		夜景をバックに人物を撮る
テクニックを使って撮る		
	A GUIDE	背景をぼかして撮る • 絞り値を設定して撮影します。
	S GUIDE	人物の動きを止めて撮る • シャッタースピードを設定して撮影します。 乗物の動きを止めて撮る • シャッタースピードを設定して撮影します。
セルフタイマーやリモコンを使う		
	S	単写（1コマ撮影）
		連写（連続撮影）
	10s	セルフタイマー（10 秒）
	2s	2 秒リモコン
		瞬時リモコン

■手順例：「撮影時の設定をカメラにまかせて撮影したいとき」

※1 1つ前の画面で設定した内容によって設定できる内容が異なります。

※2［**テクニックを使って撮る**］を選んだ場合のみ設定できます。

GUIDE（ガイド）モード［撮る］について

- ［**場面にあわせて撮る**］で［**遠くの被写体を撮る**］、［**動く被写体を撮る**］、［**風景や街並みを撮る**］を選んだ場合、AF補助光（□43）を照射しません。また、内蔵フラッシュも発光しませんが、別売スピードライト（□180）を使うと、フラッシュ撮影できます。
- 被写体が暗すぎる場合は、［**撮影を始める**］を選んだ後、「ISO感度を設定する」（□63）の手順に従って、ISO感度を高くすることをおすすめします。

トップ画面に戻るには

ガイドメニューのトップ画面に戻るには、**MENU**ボタンを押します。

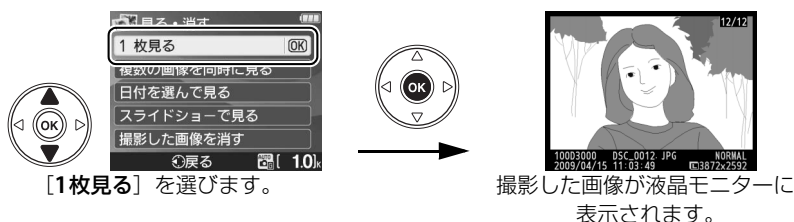
見る・消す：GUIDEモードで撮影した画像を見る/不要な画像を消す

ガイドメニューのトップ画面で［**見る・消す**］を選んでⓞⓚボタンを押します。

トップ画面

［**見る・消す**］メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目
1 枚見る
複数の画像を同時に見る
日付を選んで見る
スライドショーで見る
撮影した画像を消す

■■ 手順例：「撮影した画像を液晶モニターに表示したいとき」

［**1 枚見る**］を選びます。

撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

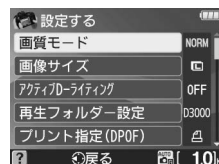
G

トップ画面に戻るには

ガイドメニューのトップ画面に戻るには、MENUボタンを押します。

設定する：GUIDEモードでカメラの設定を変える

ガイドメニューのトップ画面で［**設定する**］を選んで㊙ボタンを押します。

トップ画面

［**設定する**］メニューの項目は、次の通りです。GUIDEモードで設定した内容は、他の撮影モードには反映されません（［**再生フォルダー設定**］、［**プリント指定（DPOF）**］、［**カードの初期化（フォーマット）**］、［**ビデオ出力**］、［**地域と日時**］、［**言語（Language）**］、［**カードなし時レリーズ**］、［**Eye-Fi送信機能**］を除く）。

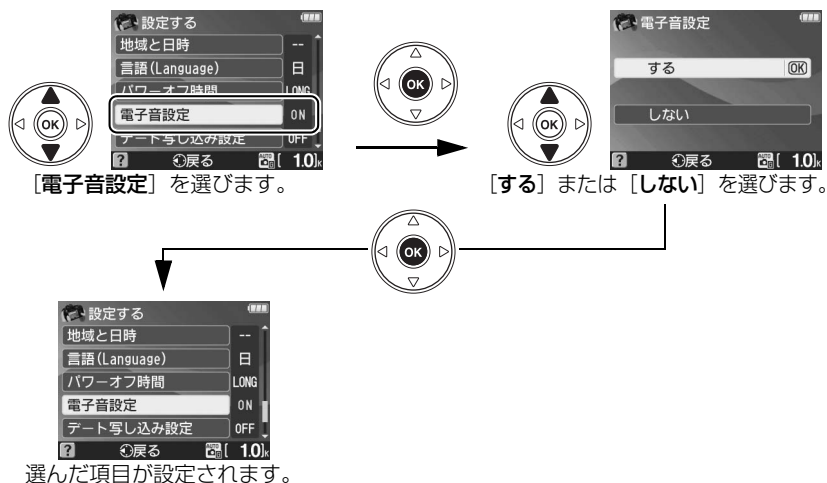
メニュー項目	メニュー項目	メニュー項目
画質モード	液晶モニターの明るさ	パワーオフ時間
画像サイズ	インフォ画面の背景色	電子音設定
アクティブD-ライティング	インフォ画面の自動表示	デート写し込み設定
再生フォルダー設定	ビデオ出力	カードなし時レリーズ
プリント指定（DPOF）	地域と日時	Eye-Fi送信機能※
カードの初期化（フォーマット）	言語（Language）	

※ この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます。

■手順例：「操作中に鳴る電子音の設定を変えたいとき」

［**電子音設定**］を選びます。

［**する**］または［**しない**］を選びます。

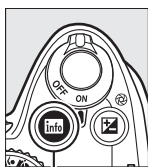
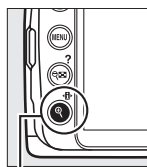
選んだ項目が設定されます。

> **トップ画面に戻るには**
>
> ガイドメニューのトップ画面に戻るには、MENUボタンを押します。

撮影機能を使いこなす
（すべての撮影モード）

ピントを自動で合わせる（オートフォーカス）

フォーカスモードを選ぶ

ピントの合わせ方を設定します。

1　インフォ画面で⟨i⟩ボタンを押す

2　［フォーカスモード］を選ぶ

- ［フォーカスモード］を選んでⓀボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいフォーカスモードを選ぶ

- Ⓞボタンを押して設定します。

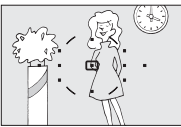
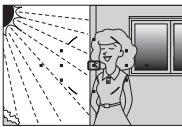
AF-A	**AFサーボモード自動切り換え**	被写体が静止しているときは［**AF-S**］、動いているときは［**AF-C**］に自動的に切り替わります。
AF-S※	**シングルAFサーボ**	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-C※	**コンティニュアスAFサーボ**	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。
MF	**マニュアルフォーカス**	手動でピントを合わせます（□49）。

※ 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で選べます。

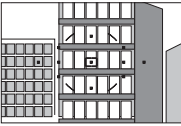
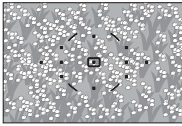
［AF-C］コンティニュアスAFサーボについてのご注意

［**AF-C**］は、シャッターチャンスを逃さないために、［**AF-S**］よりもシャッターのきれるピントの範囲が広くなっています。このため、ファインダー内のピント表示（●）が点灯する前にシャッターがきれることがあります。［**AF-A**］に設定していて自動的に［**AF-C**］に切り替わった場合でも、同様の動作をします。

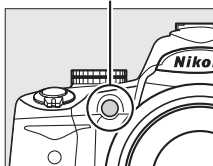
オートフォーカスの苦手な被写体

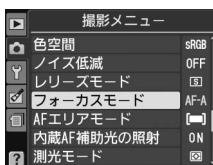
次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合っていなくても電子音が鳴ってピント表示（●）が点灯し、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカス（□49）でピントを合わせるか、フォーカスロック（□47）を利用してください。

被写体の明暗差がはっきりしない場合
（白壁や背景と同色の服をきている人物など）

被写体の明暗差が極端に異なる場合
（太陽を背景にした日陰の人物など）

フォーカスポイント内に遠くのものと近くのものが混在する被写体
（オリの中の動物など）

背景に対してメインの被写体が小さい場合
（遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など）

連続した繰り返しパターンの被写体
（ビルの窓など）

絵柄が細かい場合
（一面の花畑など）

AF補助光について

- 被写体が暗い場合などにシャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのために、AF補助光を自動的に照射します。
  ただし、次の場合は照射しません：
  - フォーカスモードが［**AF-C**］または［**MF**］のとき
  - 撮影メニュー［**内蔵AF補助光の照射**］（□132）を［**しない**］に設定しているとき
  - AF補助光が光らない撮影モードのとき（□197）
- 使用できるAFレンズの焦点距離は18mmから200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5mから3mです。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

撮影メニュー［フォーカスモード］

フォーカスモードは、メニュー操作でも設定できます（□128）。

関連ページ

撮影時の電子音を消す → ［**電子音設定**］（□144）

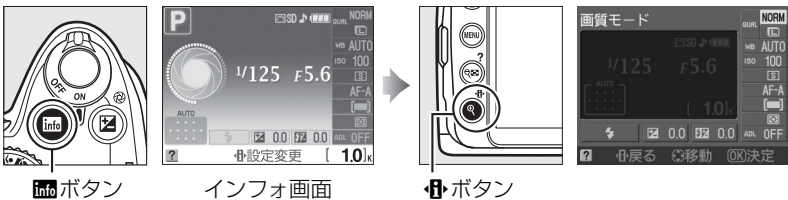
AFエリアモードを選ぶ

ピントを合わせるフォーカスポイントをカメラがどのように選択するかを設定します。

1 インフォ画面で[i]ボタンを押す

infoボタン

インフォ画面

[i]ボタン

2 ［AFエリアモード］を選ぶ

- ［**AFエリアモード**］を選んで OK ボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいAFエリアモードを選ぶ

- OK ボタンを押して設定します。

[ ] シングルポイントAFモード	フォーカスポイントを自分で選べます（□46）。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。静止している被写体の撮影に適しています。
[ ] ダイナミックAFモード	フォーカスポイントを選ぶのはシングルと同じですが、フォーカスモード（□42）が［**AF-A**］または［**AF-C**］のときに、選んだフォーカスポイントから被写体が一時的に外れてしまった場合でも、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を使ってピントを合わせます。不規則な動きをする被写体の撮影に効果的です。 • フォーカスモードが［**AF-S**］のときは、［**[ ] シングルポイントAFモード**］と同じ動作になります。
[ ] オートエリアAFモード	カメラが自動的に、全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。

3D- [3D] トラッキング（11点）※	フォーカスポイントを選ぶのはシングルと同じですが、フォーカスモード（□42）が［**AF-A**］または［**AF-C**］のときに、選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、構図の変化に合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えてピントを合わせ続けます（3D-トラッキング）。

※ フォーカスモードが［**AF-S**］のときは選べません。

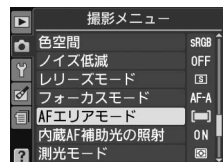
AFエリアモードの設定について

P、**S**、**A**、**M**以外の撮影モードで設定したAFエリアモードは、撮影モードを切り換えると、リセットされます。

3D-トラッキング（11点）について

- ［**[3D] 3D-トラッキング（11点）**］では、半押ししていったんピントが合った時に選択したフォーカスポイント周辺の色を背景の色も含めて記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていると、うまく作動しない場合があります。
- 素早い動きをする被写体などの場合、カメラが途中で被写体を見失ってしまうときがあります。その場合、いったんシャッターボタンを放して、もう一度被写体にフォーカスポイントを合わせてください。

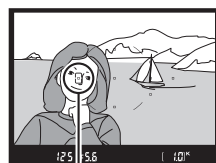
撮影メニュー［AFエリアモード］

AFエリアモードは、メニュー操作でも設定できます（□128）。

フォーカスポイントを自分で選ぶ

このカメラには、11点のフォーカスポイント（自動でピント合わせを行う領域）があります。フォーカスポイントを自分で選ぶことで、構図を自由に変えられます。

1 **[[▬] オートエリアAFモード] 以外のAFエリアモードを選ぶ**（□44）

2 **ファインダーをのぞきながらマルチセレクターの▲▼◀▶でフォーカスポイントを選ぶ**

- ファインダー内で、フォーカスポイントが移動します。
- ㊉ボタンを押すとフォーカスポイントは中央に移動します。
- 選んだフォーカスポイントは、インフォ画面でも確認できます。

フォーカスポイント

フォーカスロック撮影

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らない場合や、オートフォーカスが苦手な被写体（□42）を撮影する場合には、ピントを固定（フォーカスロック）して撮影すると効果的です。

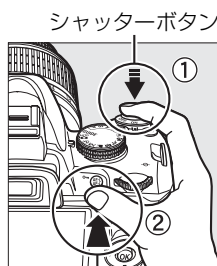
フォーカスロックを行う前に、AFエリアモード（□44）を［**[■] オートエリアAFモード**］以外に設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

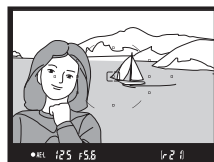
2 ピントを固定する

フォーカスモード（□41）が［AF-A］または［AF-C］のとき：

- シャッターボタンを半押ししたまま（①）、AE/AFロックボタンを押すと（②）、ピントが固定されます。AE/AFロックボタンを押している間は、シャッターボタンから指を放しても、ピントと露出が固定されます。
- AE/AFロックボタンを押している間、ファインダー内には**AE-L**マークが点灯します。

フォーカスモード（□41）が［AF-S］のとき：

- シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。AE/AFロックボタンでフォーカスロックとAEロックを行うこともできます。

3 フォーカスロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する

- 被写体との距離は変えないでください。フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。

■ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

AE/AFロックボタンでフォーカスロックを行った場合は、AE/AFロックボタンを押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

関連ページ

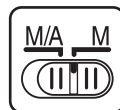
AE/AFロックボタンを押したときの動作を変更する → [**ボタン動作のオプション**]の[**AE/AFロックボタンの機能**](148)

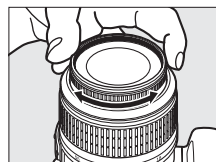
ピントを手動で合わせる（マニュアルフォーカス）

ピントを手動で合わせたいときや、オートフォーカスが使えない場合、オートフォーカスの苦手な被写体の場合には、マニュアルフォーカスでピントを合わせられます。

1 レンズ側のフォーカスモードをM（マニュアルフォーカス）にする

A-M切り換えスイッチ

フォーカスモード
切り換えスイッチ

2 ピントを合わせる

- レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体がはっきり見えるようにピントを合わせます。

AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VRについて（□215）

使用説明書で使用しているAF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VRはAF-Sレンズです。レンズのA-M切り換えスイッチを**M**にするだけでマニュアルフォーカスができます。

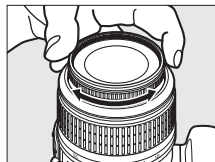
M/A（マニュアル優先オートフォーカス）機能付きレンズについて

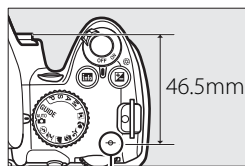
M/A（マニュアル優先オートフォーカス）モード機能付きのレンズをお使いの場合は、フォーカスモード（□42）で［**MF**］（マニュアルフォーカス）を選んでもマニュアルフォーカスになります。レンズ側のフォーカスモードを切り換える必要はありません。

▌フォーカスエイドによるピント合わせ

開放F値がF5.6以上明るいレンズ（絞りの最も小さい数値がF5.6以下のレンズ）を使ってマニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内のピント表示（●）でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは11カ所から選べます。

- ピントが合うとピント表示（●）が表示されます（□5）。

- オートフォーカスの苦手な被写体（□42）では、ピントが合っていなくてもピント表示（●）が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。

距離基準マーク

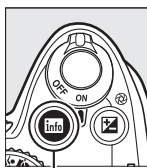
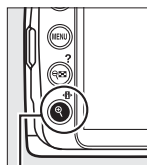
距離基準マーク ⊖ は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。

関連ページ

マニュアルフォーカス時のピントのズレ具合をファインダーで確認できるようにする → **[ファインダー表示の設定]** の **[フォーカスエイドインジケーター]**（□145）

画質や画像のサイズを変更する

画質モードを設定する

画像を記録するときのファイル形式と画質を設定できます。

1 インフォ画面で ⓘ ボタンを押す

info ボタン　インフォ画面　ⓘ ボタン

2 ［画質モード］を選ぶ

- ［**画質モード**］を選んでⓄⓚボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したい画質モードを選ぶ

- Ⓞⓚボタンを押して設定します。

画質モード		ファイル形式	説明
RAW		NEF	撮像素子の生データ（12bit圧縮RAW形式）を記録します。画像をパソコンに転送して加工したり、パソコンを使ってプリントする場合などに適しています。
FINE	**高**	JPEG	「NORMAL」よりも精細な画質になります。画像データは約1/4に圧縮されます。
NORM	**画質**	JPEG	画像データは約1/8に圧縮されます。
BASIC	**低**	JPEG	ファイルサイズが最も小さく、電子メールに添付する場合などに適しています。画像データは約1/16に圧縮されます。
RAW+B		NEF+JPEG	RAWとJPEG（BASIC）の2種類の画像を同時に記録します。

「RAW」についてのご注意

- 現像には画像編集メニューの［**RAW現像**］（□167）、または付属のソフトウェアViewNXや別売のCapture NX 2（□186）を使います。ViewNXは付属のSoftware Suite CD-ROMを使ってインストールできます。
- RAWやRAWを含む画質モードに設定すると、次の機能は使用できません。
  - セットアップメニュー［**デート写し込み設定**］（□149）
  - ［**画像サイズ**］（□53）

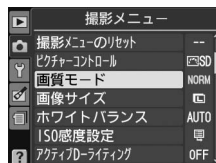
RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- カメラでの再生時には、JPEG画像だけが表示されます。
- JPEG画像をカメラ上で削除すると、同時記録されたRAW画像も削除されます。

ファイル名について

- このカメラで撮影した画像には、DSC_nnnn.xxx という名前が付けられます。nnnn には撮影順に0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
  - NEF：RAWの場合
  - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
  - NDF：イメージダストオフデータの場合（□141）
- ［**RAW＋B**］で撮影した場合、ファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF（RAW画像）とJPG（BASIC画像）になります。
- 画像編集メニューの［**スモールピクチャー**］（□163）で作成したスモールピクチャーのファイル名は「SSC_nnnn」、拡張子は「JPG」となります。
- 画像編集メニューの［**ストップモーション作成**］（□169）で作成した動画ファイルのファイル名は「ASC_nnnn」、拡張子は「AVI」となります。
- ［**スモールピクチャー**］、［**ストップモーション作成**］以外の画像編集メニューで作成した画像のファイル名は「CSC_nnnn」、拡張子は「JPG」となります。
- 撮影メニューの［**色空間**］（□131）を［**Adobe RGB**］にした場合は、ファイル名が「_DSCnnnn」（または「_CSCnnnn」、「_SSCnnnn」）となります。

撮影メニュー［画質モード］

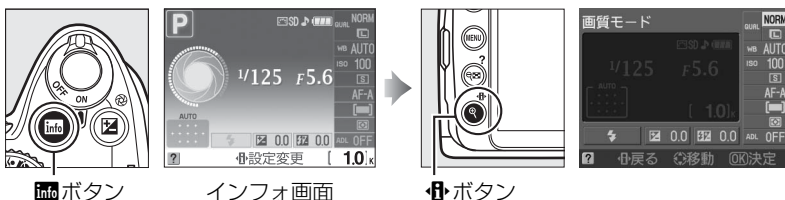
画質モードは、メニュー操作でも設定できます（□128）。

関連ページ

- **Fn**（Ò）ボタンとコマンドダイヤルの操作で、画質モードと画像サイズの組み合わせを切り換えられるようにする　→　Y［**ボタン動作のオプション**］の［**Ò/Fnボタンの機能**］（□147）
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」（□198）

画像サイズを設定する

画像を記録するときのファイルサイズを設定できます。

1 インフォ画面で i ボタンを押す

info ボタン　　インフォ画面　　i ボタン

2 ［画像サイズ］を選ぶ

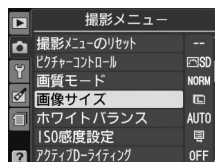
- ［**画像サイズ**］を選んでOKボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したい画像サイズを選ぶ

- OKボタンを押して設定します。

画像サイズ		画像の大きさ	プリント時の大きさ（出力解像度200dpiの場合）
L	大	3872×2592ピクセル	約49.2×32.9cm
M	サイズ	2896×1944ピクセル	約36.8×24.7cm
S	小	1936×1296ピクセル	約24.6×16.5cm

撮影メニュー［画像サイズ］

画像サイズは、メニュー操作でも設定できます（□128）。

関連ページ

- **Fn**（セルフタイマー）ボタンとコマンドダイヤルの操作で、画質モードと画像サイズの組み合わせを切り換えられるようにする → ［**ボタン動作のオプション**］の［**/Fnボタンの機能**］（□147）
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」（□198）

単写、連写、セルフタイマー、リモコンモードで撮影する（レリーズモード）

シャッターをきる（レリーズする）ときの動作を設定できます。

1 インフォ画面で🅸ボタンを押す

infoボタン　インフォ画面　🅸ボタン

2 ［レリーズモード］を選ぶ

- ［**レリーズモード**］を選んでOKボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいレリーズモードを選ぶ

- OKボタンを押して設定します。

S	単写（1コマ撮影）	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影できます。	—
⧉	連写（連続撮影）	シャッターボタンを全押ししている間、約3コマ/秒で連続撮影（連写）できます。	—
⏲	セルフタイマー	シャッターボタンを全押しするとセルフタイマーが作動し、10秒後にシャッターがきれます。記念撮影などに便利です。	🕮56
2s	2秒リモコン	リモコンの送信ボタンを押すと、2秒後にシャッターがきれます。別売のリモコンML-L3（🕮186）が必要です。	🕮56
	瞬時リモコン	リモコンの送信ボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。別売のリモコンML-L3（🕮186）が必要です。	🕮56

連続撮影についてのご注意

- 内蔵フラッシュが発光するときは、連続撮影はできません。連続撮影するには、撮影モードを⊛（発光禁止オート）（□25）にするか、フラッシュモード（□60）を⊛にしてください。
- 連続撮影が終了しても、SDカードの性能や撮影条件によっては、最大で1分間程度、SDカードアクセスランプが点灯し続ける場合があります。
- 連続撮影中にバッテリーの残量がなくなった場合は、連続撮影は中止され、撮影済みの画像データがSDカードに記録されて電源がOFFになります。

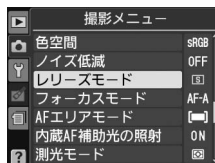
連続撮影可能コマ数の表示

- シャッターボタンを押している間、r と連続撮影可能コマ数（連続撮影速度を維持したまま続けて撮影できるコマ数）が、ファインダー内に表示されます。右図の場合、連続撮影速度を維持したままで、あと最低21コマ続けて撮影できることを示しています。
- 連続撮影は最大100コマまでできます。ただし、[r00] になったときは、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。

連続撮影時の構図の縦位置・横位置情報について

縦位置・横位置に関する情報は、連続撮影開始時の情報が記録されます。連続撮影中に構図を変えても、反映されませんのでご注意ください。

撮影メニュー［レリーズモード］

レリーズモードは、メニュー操作でも設定できます（□128）。

関連ページ

- **Fn**（⏲）ボタンとコマンドダイヤルの操作で、レリーズモードを切り換えられるようにする → Y［**ボタン動作のオプション**］の［**⏲/Fnボタンの機能**］（□147）
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」（□198）

セルフタイマーやリモコンを使って撮影する

記念写真など、自分も一緒に写りたいときは、セルフタイマーや別売のリモコンML-L3（□186）をお使いください。

1 三脚などでカメラを固定する

2 ［レリーズモード］で［ セルフタイマー］、［ 2s 2秒リモコン］、［ 瞬時リモコン］のいずれかを選ぶ（□54）

3 構図を決める

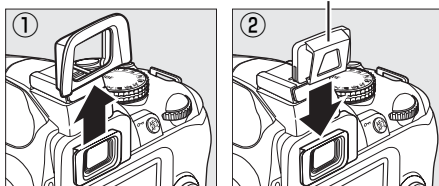
- リモコン使用時にオートフォーカスでピントを合わせるときは、ここでカメラのシャッターボタンを半押しすると、あらかじめピントを合わせておくことができます（このとき全押ししても、シャッターはきれません）。

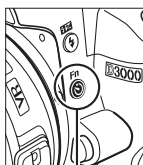
リモコンをはじめてお使いになるときのご注意

リモコンにはさんである透明の絶縁シートを引き抜いてください。

アイピースキャップについて

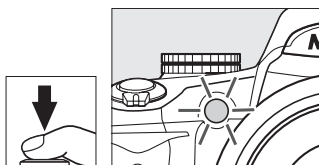
カメラから離れて撮影するときは、ファインダーから余計な光が入って露出が変わることを防ぐために、付属のアイピースキャップDK-5を取り付けます。アイピースキャップは、接眼目当てDK-20を取り外し（①）、右図のように取り付けます（②）。接眼目当てを取り外すときは、カメラをしっかりと支えてください。

アイピースキャップDK-5

ボタン

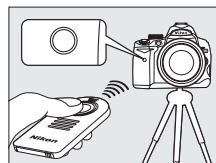
セルフタイマーは、ボタンを押して設定することもできます（□147）。

ボタン

4 撮影をはじめる

セルフタイマー撮影の場合：

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、全押ししてください。タイマーが作動し、電子音が鳴り始め、セルフタイマーランプが点滅します。撮影2秒前になると点滅から点灯に変わり、電子音が鳴る間隔が短くなります。

- ピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではタイマーは作動しません。

リモコン撮影の場合：

- 5m以内の距離から、リモコン送信部をカメラのリモコン受光部に向け、送信ボタンを押してください。
- 手順2でリモコンモードを選んでから、リモコン撮影をしないまま約5分間の受信待機時間が経過すると、リモコンモードが解除され、［S **単写（1コマ撮影）**］または ［**連写（連続撮影）**］モードに戻ります。

5 シャッターがきれる

セルフタイマー撮影の場合：

- シャッターボタンを全押ししてから約10秒後にシャッターがきれます。

リモコン撮影の場合：

- ［2s **2秒リモコン**］の場合、セルフタイマーランプが約2秒間点灯してからシャッターがきれます。
- ［**瞬時リモコン**］の場合、すぐにシャッターがきれ、撮影後にセルフタイマーランプが一瞬点灯します。
- ピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態では撮影できないことがあります。

セルフタイマー、リモコン撮影時のフラッシュについて

- 内蔵フラッシュが発光する撮影モード（□59、**P**、**S**、**A**、**M**を除く）では、リモコンの受信待機状態になるとフラッシュの充電が始まり、充電完了後にリモコンの送信ボタンを押すと、必要に応じて内蔵フラッシュが自動的に上がり発光します。フラッシュの充電中にリモコンの送信ボタンを押しても、カメラは反応しません。しばらく待ってから送信ボタンを押してください。
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**でフラッシュを使って撮影したいときは、撮影を開始する前に⚡ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内の⚡が点灯するまでお待ちください（□61）。セルフタイマーの作動中や2秒リモコンモードでリモコンの送信ボタンを押した後にフラッシュを上げると、撮影は中止されます。
- ［**瞬時リモコン**］の場合、赤目軽減発光（□61）を組み合わせたフラッシュモードでは、赤目軽減ランプが約1秒間点灯してからシャッターがきれます。［**2s 2秒リモコン**］の場合、セルフタイマーランプが約2秒間点灯した後、赤目軽減のために赤目軽減ランプが約1秒間点灯してからシャッターがきれます。

セルフタイマー、リモコン撮影の解除について

作動中のタイマーまたはリモコンの待機状態を解除するには、電源をOFFにしてください。電源をOFFにすると、レリーズモードは、[**S 単写（1コマ撮影）**] または [**連写（連続撮影）**] モードに戻ります。

関連ページ

- セルフタイマーの作動時間を変更する → ［**セルフタイマー時間**］（□143）
- リモコン撮影の受信待機時間を変更する → ［**リモコン待機時間**］（□143）
- セルフタイマー、リモコン撮影時の電子音を消す → ［**電子音設定**］（□144）

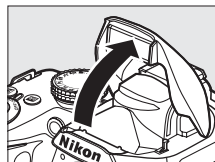
内蔵フラッシュを使う

撮影状況に合わせて、カメラの内蔵フラッシュを発光させたり、発光方式（フラッシュモード）を切り換えたりすることで、暗い場所や逆光下など、様々な場所での撮影を楽しむことができます。

撮影モード、、、、の場合

1 フラッシュモードを設定する（60）

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから撮影する

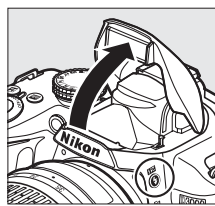
暗いときや逆光のときなど、必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がり、発光します。フラッシュが不要な場合はフラッシュは上がらず、発光しません。内蔵フラッシュを発光させたくないときは、フラッシュモードを発光禁止にしてください（60）。

撮影モードP、S、A、Mの場合

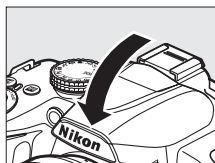
1 ボタンを押して、内蔵フラッシュを手動で上げる※

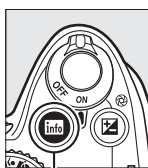
ボタン

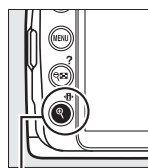
2 フラッシュモードを設定する（60）

3 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから撮影する

※内蔵フラッシュを上げているときは、周囲の明るさなどにかかわらず、フラッシュは常に発光します。発光させないようにするには、内蔵フラッシュを収納してください。

内蔵フラッシュの収納

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、フラッシュを使わないときは常に収納してください。

フラッシュモードを設定する

1 インフォ画面で ボタンを押す

ボタン

インフォ画面

ボタン

2 ［フラッシュモード］を選ぶ

- ［フラッシュモード］を選んで OK ボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいフラッシュモードを選ぶ

- OK ボタンを押して設定します。

- 設定できるフラッシュモードは、撮影モードによって異なります。

撮影モード AUTO、、、	
AUTO	通常発光オート（自動発光）
AUTO	赤目軽減オート（自動発光）
	発光禁止

撮影モード	
AUTO SLOW	赤目軽減オート（自動発光）＋スローシャッター
AUTO SLOW	通常発光オート（自動発光）＋スローシャッター
	発光禁止

撮影モードP、A	
	通常発光
	赤目軽減発光
SLOW	赤目軽減発光＋スローシャッター
SLOW	通常発光＋スローシャッター
REAR※	後幕発光＋スローシャッター

※ フラッシュモードを設定すると、SLOW の文字も表示されます。

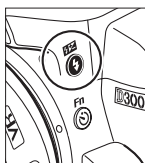
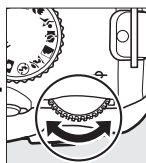
撮影モードS、M	
	通常発光
	赤目軽減発光
REAR	後幕発光

- 各フラッシュモードのアイコンの意味は次の通りです。
  - **AUTO 通常発光オート（自動発光）**：暗いときや逆光のときに、自動的に内蔵フラッシュが上がり、必要に応じて発光します。
  - **◉ 赤目軽減発光**：人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。
  - **⊘ 発光禁止**：暗いときや逆光のときでも、内蔵フラッシュは発光しません。
  - **SLOW スローシャッター**：夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードが遅くなります。
  - **REAR 後幕発光**：通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光します（先幕発光）が、後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したい場合などに適しています。

先幕発光

後幕発光

コマンドダイヤルでの設定方法

- フラッシュモードは、コマンドダイヤルを使って変更することもできます。⚡ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面のフラッシュモード表示が変わります。
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**では、⚡ボタンを押すと内蔵フラッシュが上がるので、⚡ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回してください。

⚡ボタン　コマンドダイヤル

内蔵フラッシュについてのご注意

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、カメラを被写体から60cm以上離してください。
- 内蔵フラッシュ撮影が可能なレンズについては□178をご覧ください。フラッシュの光がさえぎられることがあるので、レンズフードは取り外してください。また、マクロ付きズームレンズのマクロ領域ではお使いになれません。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するために、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。

内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限について

内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限は、次のようになります。

AUTO、, 、, 、P、A	1/200～1/60秒
	1/200～1/125秒
	1/200～1秒

S	1/200～30秒
M	1/200～30秒、Blub

内蔵フラッシュの調光範囲（光の届く範囲）

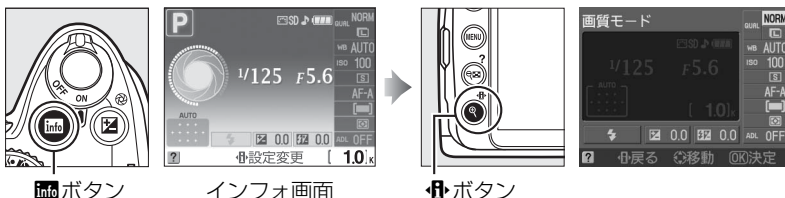
内蔵フラッシュはISO感度と絞り値によって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度および絞り値					調光範囲（m）
100	200	400	800	1600	
1.4	2	2.8	4	5.6	約1～8.5
2	2.8	4	5.6	8	約0.7～6.0
2.8	4	5.6	8	11	約0.6～4.2
4	5.6	8	11	16	約0.6～3.0
5.6	8	11	16	22	約0.6～2.1
8	11	16	22	32	約0.6～1.5
11	16	22	32	—	約0.6～1.1
16	22	32	—	—	約0.6～0.7

※内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は0.6mです。

ISO感度を設定する

暗い場所で撮影するときは、シャッタースピードが遅くなり手ブレしやすくなりますが、ISO感度を標準（ISO 100相当）よりも高くすれば、シャッタースピードが速くなり、手ブレしにくくなります。

1 インフォ画面で⊕ボタンを押す

2 ［ISO感度］を選ぶ

- ［**ISO感度**］を選んでOKボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいISO感度を選ぶ

- OKボタンを押して設定します。
- 設定できるISO感度は、撮影モードによって異なります。

P、S、A、M以外の撮影モード	AUTO、100～1600（1段刻みで設定できます）、Hi 1
P、S、A、M	100～1600（1段刻みで設定できます）、Hi 1

- ［**AUTO**］ではカメラが自動的にISO感度を決めます。
- ［**Hi 1**］（ISO 3200相当）で撮影した画像には、ざらつきや色むらが特に発生しやすくなります。

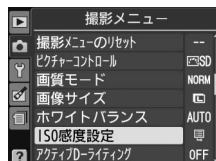
ISO感度とは

フィルムカメラで使うフィルムのISO感度に相当します。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。このため、暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的ですが、一方で、撮影した画像が多少ざらつく場合があります。

ISO感度についてのご注意

［**ISO感度**］を［**AUTO**］にしてから撮影モードを**P**、**S**、**A**、**M**のいずれかに切り換えた場合は、以前に設定したISO感度に戻ります。

撮影メニュー［ISO感度設定］

ISO感度は、メニュー操作でも設定できます（□128）。

関連ページ

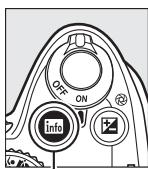
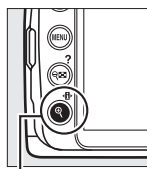
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**でISO感度を自動制御する → ［**感度自動制御**］（□129）
- 高感度撮影時のノイズを低減する → ［**ノイズ低減**］（□132）
- **Fn**（セルフタイマー）ボタンとコマンドダイヤルの操作で、ISO感度を切り換えられるようにする → ［**ボタン動作のオプション**］の［**セルフタイマー/Fnボタンの機能**］（□147）

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する
(アクティブD-ライティング)

撮影前にあらかじめ［**アクティブD-ライティング**］を［**ON する**］に設定しておくと、被写体に応じてカメラが自動でアクティブD-ライティングを行います。アクティブD-ライティングを行うと、ハイライト部の白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の大きい景色を撮影するのに効果的です。アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードを［**マルチパターン測光**］に設定して撮影することをおすすめします（□75）。

アクティブD-ライティング
［OFF しない］

アクティブD-ライティング
［ON する］

1 インフォ画面で ボタンを押す

info ボタン　インフォ画面　ボタン

2 ［アクティブD-ライティング］を選ぶ

- ［**アクティブD-ライティング**］を選んで OK ボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 ［ON する］を選ぶ

- OK ボタンを押して設定します。

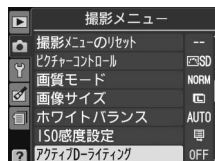
✓ アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブD-ライティングで撮影すると、記録に時間がかかります。
- アクティブD-ライティングを設定して高感度で撮影をするとき、撮影シーンによっては、ざらつき、すじ、むらが強調される場合があります。

✓ [アクティブD-ライティング]と画像編集メニュー[D-ライティング]の違い

[**アクティブD-ライティング**]を設定してから撮影すると、撮影シーンに応じて露出や階調を制御し、ハイライト部やシャドー部および中間調を適切に調整して画像を記録します。一方、[**D-ライティング**]は、撮影済みの画像に対して、階調を再調整してシャドー部を明るく補正します。

撮影メニュー[アクティブD-ライティング]

アクティブD-ライティングは、メニュー操作でも設定できます(□128)。

関連ページ

Fn(⏲)ボタンとコマンドダイヤルの操作で、アクティブD-ライティングの設定を切り換えられるようにする → [**ボタン動作のオプション**]の[**⏲/Fnボタンの機能**](□147)

P、S、A、Mモードで撮影する

撮影モードP、S、A、Mを使う

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**では、撮影の意図に応じて、シャッタースピードと絞り値のそれぞれを自分で設定したり、カメラまかせにしたりすることができます。

P	**プログラムオート** **（□68）**	シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S	**シャッター優先オート** **（□69）**	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A	**絞り優先オート** **（□70）**	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M	**マニュアル（□71）**	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。

☑ レンズの絞りリングについて

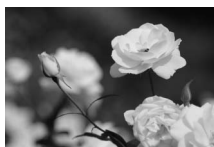
CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリング（□176）は、必ず最小絞り（一番大きい数値）にセットしてください。

露出について

シャッタースピードと絞り値を調整して、画像を意図した明るさ（露出）で撮影することを、「露出を合わせる」といいます。同じ露出の画像でも、シャッタースピードと絞り値の組み合わせによって、撮影される画像の流動感や背景のぼかし具合などが変わってきます。

シャッタースピード　　絞り値

速いシャッタースピードのとき
シャッタースピード：1/1600秒

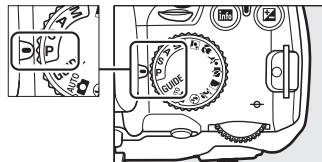
遅いシャッタースピードのとき
シャッタースピード：1秒

絞りを開いたとき
（絞り値が小さいとき）
絞り値：F5.6

絞りを絞り込んだとき
（絞り値が大きいとき）
絞り値：F22

P：プログラムオートでの撮影方法

被写体の明るさに応じて、露出が適正になるようにカメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。シャッターチャンスを逃したくないスナップなど幅広い撮影に適しています。

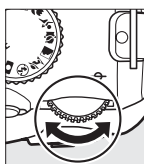
1 モードダイヤルをPに合わせる

モードダイヤル

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

プログラムシフト

撮影モードPの撮影時にコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。プログラムシフト中はファインダー内とインフォ画面に P* （P*）マークが点灯します。

コマンドダイヤル

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さくしたい）場合や動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードにしたい）場合にはコマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きくしたい）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードにしたい）場合にはコマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク P* が消灯するまでコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたときや、他の撮影モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

関連ページ

「プログラム線図」（□199）

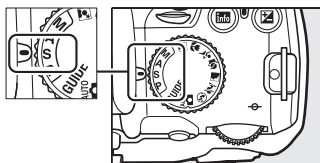
S：シャッター優先オートでの撮影方法

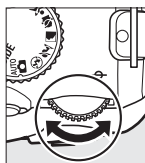
シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。

速いシャッタースピードのとき
シャッタースピード：1/1600秒

遅いシャッタースピードのとき
シャッタースピード：1秒

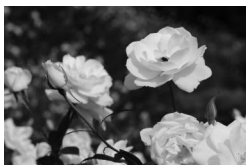
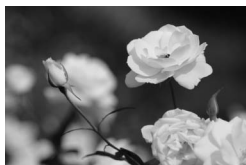
1 モードダイヤルをSに合わせる

モードダイヤル

2 シャッタースピードを設定する

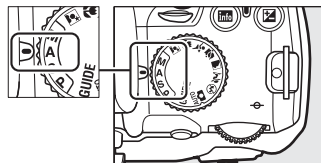
- シャッタースピードは、ファインダー内とインフォ画面に表示されます。コマンドダイヤルを回して設定したいシャッタースピード（1/4000秒〜30秒）に合わせてください。

コマンドダイヤル

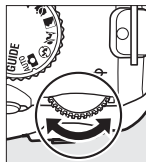
3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

A：絞り優先オートでの撮影方法

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）と、近くから遠くまでピントのあった写真を撮影できます（例：風景写真）。絞りを開く（絞り値を小さくする）と、背景をぼかしてメインとなる被写体を浮き立たせた写真を撮影できます（例：ポートレート写真）。

絞りを絞り込んだとき
（絞り値が大きいとき）
絞り値：F22

絞りを開いたとき
（絞り値が小さいとき）
絞り値：F5.6

1 モードダイヤルをAに合わせる

モードダイヤル

2 絞り値を設定する

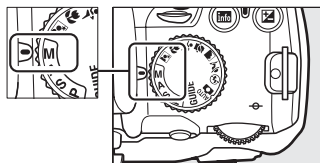
- 絞り値は、ファインダー内とインフォ画面に表示されます。コマンドダイヤルを回して設定したい絞り値に合わせてください。
- 設定できる最小絞り、開放絞りはレンズによって異なります。

コマンドダイヤル

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

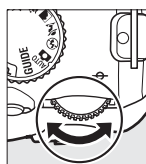
M：マニュアルでの撮影方法

シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ撮影、タイム撮影 73）で撮影する場合にもこの撮影モードを使います。

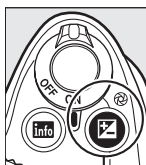
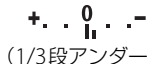
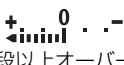
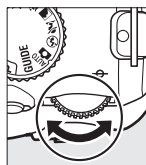
1 モードダイヤルをMに合わせる

モードダイヤル

2 露出インジケーター（72）を確認しながら、シャッタースピードと絞り値を設定する

シャッタースピードの設定：

- コマンドダイヤルを回すと、ファインダー内とインフォ画面のシャッタースピード表示が変わります。設定したいシャッタースピード（1/4000秒～30秒またはBulb 73）に合わせてください。

コマンド
ダイヤル

絞り値の設定：

- （）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ファインダー内とインフォ画面の絞り値表示が変わります。設定したい絞り値に合わせてください。
- 設定できる最小絞り、開放絞りはレンズによって異なります。

（）ボタン

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

露出インジケーターについて

設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した露出値との差が、ファインダー内とインフォ画面に表示されます。この「露出インジケーター」の見方は次の通りです。

表示	内容
+. . 0 . .-	適正露出
+. . 0 . .- （1/3段アンダー）	インジケーターが－側に振れているときは画像が適正露出よりも暗いことを意味しています。
+. . 0 . .- （2段以上オーバー）	インジケーターが＋側に振れているときは画像が適正露出よりも明るいことを意味しています。

- 被写体が明るすぎ、または暗すぎてカメラの測光範囲を超えた場合は、露出インジケーターが点滅します。
- 長時間露出（バルブ、タイム）撮影時（◻73）と非CPUレンズ使用時は、露出インジケーターは表示されません。

長時間露出で撮影する（撮影モードMのみ）

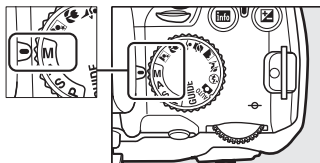
長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、天体写真の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。長時間露出撮影には、手ブレを抑えるために三脚や別売のリモコンML-L3（□186）が必要です。

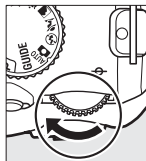
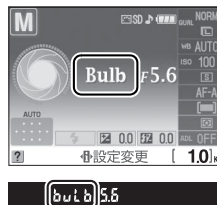
シャッタースピードを35秒、
絞り値をF25にして撮影した場合の画像

バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。
タイム撮影	別売のリモコンを使って撮影します。リモコンの送信ボタンを一度押すとシャッターが開いたままになり、もう一度押すとシャッターが閉じます。

1 **三脚などを使ってカメラを固定する**

2 **モードダイヤルをMに合わせる**

モードダイヤル

3 **コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードをBulbに設定する**

- タイム撮影の場合は、シャッタースピードを**Bulb**にしてからレリーズモード（□54）を［**2s 2秒リモコン**］または［**瞬時リモコン**］にしてください。シャッタースピードの表示が**Time**（ファインダー内表示は- -）に変わります。

コマンド
ダイヤル

4 ピントを合わせて、長時間露出撮影を開始する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを全押しして、長時間露出撮影を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。

タイム撮影：

- リモコンの送信ボタンを押すと、2秒後または瞬時にシャッターが開き、長時間露出撮影を開始します。

5 長時間露出撮影を終了する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを放すと、長時間露出撮影は終了します。

タイム撮影：

- リモコンの送信ボタンをもう一度押すと、長時間露出撮影を終了します。ただし、シャッターは、開いてから約30分経つと自動的に閉じます。

シャッタースピードをBulbにしてセルフタイマー撮影をした場合

撮影モード**M**でシャッタースピードをバルブにしてセルフタイマー撮影を行うと、シャッタースピードは約1/10秒になります。

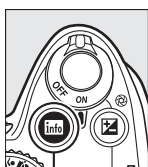
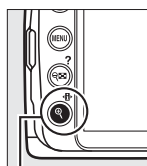
長時間露出について

- 露光時間が長くなると、画像にノイズやむらが発生することがあります。このノイズやむらは、あらかじめ撮影メニューの［**ノイズ低減**］（□132）を［**する**］にしておくことで低減できます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリー EN-EL9a、または別売のパワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5aを組み合わせてお使いになることをおすすめします。

明るさを測る方法を設定する（測光モード）

測光モードを選ぶ

適正な露出を得るためにカメラが被写体の明るさを測る方法（測光モード）を設定します。**P**、**S**、**A**、**M**以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適した測光モードが自動的に選ばれます。

1 インフォ画面で i ボタンを押す

info ボタン　　インフォ画面　　i ボタン

2 ［測光モード］を選ぶ

- ［**測光モード**］を選んでOKボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したい測光モードを選ぶ

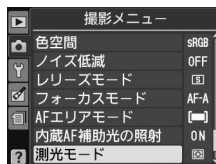
- OKボタンを押して設定します。

マルチパターン測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図など様々な情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
中央部重点測光	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。 • 露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。
スポット測光	選んだフォーカスポイントに重なる部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 • 測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、［**AFエリアモード**］（□44）が［**[■] オートエリアAFモード**］のときは、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。

マルチパターン測光について

このカメラは420分割RGBセンサーを搭載しています。GタイプまたはDタイプレンズ（□176）使用時は、このセンサーから得られる様々な情報を最大限に利用できる「3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ」という測光方式になります。その他のCPUレンズをお使いのときは、距離情報を考慮しない「RGBマルチパターン測光Ⅱ」という測光方式になります。

撮影メニュー［測光モード］

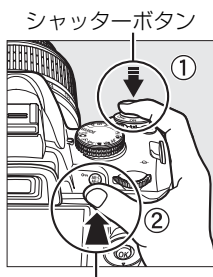
測光モードは、メニュー操作でも設定できます（□128）。

AEロック撮影

AEロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。

1 測光モードで［⊡ スポット測光］または［◎ 中央部重点測光］を選ぶ（□75）

- ［◙ マルチパターン測光］では、充分な効果が得られないため、おすすめできません。

2 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたままAE/AFロックボタンを押して、露出を固定（ロック）する

- AE/AFロックボタンを押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内に**AE-L**が点灯します。
- オートフォーカス撮影時は、ピントも同時にロックされるので、ピント表示（●）の点灯もご確認ください。

3 AE/AFロックボタンを押したまま、構図を決めて撮影する

AEとは

Automatic Exposureの略で、露出をカメラが自動的に制御する「自動露出」の意味です。AEによって決定された露出を固定することを「AEロック」といいます。

AEロック中のカメラ操作について

- AEロックしている間もコマンドダイヤルで次の操作ができます。

撮影モード	操作
P（プログラムオート）	プログラムシフト（□68）
S（シャッター優先オート）	シャッタースピードの変更
A（絞り優先オート）	絞り値の変更

- AEロック中は、測光モードは変更できません。

関連ページ

AEロックの操作方法を変更する

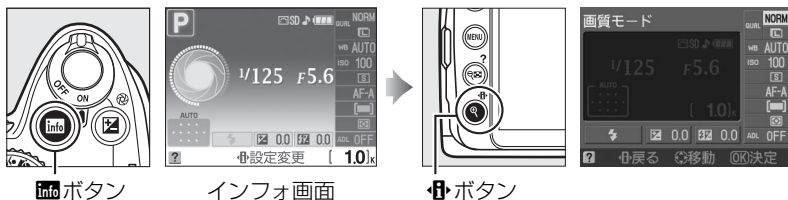
→ [ボタン動作のオプション]の[**半押しAEロック**]（□148）

[ボタン動作のオプション]の[**AE/AFロックボタンの機能**]（□148）

画像の明るさを調整する（露出補正）

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モード（□75）を［◙ **中央部重点測光**］または［⊡ **スポット測光**］にすると効果的です。

1 インフォ画面で ボタンを押す

infoボタン　インフォ画面　ボタン

2 ［露出補正］を選ぶ

- ［**露出補正**］を選んでⓄボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 露出補正値を選ぶ

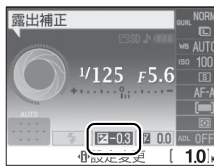
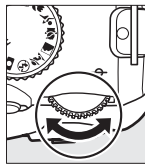
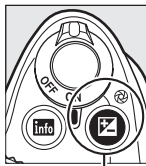
- 1/3段刻みで±5段の範囲で設定できます。
- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正します。
- Ⓞボタンを押して設定します。
- 露出補正を解除するには、補正値を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。

－1段補正

露出補正なし

＋1段補正

コマンドダイヤルでの設定方法

露出補正値は、コマンドダイヤルを使って設定することもできます。☒ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面の露出補正値が変わります。

☒ボタン　コマンドダイヤル

- 露出補正値は、ファインダー内でも確認できます。

－0.3段補正

＋2段補正

撮影モードMでの露出補正

- 露出補正が設定されていても、手動で設定したシャッタースピードと絞り値で撮影されます。
- 露出補正値を0.0以外に設定すると、露出インジケーターの基準値が変わります。

フラッシュ使用時の露出補正

フラッシュ使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とフラッシュの発光量の両方に補正が行われます。

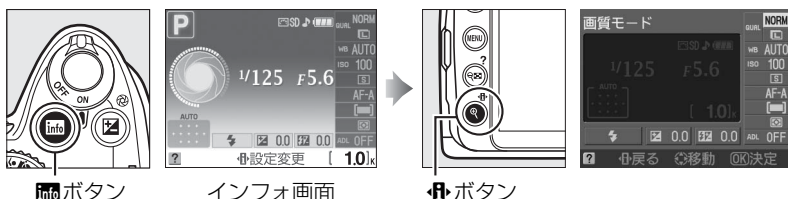
フラッシュの発光量を調整する
（フラッシュ調光補正）

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くしてメインの被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくしてメインの被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

1 インフォ画面で i ボタンを押す

info ボタン

インフォ画面

i ボタン

2 ［フラッシュ調光補正］を選ぶ

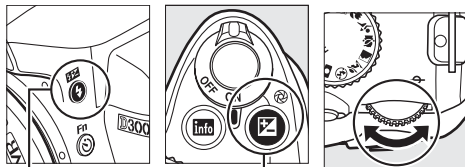
- ［**フラッシュ調光補正**］を選んでOKボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 フラッシュの調光補正値を選ぶ

- 1/3段刻みで－3段～＋1段の範囲で設定できます。
- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正します。
- OKボタンを押して設定します。

- フラッシュ調光補正を解除するには、補正値を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正値の設定は解除されません。

コマンドダイヤルでの設定方法

フラッシュの調光補正値は、コマンドダイヤルを使って設定することもできます。⚡☒（⚡）ボタンと☒ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面の調光補正値が変化します。

⚡☒（⚡）ボタン　☒ボタン　コマンドダイヤル

- フラッシュの調光補正値は、ファインダー内でも確認できます。

－0.3段補正

＋1段補正

別売スピードライト使用時の調光補正

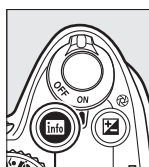
別売スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200使用時も、調光補正を行うことができます。SB-900、SB-800およびSB-600使用時は、スピードライト側でも調光補正値を設定できます。

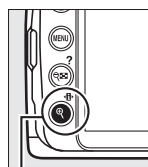
画像の色を見た目の色に合わせる
（ホワイトバランス）

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。

ホワイトバランスを選ぶ

初期設定のAUTO（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。P、S、A、M以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適したホワイトバランスが自動的に選ばれます。

1　インフォ画面で ボタンを押す

info ボタン

インフォ画面

ボタン

2　［ホワイトバランス］を選ぶ

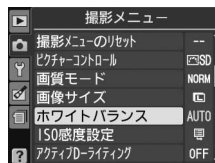
- ［ホワイトバランス］を選んでOKボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

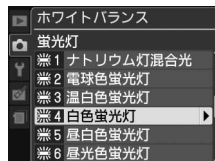
3　設定したいホワイトバランスを選ぶ

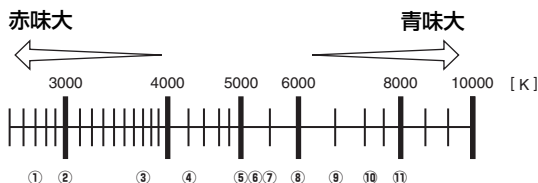
- OKボタンを押して設定します。

AUTO	オート	⚡	フラッシュ
電球アイコン	電球	曇天アイコン	曇天
蛍光灯アイコン	蛍光灯（□83）	晴天日陰アイコン	晴天日陰
晴天アイコン	晴天	PRE	プリセットマニュアル（□85）

撮影メニュー［ホワイトバランス］

ホワイトバランスは、メニュー操作でも設定できます（□128）。撮影メニューで［**ホワイトバランス**］を選ぶと、ホワイトバランスを微調整したり（□84）、ホワイトバランスを自分で取得する（□85）ことができます。

蛍光灯の種類について

撮影メニュー（□128）の［**ホワイトバランス**］で［**蛍光灯**］を選ぶと、細かく蛍光灯の種類を設定できます。

色温度について

光の色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤味を帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。

①	ナトリウム灯混合光（約2700K）	⑥	晴天（約5200K）
②	電球（約3000K） 電球色蛍光灯（約3000K）	⑦	フラッシュ（約5400K）
③	温白色蛍光灯（約3700K）	⑧	曇天（約6000K）
④	白色蛍光灯（約4200K）	⑨	昼光色蛍光灯（約6500K）
⑤	昼白色蛍光灯（約5000K）	⑩	高色温度の水銀灯（約7200K）
		⑪	晴天日陰（約8000K）

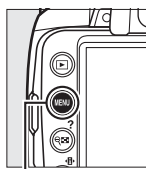
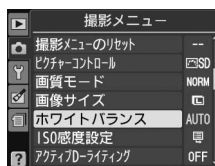
関連ページ

Fn（⏲）ボタンとコマンドダイヤルの操作で、ホワイトバランスの設定を切り換えられるようにする
→ ［**ボタン動作のオプション**］の［**⏲/Fnボタンの機能**］（□147）

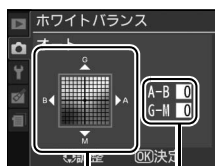
ホワイトバランスを微調整する

撮影メニューの［**ホワイトバランス**］では、選んだホワイトバランスをさらに微調整することができます。

1 設定したいホワイトバランスを選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ホワイトバランス**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

- ホワイトバランスの一覧画面でホワイトバランスを選びます。
- ［**蛍光灯**］を選んで▶を押すと、蛍光灯の種類を選べます（□83）。

2 微調整画面を表示する

- ▶を押すと、微調整画面が表示されます。

3 微調整値を設定する

- マルチセレクターを操作して、座標上のカーソルを動かします。
- A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、各方向6段まで微調整できます。

4 ㊍ボタンを押して決定する

ホワイトバランスの微調整について

- ［**PREプリセットマニュアル**］の場合、微調整画面は表示されません。
- ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを［**電球**］に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

事前に取得したホワイトバランスを使う（プリセットマニュアル）

特殊な照明の下で撮影するときなど、［AUTOオート］や［電球］などの設定では望ましい結果が得られない場合や、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したいときは、事前に取得したホワイトバランスを使うことができます。

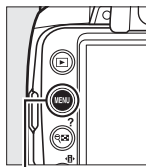
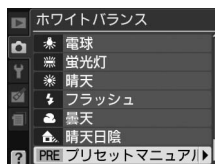
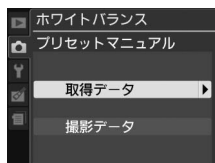
プリセットマニュアルデータは次の方法で取得できます。

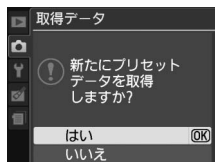
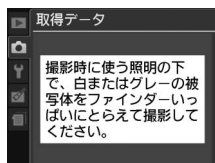
取得データ	カメラで取得したホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとして使います（下記参照）。
撮影データ	SDカード内の画像のホワイトバランスデータをプリセットマニュアルデータとして使います（88）。撮影済みの画像と同じホワイトバランスで撮影できます。

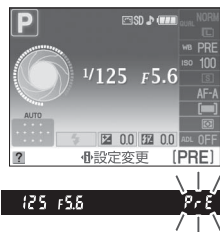
プリセットマニュアルデータをカメラで取得する

1 撮影時に使う照明と、白またはグレー（無彩色）の被写体を用意する

2 ［PREプリセットマニュアル］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ホワイトバランス**］で［**PREプリセットマニュアル**］を選びます。

MENUボタン

- マルチセレクターの▶を押すとプリセットマニュアルの設定画面が表示されます。

3 ［取得データ］を選ぶ

- 右の画面が表示されたら、［**はい**］を選んでOKボタンを押します。

- 右のメッセージが画面に表示されたあと、プリセットマニュアルデータ取得モードに入ります。

- インフォ画面とファインダー内でPRE（PrE）が点滅します。

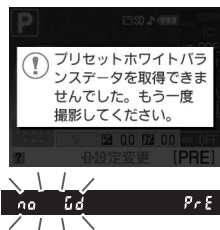
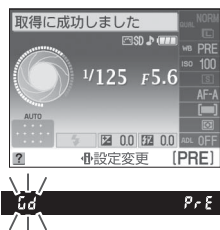
125 F5.6 PrE

4 PRE（PrE）の点滅中に、撮影時に使う照明の下で、用意した白またはグレーの被写体をファインダーいっぱいにとらえて、シャッターボタンを全押しする

- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータは正常に取得されます。
- シャッターボタンを押しても、SDカードに画像は記録されません。

5 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

Gd PrE

- データが取得されると、インフォ画面に［取得に成功しました］と表示されます。また、ファインダー内のシャッタースピード表示部にGdの文字が点滅します。
- 約8秒間点滅後、撮影できる状態に戻ります。点滅中にシャッターボタンを半押しすれば、すぐに撮影できます。
- インフォ画面に右のように表示された場合（ファインダー内のシャッタースピード表示部/絞り値表示部にno Gdの文字が点滅表示された場合）、データ取得は失敗です。原因として、被写体が明るすぎる、または暗すぎることが考えられます。もう一度手順4からやり直してください。

no Gd PrE

データ取得についてのご注意

- プリセットマニュアルデータとして保存できる［取得データ］は1 つだけです。カメラでプリセットマニュアルデータを取得するたびに、以前保存した［取得データ］は、新しいデータに置き換えられますので、ご注意ください。
- スタジオ用大型ストロボを使用するときやホワイトバランスを厳密に合わせたいときは、市販のホワイトバランス取得用の18%標準反射板を使ってプリセットマニュアルデータを取得してください。
- 白またはグレーの被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。撮影モードが**M**の場合は、露出インジケーターを確認して、適正露出になるよう設定してください（□71）。

プリセットマニュアル取得モードの時間制限について

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままセットアップメニュー［**パワーオフ時間**］（□143）で設定した時間（初期設定では8秒）が過ぎると解除されます。

プリセットマニュアルデータのその他の取得方法

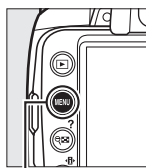
プリセットマニュアルデータは、メニュー操作で取得する他に次の方法で取得できます。

- インフォ画面で ⓘ ボタンを押すと表示される画面（□82）で［**ホワイトバランス**］を［**PRE プリセットマニュアル**］にしてから、Ⓚボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モード（□85）になります。
- セットアップメニュー［**ボタン動作のオプション**］の［**Ⓢ/Fn ボタンの機能**］（□147）が［**ホワイトバランス設定**］になっているときに、［**ホワイトバランス**］を［**PREプリセットマニュアル**］にしてから**Fn**（Ⓢ）ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モード（□85）になります。

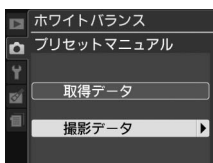
■SDカード内の画像のホワイトバランスデータを使う

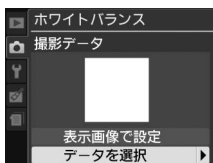
ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータは、SDカード内にある撮影済み画像（撮影データ）からコピーすることもできます。

1 ［PREプリセットマニュアル］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ホワイトバランス**］で［**PREプリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 ［撮影データ］を選ぶ

- プリセットマニュアルの設定画面で［**撮影データ**］を選んで▶を押します。

3 ［データを選択］を選ぶ

- ［**データを選択**］を選んで▶を押します。
- ［**表示画像で設定**］を選ぶと、前回設定した表示中の画像のホワイトバランスデータがそのまま使えます。

4 使いたい画像が保存されているフォルダーを選ぶ

- 使いたい画像が保存されているフォルダーを選んで▶を押します。

5 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 選んだ画像は、ボタンを押している間、拡大して確認できます。

6 OKボタンを押してホワイトバランスデータをコピーする

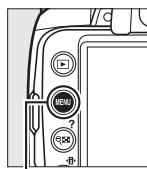
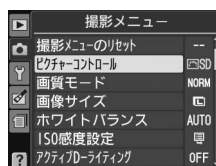
画像の仕上がりを設定したり、思い通りに調整する（ピクチャーコントロール）

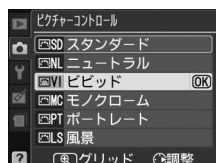
「ピクチャーコントロール（Picture Control）システム」とは、輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）、色合い（色相）などの画像調整の設定を、対応するカメラやソフトウェアで相互に利用できるニコン独自の画作りシステムです。

ピクチャーコントロールを選ぶ

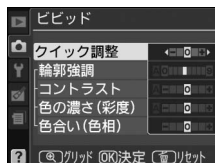
このカメラには、被写体や撮影シーンに合わせて選ぶことのできる「ピクチャーコントロール」が搭載されています。**P**、**S**、**A**、**M**以外の撮影モードの場合、それぞれの撮影シーンに適したピクチャーコントロールが自動的に選ばれます。

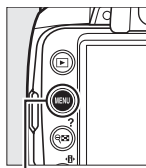
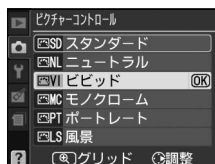
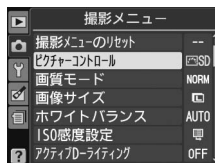
1 ［ピクチャーコントロール］を選ぶ

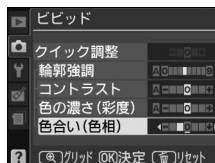
- **MENU**ボタンを押して、撮影メニューの［**ピクチャーコントロール**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。［**ピクチャーコントロール**］画面が表示されます。

MENUボタン

2 設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

- ⓀボタンOKボタンを押して設定します。

SD	スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 • ほとんどの撮影状況に適しています。
NL	ニュートラル	素材性を重視した自然な画像になります。 • 撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。
VI	ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 • 青、赤、緑など、原色の色を強調したいときに適しています。
MC	モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
PT	ポートレート	人物の肌が滑らかで自然な画像になります。
LS	風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。

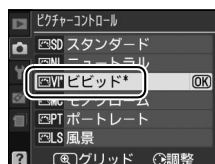
ピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールの設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）をバランス良く自動的に調整できる「クイック調整」や各項目を手動で細かく調整する「手動調整」ができます。

1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ピクチャーコントロール**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

- ピクチャーコントロールの一覧画面でピクチャーコントロールを選びます。
- ▶を押すと、ピクチャーコントロールの調整画面が表示されます。

2 ピクチャーコントロールを調整する

- ▲または▼で調整する項目（□91）を選んで、◀または▶で値を設定します。
- ［**クイック調整**］を選ぶと、各項目のレベルを自動的に調整します（□91）。
- 🗑ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

3 OKボタンを押して決定する

ピクチャーコントロールを調整した場合の表示について

ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンと項目名の末尾にアスタリスク（＊）が表示されます。

ピクチャーコントロール調整時の設定項目

クイック調整※1		輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。［－2］～［＋2］の調整ができます。 • －側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を抑えた画像になり、＋側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を強調した画像になります。たとえば［**ビビッド**］を選んで＋側にクイック調整すると、色の鮮やかさを強調します。
手動調整	輪郭強調	輪郭の強弱を調整します。［0］（輪郭強調しない）～［9］までの手動調整と、自動で調整する［**A**］（オート）があります。 • 数字が大きいほどくっきりとした画像になり、小さいほどソフトな画像になります。
	コントラスト※2	画像のコントラストを調整します。［－3］～［＋3］までの手動調整と、自動で調整する［**A**］（オート）があります。 • －側にすると軟調な画像になり、＋側にすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは－側が、霞んだ遠景の撮影などには＋側が適しています。
	色の濃さ（彩度）※3	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整します。［－3］～［＋3］までの手動調整と、自動で調整する［**A**］（オート）があります。 • －側にすると鮮やかさが抑えられ、＋側にするとより鮮やかになります。
	色合い（色相）※3	画像の色合いを調整します。［－3］～［＋3］の調整ができます。 • 肌色を基準にした場合、＋側にすると黄色みが増し、－側にすると赤みが増します。
	フィルター効果※4	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます。フィルター効果は［**OFF**］、［**Y**］、［**O**］、［**R**］、［**G**］から選べます（□92）。
	調色※4	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色は［**B&W**］、［**Sepia**］、［**Cyanotype**］、［**Red**］、［**Yellow**］、［**Green**］、［**Blue Green**］、［**Blue**］、［**Purple Blue**］、［**Red Purple**］から選べます（□92）。

※1［**ニュートラル**］と［**モノクローム**］はクイック調整できません。
手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。

※2［**アクティブD-ライティング**］（□65）を［**ON する**］に設定している場合、調整できません。手動調整した後に［**アクティブD-ライティング**］を設定すると、手動調整で設定した値は無効になります。

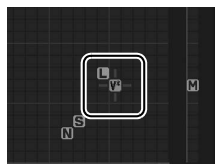
※3［**モノクローム**］のときは、表示されません。

※4［**モノクローム**］のときのみ表示されます。

[コントラスト]、[色の濃さ（彩度）] の［A］（オート）についてのご注意

同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。

ピクチャーコントロール調整時のグリッド表示

- ピクチャーコントロール調整中に🔍ボタンを押している間、調整しているピクチャーコントロールのコントラストと彩度が座標で表示され、他のピクチャーコントロールとの関係がわかります。ボタンを放すと、調整画面に戻ります。
- ［**モノクローム**］の場合、グリッド表示はコントラストのみ表示されます。
- ［**コントラスト**］または［**色の濃さ（彩度）**］に［**A**］（オート）が設定されたピクチャーコントロールは、グリッド表示時にアイコンが緑色で表示されます。また、各軸に平行な上下または左右の線が表示されます。

ピクチャーコントロール調整時のアンダーバーについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示されるアンダーバーは、調整する前の値を示しています。前回調整した値を参考にして調整するときに便利です。

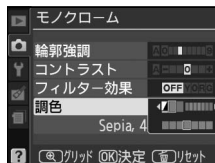
[モノクローム] の［フィルター効果］について

［**フィルター効果**］には、次のような効果があります。

Y（黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。［**Y**］→［**O**］→［**R**］の順にコントラストが強くなります。
O（オレンジ※）	
R（赤※）	
G（緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※ 市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。［**フィルター効果**］で得られる効果は、市販の白黒写真用カラーフィルターよりも強くなります。

[モノクローム] の［調色］について

［**調色**］の項目（［**B&W**］以外）を選んでマルチセレクターの▼を押すと、さらに色の濃淡を7段階から選べます。◀または▶を押して選んでください。

画像の再生

画像を1コマずつ再生する（1コマ表示モード）

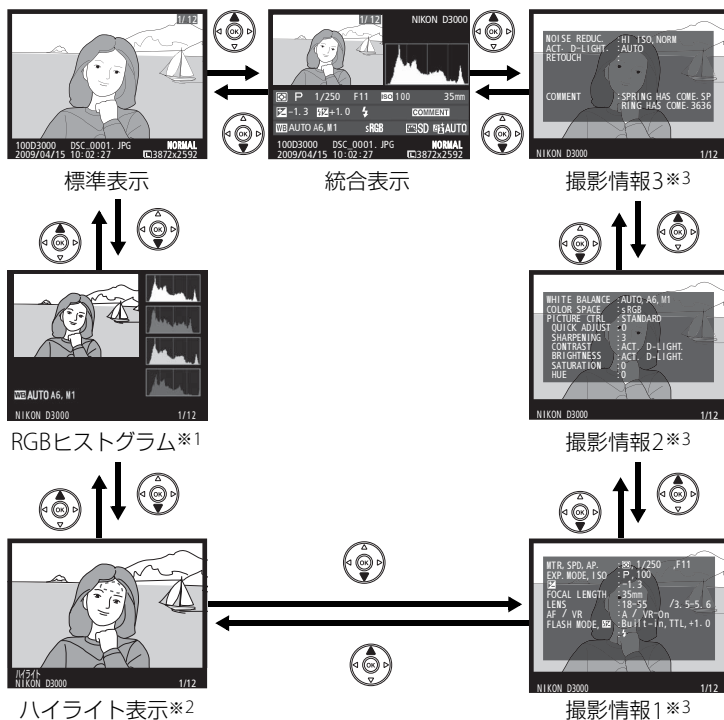
▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

▶ボタン

1コマ表示モードでの操作方法

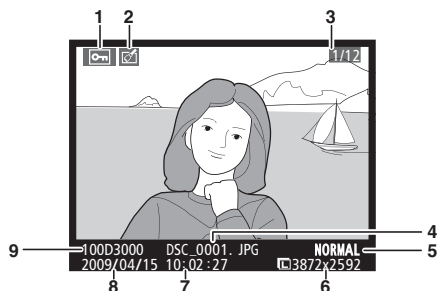
前後の画像を見る	◀ OK ▶	◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報の表示	▲ OK ▼	表示中の画像についての詳しい情報が表示されます（□94）。
複数画像を一覧表示する	サムネイルボタン	サムネイル表示モード（□100）に切り替わります。
画像を拡大する	拡大ボタン	表示中の画像を拡大表示します（□103）。
画像を削除する	削除ボタン	表示中の画像を削除します（□105）。
画像を保護する	プロテクトボタン（AE-L AF-L）	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（□104）。
撮影に戻る	シャッターボタン半押し	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（□125）。
画像編集メニューを表示する	OK	画像編集メニュー（□154）が表示されます。
ストップモーション動画を再生する	OK	動画マークが表示されている画像の場合、ストップモーション動画（□169）を再生します。ストップモーション動画の再生中の操作については、「ストップモーション動画を再生する」（□172）をご覧ください。

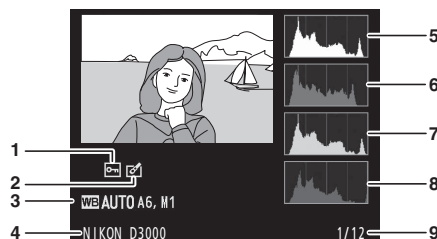
画像情報を表示する

1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセレクターの▲または▼を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。

※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（□126）で［**RGBヒストグラム**］を設定している場合のみ表示します。

※2 再生メニューの［**再生画面設定**］（□126）で［**ハイライト**］を設定している場合のみ表示します。

※3 再生メニューの［**再生画面設定**］（□126）で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。

標準表示

1	プロテクト設定の有無 104
2	画像編集の有無 154
3	コマ番号/フォルダー内全画像数
4	ファイル名 52
5	画質モード 51
6	画像サイズ 53
7	撮影時刻 19
8	撮影日付 19
9	フォルダー名 151

RGBヒストグラム※

1	プロテクト設定の有無 104
2	画像編集の有無 154
3	ホワイトバランス .... 82 ホワイトバランス微調整 .... 84 プリセットマニュアル 85
4	カメラ名
5	RGBのヒストグラム
6	赤色（R）のヒストグラム
7	緑色（G）のヒストグラム
8	青色（B）のヒストグラム
9	コマ番号/フォルダー内全画像数

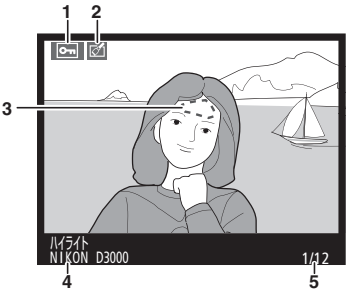
※再生メニューの［**再生画面設定**］（□126）で［**RGBヒストグラム**］を設定している場合のみ表示します。

拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で🔍ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中に▲▼◀▶を押すと画面をスクロールして見たい部分に移動できます。🔍ボタンを押すと画像を縮小表示します。

ヒストグラム表示について

- RGBヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

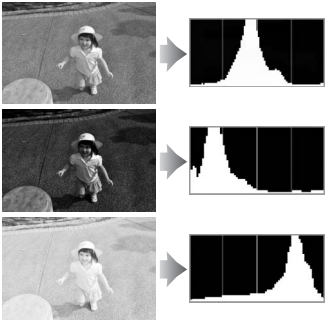
ハイライト表示※1、2

1	プロテクト設定の有無 104
2	画像編集の有無 154
3	画像のハイライト部分が点滅表示されます。
4	カメラ名
5	コマ番号/フォルダー内全画像数

※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（□126）で［**ハイライト**］を設定している場合のみ表示します。

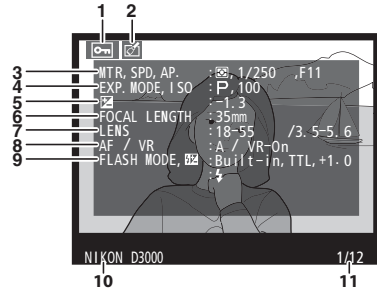
※2 ハイライトとは、画像の中の非常に明るい部分です。露出補正などで画像の明るさを調整する際に、点滅しているハイライト部分を目安にしてください。

ヒストグラムについて

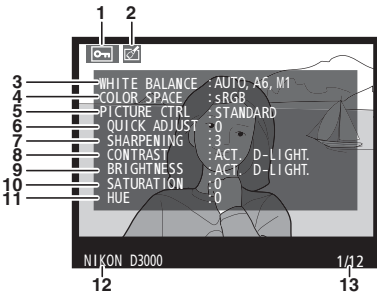
ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。

露出補正を＋側にすれば山が右側に寄り、－側にすれば山が左側に寄ります。

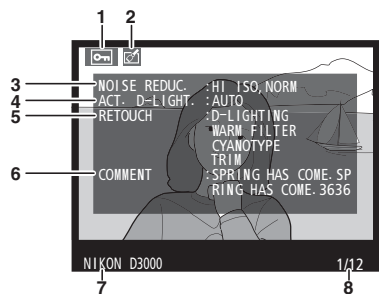
屋外などで周りが明るすぎて液晶モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

撮影情報1※1

番号	項目	ページ
1	プロテクト設定の有無	104
2	画像編集の有無	154
3	測光モード	75
	シャッタースピード	69、71
	絞り値	70、71
4	撮影モード	25、31、67
	ISO感度※2	63
5	露出補正値	78
6	焦点距離	176
7	レンズ情報	
8	フォーカスモード	41、49
	レンズのVR（手ブレ補正）機能のON/OFF※3	18
9	フラッシュモード	60
	フラッシュ調光補正値	80
10	カメラ名	
11	コマ番号/フォルダー内全画像数	

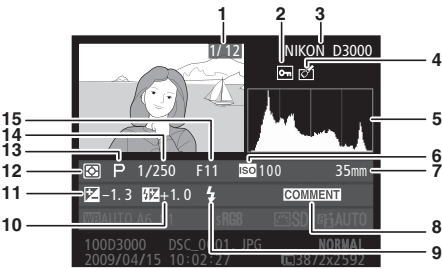
※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（□126）で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。
※2 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
※3 VRレンズ装着時のみ表示します。

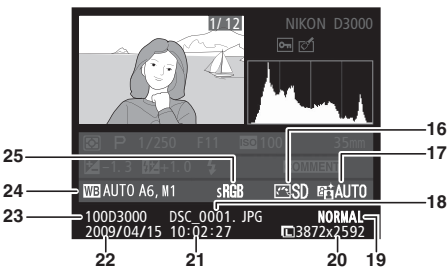
撮影情報2※1

番号	項目	ページ
1	プロテクト設定の有無	104
2	画像編集の有無	154
3	ホワイトバランス	82
	ホワイトバランス微調整	84
	プリセットマニュアル	85
4	色空間	131
5	ピクチャーコントロール	89
6	クイック調整※2	91
	元になったピクチャーコントロール※3	89
7	輪郭強調	91
8	コントラスト	91
9	明るさ	
10	色の濃さ（彩度）※4	91
	フィルター効果※5	91
11	色合い（色相）※4	91
	調色※5	91
12	カメラ名	
13	コマ番号/フォルダー内全画像数	

※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（□126）で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。
※2［**スタンダード**］、［**ビビッド**］、［**ポートレート**］、［**風景**］のとき表示します。
※3［**ニュートラル**］、［**モノクローム**］のとき表示します。
※4［**モノクローム**］の場合、表示しません。
※5［**モノクローム**］のときのみ表示します。

■■撮影情報3※1

1	プロテクト設定の有無 104
2	画像編集の有無 154
3	ノイズ低減 132
4	アクティブD-ライティングの設定※2 65
5	画像編集メニュー（□154）で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。 複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。
6	画像コメント 140
7	カメラ名
8	コマ番号/フォルダー内全画像数

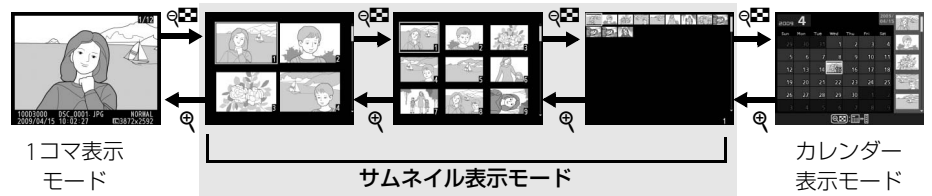
※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（□126）で［**撮影情報**］を設定している場合のみ表示します。
※2 アクティブD-ライティングを［**ON する**］にして撮影した場合は、「AUTO」と表示されます。

統合表示

1	コマ番号/フォルダー内全画像数
2	プロテクト設定の有無 104
3	カメラ名
4	画像編集の有無 154
5	画像のヒストグラム（◻96）を表示します。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を表します。
6	ISO感度※ 63
7	焦点距離 176
8	画像コメントの有無 140
9	フラッシュモード 60
10	フラッシュ調光補正値 80
11	露出補正値 78
12	測光モード 75
13	撮影モード .... 25、31、67
14	シャッタースピード ....69、71
15	絞り値 ....70、71

※ 感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

16	ピクチャーコントロール 89
17	アクティブD-ライティングの設定※ 65
18	ファイル名 52
19	画質モード 51
20	画像サイズ 53
21	撮影時刻 19
22	撮影日付 19
23	フォルダー名 151
24	ホワイトバランス .... 82 ホワイトバランス微調整 .... 84 プリセットマニュアル 85
25	色空間 131

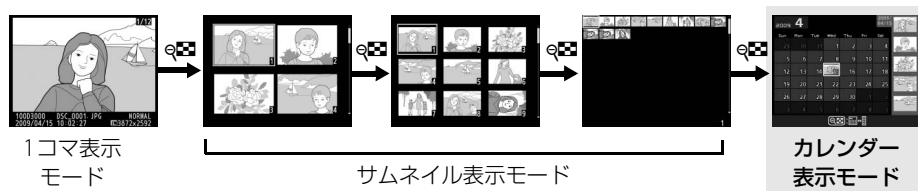
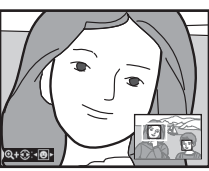
※ アクティブD-ライティングを［ON する］にして撮影した場合は、「AUTO」と表示されます。

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示モード）

1コマ表示モードのときに⊖▦ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。

サムネイル表示モードでの操作方法

表示コマ数を増やす	⊖▦	1コマ表示時にボタンを押すと4コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと9コマ表示に、9コマ表示時にボタンを押すと72コマ表示に切り替わります。
表示コマ数を減らす	⊕	72コマ表示時にボタンを押すと9コマ表示に、9コマ表示時にボタンを押すと4コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと1コマ表示に切り替わります。
画像を選ぶ	マルチセレクター	マルチセレクターを操作すると、黄色の枠（カーソル）が動いて、拡大表示（□103）や削除（□105）、プロテクト（□104）の対象となる画像を選べます。 マルチセレクターの代わりにコマンドダイヤルを使うこともできます。
1コマ表示する	OK	サムネイル表示モードを終了して、1コマ表示モードに戻ります。
画像を削除する	🗑	選んだ画像を削除します（□105）。
画像を保護する	O-n（AE-L AF-L）	選んだ画像にプロテクト（保護）を設定します（□104）。
撮影に戻る	シャッターボタン半押し	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（□125）。

撮影した日付ごとに画像を表示する
（カレンダー表示モード）

72コマ表示時（📖100）にボタンを押すと、撮影した日付ごとに縮小画像を表示する「カレンダー表示モード」に切り替わります。カレンダー表示モードは、選択している画像の撮影日付を表示します。

マルチセレクターで黄色の枠（カーソル）を動かして、「カレンダー表示」上の日付を選びます。日付を選んでからボタンを押すと、黄色の枠が右側の「撮影日サムネイル表示」に移動し、指定した日付に撮影した画像を選べます。

カレンダー表示モードでの操作方法

操作	ボタン	説明
表示を 切り換える	Q▦	• カレンダー表示時に Q▦ ボタンを押すと、黄色い枠が撮影日サムネイル表示に移動し、選択中の日付に撮影した画像が選べます。 • 撮影日サムネイル表示時に Q▦ ボタンを押すと、カレンダー表示に戻り、日付を選べます。
72コマ表示に 戻る/ 画像を拡大する	⊕	• カレンダー表示時は72コマ表示に切り替わります。 • 撮影日サムネイル表示時は、⊕ ボタンを押している間、拡大表示をします。
日付を選ぶ/ 画像を選ぶ	マルチセレクター	• カレンダー表示時は、マルチセレクターを操作すると黄色の枠（カーソル）が動いて、撮影した日付を選べます。 • 撮影日サムネイル表示時は、マルチセレクターの▲または▼を押して1コマ表示（□93）や拡大表示（□103）、プロテクト（□104）、削除（□105）の対象となる画像を選べます。
1コマ表示する	OK	• カレンダー表示時は、選択した日付の最初の画像を1コマ表示します。 • 撮影日サムネイル表示時は、選択した画像を1コマ表示します。
画像を削除する	🗑	• カレンダー表示時にボタンを押すと、選んだ日付の画像を全て削除します。 • 撮影日サムネイル表示時にボタンを押すと、選んだ画像を個別に削除します（□105）。
画像を保護する	O-n（AE-L AF-L）	撮影日サムネイル表示時にボタンを押すと、選んだ画像を個別にプロテクトします（□104）。
撮影に戻る	シャッターボタン	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（□125）。

画像を拡大表示する

画像の再生中に🔍ボタンを押すと、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが［**サイズ L**］の場合は約25倍、［**サイズ M**］では約19倍、［**サイズ S**］では約13倍です。拡大表示中に人物の顔を認識した場合、最大10人までの顔を白枠で囲み、マルチセレクターを操作して順次移動することができます。

拡大表示中の操作方法

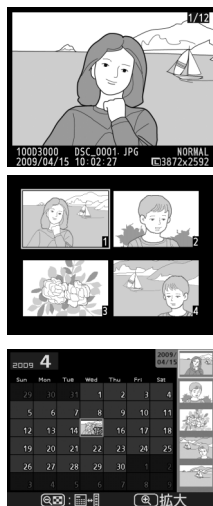
操作	ボタン	説明	
拡大率を上げる	🔍	ボタンを押すごとに拡大率が上がります。	拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えます。
拡大率を下げる	🔍	ボタンを押すごとに拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）させる	マルチセレクター	画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	
人物の顔へ移動させる	🔍 ＋ マルチセレクター	拡大表示中に人物の顔を認識すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。🔍ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押すたびに、認識した顔を順次拡大表示します。	
前後の画像を見る	コマンドダイヤル	コマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の画像を表示します。	
1コマ表示する	OK	拡大表示を終了して、1コマ表示モードに戻ります。	
画像を保護する	O-n（AE-L AF-L）	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（🕮104）。	
撮影に戻る	シャッターボタン	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。	
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（🕮125）。	

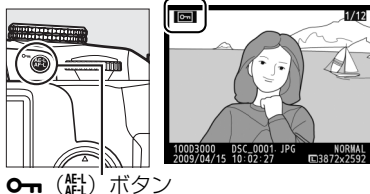
画像を保護する（プロテクト）

大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、SDカードを初期化（フォーマット □21）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

1 プロテクトする画像を選ぶ

- 1コマ表示モード/拡大表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。

- サムネイル表示モード/カレンダー表示モードの場合は、プロテクトする画像をマルチセレクターで選びます。

2 O-n（AE-L AF-L）ボタンを押す

- O-nアイコンが表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、O-n（AE-L AF-L）ボタンを押します。

O-n（AE-L AF-L）ボタン

画像を削除する

SDカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。ただし、プロテクトを設定した画像は削除できません。

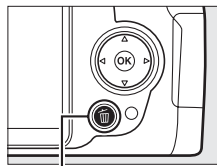
再生中の画像を削除する

🗑ボタンを押すと、再生中の画像を1コマ削除できます。

1 削除する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードのときは、削除する画像を表示します。
- サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードのときは、削除する画像を選択します。

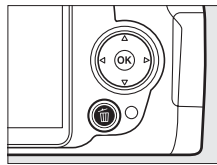
2 🗑ボタンを押す

- 削除確認の画面が表示されます。
- ▶ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。

1コマ表示モード

サムネイル表示モード

カレンダー表示モード
（撮影日サムネイル表示）

3 もう一度🗑ボタンを押す

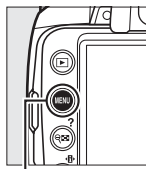
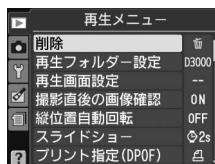
- 表示中の画像が削除されます。

複数の画像をまとめて削除する

再生メニューの［**削除**］では、複数の画像を一括して削除できます。たくさんの画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

選択画像削除	選択した画像を削除します。
DATE **日付選択**	選択した日付に撮影した画像を一括で削除します。
ALL **全画像削除**	［**再生フォルダー設定**］（□126）で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。

■選択画像削除

1 ［削除］を選ぶ

- MENUボタンを押して、再生メニューの［**削除**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［削除］画面が表示されます。

MENUボタン

2 ［選択画像削除］を選ぶ

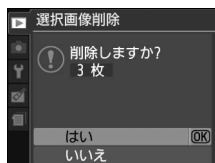
3 削除する画像を選ぶ

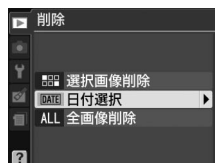
- マルチセレクターを▲▼◀▶方向に押して画像を選びます。
- 🔍ボタンを押して設定します。設定すると🗑アイコンが表示され、もう一度🔍ボタンを押すと解除されます。

🔍ボタン

- 削除する画像全てに設定してください。
- 🔍ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

4 設定を完了する

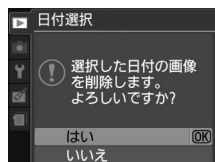
- Ⓞボタンを押して、設定を終了します。
- 確認画面で［**はい**］を選択し、Ⓞボタンを押すと、選択した画像が全て削除されます。

▮▮日付選択

1 ［削除］画面で［日付選択］を選ぶ

2 日付を選ぶ

- マルチセレクターで日付を選び、▶を押すと日付の横にチェック☑が入ります。もう一度▶を押すと解除されます。
- 削除する日付全てに設定してください。
- Q⊞ボタンを押すと、選択している日付に撮影した画像をサムネイル表示して確認できます。もう一度Q⊞ボタンを押すと、日付選択画面に戻ります。
- サムネイル表示中にQボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

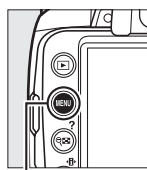
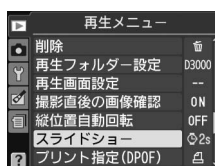
Q⊞ボタン

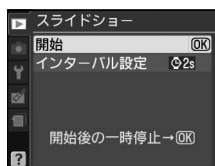
3 設定を完了する

- OKボタンを押して、設定を終了します。
- 確認画面で［**はい**］を選択し、OKボタンを押すと、選択した日付の画像が全て削除されます。

スライドショーで再生する

再生メニューの［**スライドショー**］では、撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生できます。

1 ［スライドショー］を選ぶ

- MENUボタンを押して、再生メニューの［**スライドショー**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［スライドショー］画面が表示されます。

MENUボタン

2 ［開始］を選ぶ

- ［**開始**］を選んで㊰ボタンを押すと、スライドショーが始まります。
- ［**インターバル設定**］を選ぶと、1コマの画像を表示する時間を設定できます。

- スライドショー再生時には次の操作を行えます。

1コマ進む/戻る	◀▶	◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報の切り換え	▲▼	画像情報の切り換えができます（□94）。
一時停止/再開	OK	スライドショーが一時停止します。もう一度㊰ボタンを押すと再開します。
再生メニューに戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る	▶	スライドショーを中止して、1コマ表示モード（□93）、サムネイル表示モード（□100）またはカレンダー表示モード（□101）に戻ります。
撮影に戻る		シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

- 再生が終わると、右のような画面が表示されます。［**再開**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、スライドショーが再開します。［**終了**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、スライドショーが終了します。

関連ページ

スライドショーで画像を再生するフォルダーを指定する → ［**再生フォルダー設定**］（0126）

パソコン、プリンター、テレビとの接続

画像をパソコンに転送する

このカメラでは、付属のUSBケーブルUC-E4を使ってカメラとパソコンを接続して、撮影した画像をパソコンに転送できます。ここでは、転送時に必要な操作について説明します。

カメラとパソコンを接続する前に

カメラとパソコンを接続する前に、付属のSoftware Suite CD-ROMを使って、お使いのパソコンにNikon TransferやViewNXなどのソフトウェアをインストールします。ソフトウェアのインストール方法については、付属の簡単スタートガイドをご覧ください。

付属のソフトウェアについて

付属のNikon TransferやViewNXには、次のような機能があります。ソフトウェアの使い方については、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

- **Nikon Transfer**：撮影した画像をカメラからパソコンに簡単に転送するためのソフトウェアです。バックアップの保存や著作権情報などの画像への埋め込みなどもできます。
- **ViewNX**：パソコンに転送した画像を表示するためのソフトウェアです。表示した画像の選別やRAW画像の現像やRAW画像とJPEG画像の調整、ファイル形式の変換などができます。

対応OSについて

付属のソフトウェアは、次のパソコンのOS（オペレーティングシステム）に対応しています。

Windows	32bit 版 の Windows Vista Service Pack 1（Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate）、Windows XP Service Pack 3（Home Edition/Professional）
Macintosh	Mac OS X（version 10.3.9、10.4.11、10.5.6）

※対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報（🕮xvi）でご確認ください。

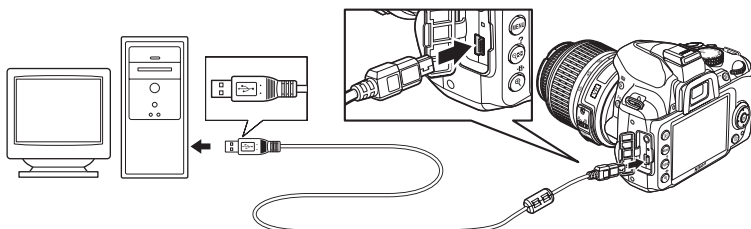
USB接続でパソコンに画像を転送する

付属のUSBケーブルUC-E4を使ってカメラとパソコンを接続します。カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。

1 カメラの電源をOFFにする

2 パソコンを起動する

3 カメラとパソコンを接続する

- USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐに差し込んでください。

4 カメラの電源をONにする

5 画像を転送する

- Nikon Transferが自動的に起動しますので、［**転送開始**］ボタンをクリックして画像を転送してください。
- Nikon Transferの使い方については、Nikon Transferのヘルプをご覧ください。ヘルプは、Nikon Transferを起動し、メニューバーの［ヘルプ］メニューから［**Nikon Transferヘルプ**］を選んで表示してください。

［**転送開始**］ボタン

6 転送が終わったら、カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜く

- 転送が終わると、Nikon Transferは自動的に終了します。

パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンを接続するときは、充分に充電されたバッテリー EN-EL9a、または別売のパワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5aを組み合わせてお使いになることをおすすめします。
- ケーブルを接続するときは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

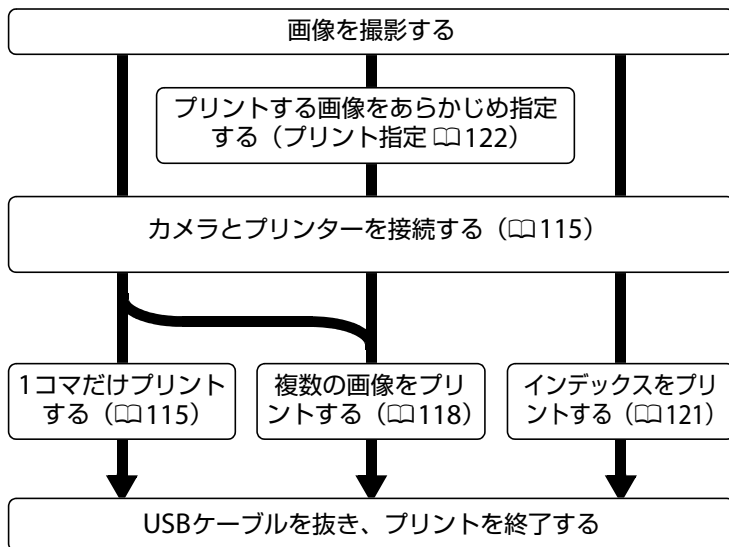
USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

端子カバーについて

使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。

画像をプリンターで印刷する（ダイレクトプリント）

PictBridge（ピクトブリッジ 🕮216）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接接続してSDカード内の画像をプリントできます（ダイレクトプリント）。ダイレクトプリントは、次の手順で行います。

次のページから、それぞれの手順について詳しく説明します。

ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリー EN-EL9a をお使いください。別売のパワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5aを組み合わせてお使いになることをおすすめします。
- ダイレクトプリントする画像を撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で撮影する場合は、撮影メニューの［**色空間**］（🕮131）を［**sRGB**］にすることをおすすめします。

USBハブについて

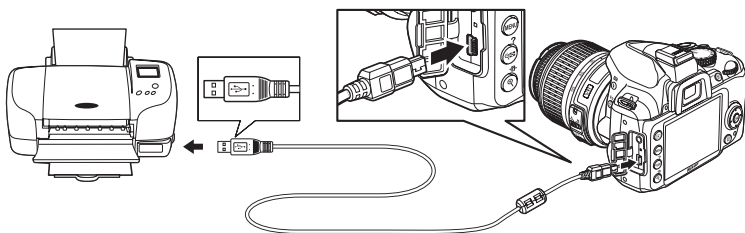
USBハブに接続した場合の動作は保証していません。

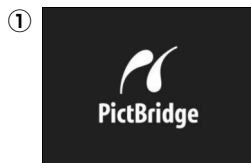
カメラとプリンターを接続する

付属のUSBケーブルUC-E4を使ってカメラとプリンターを接続します。

1 カメラの電源をOFFにしてからプリンターの電源をONにする

2 カメラとプリンターを接続する

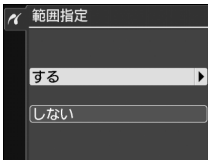
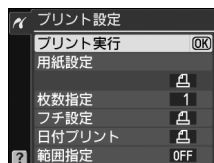
- USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。

3 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、液晶モニターに①の画面が表示された後、②の画面が表示されます。

①
②
1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターの◀または▶を押してプリントしたい画像を選びます。

- Q▦ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。Qボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- 1コマ表示中にQを押すと、表示中の画像を拡大表示します（□103）。▶ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- ▲または▼を押すと、画像情報（□94）が表示されます。

2 プリント設定画面を表示する

- ㊙ボタンを押すとプリント設定画面が表示されます。

3 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	▼または▲を押して、プリントする用紙のサイズを選びます。 ［**プリンターの設定**］、［**Lサイズ**］、［**2Lサイズ**］、［**はがき**］、［**100×150 mm**］、［**4×6 in.**］、［**203×254 mm**］、［**Letter**］、［**A3サイズ**］、［**A4サイズ**］のうち、プリンターが対応するサイズのみが表示されます。 ㊙ボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。
枚数指定	▼または▲を押して、プリントする枚数（1～99枚）を設定します。㊙ボタンを押すとプリント設定画面に戻ります。
フチ設定	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（フチありプリント）または［**なし**］（フチなしプリント）を選びます。 ㊙ボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。
日付プリント	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（日付を印刷する）または［**なし**］（日付を印刷しない）を選びます。 ㊙ボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。

範囲指定	プリント範囲を指定します。 ［**する**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。 右のような画面が表示されます。 黄色の枠は、プリントされる範囲を示しています。 • ボタンを押すと枠が小さく（プリント範囲が狭く）なり、ボタンを押すと枠が大きく（プリント範囲が広く）なります。 • マルチセレクターを操作すると、プリント範囲が移動します。 • ボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。

4 プリントを開始する

- ［**プリント実行**］を選んで、ボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度ボタンを押してください。

プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

［**用紙設定**］、［**フチ設定**］、［**日付プリント**］の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に［**プリンターの設定**］を選んでください。

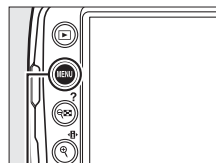
［デート写し込み設定］で日時を写し込んだ画像についてのご注意

セットアップメニュー［**デート写し込み設定**］（149）で日時を写し込んだ画像をプリントするときは、次のことにご注意ください。

- ［**日付プリント**］を［**なし**］に設定してください。［**あり**］にしてプリントすると、日付が二重にプリントされます。
- ［**フチ設定**］を［**なし**］にしたときや、範囲指定の設定によっては、日時部分が用紙に収まらないことがあります。

複数の画像をプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから（□115）、次の手順でプリントしてください。

1 右の画面でMENUボタンを押す

MENUボタン

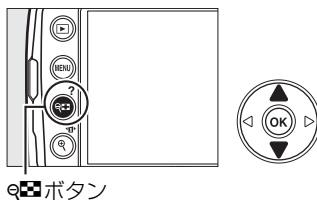
2 ［プリント画像選択］、［日付選択］または［DPOFプリント］を選んでマルチセレクターの▶を押す

- 事前に再生メニューの［**プリント指定（DPOF）**］（□122）を行った場合、［**DPOFプリント**］を選ぶと、手順3の画面にプリント指定で設定したプリント枚数が反映されます。

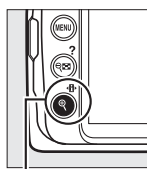
3 プリントする画像と枚数を設定する

［プリント画像選択］または［DPOFプリント］の場合：

⊖⊠ボタン

- マルチセレクターを操作してプリントする画像を選び、⊖⊠ボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。

- プリントされる画像には、⎙アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、⎙アイコンが消え、その画像はプリントされません。

⊕ボタン

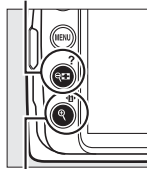
- ⊕ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。

- 画像と枚数を設定したら、Ⓞボタンを押します。

［日付選択］の場合：

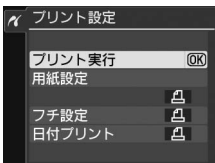
- マルチセレクターの▲または▼を押してプリントする日付を選び、▶を押して設定します。
- プリントする枚数は設定できません。選択した日付の画像の全てが1枚ずつプリントされます。

⊖⊠ボタン

⊕ボタン

- 日付を選択中に⊖⊠ボタンを押すと、選択中の日付の画像を確認することができます。⊕ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。

- 日付を設定したら、Ⓞボタンを押します。

4 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	▼または▲を押して、プリントする用紙のサイズを選びます。 OKボタンを押すと、プリント設定画面に戻ります。表示される用紙サイズはプリンターによって異なります（□116）。
フチ設定	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（フチありプリント）、［**なし**］（フチなしプリント）を選びます。OKボタンを押すとプリント設定画面に戻ります。
日付プリント	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（日付を印刷する）、［**なし**］（日付を印刷しない）を選びます。OKボタンを押すとプリント設定画面に戻ります。

5 プリントを開始する

- ［**プリント実行**］を選んでOKボタンを押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを中断したいときは、もう一度OKボタンを押してください。

ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像（□51）はダイレクトプリントできません。RAW画像は画像編集メニューの［**RAW現像**］（□167）で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- ［**フチ設定**］と［**範囲指定**］は、接続したプリンターがそれぞれの機能に対応していない場合は、選べません。なお、［**範囲指定**］で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

関連ページ

プリント時のエラーについては、「警告メッセージ」（□206）をご覧ください。

INDEX（インデックス）プリントする

SDカード内の全てのJPEG画像（⊡51）が一覧できる「インデックス」をプリントできます。

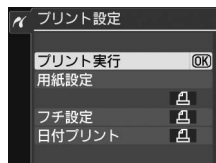
1 ［PictBridge］画面（⊡118）で［INDEXプリント］を選ぶ

- ［**INDEXプリント**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［INDEXプリント］画面が表示されます。

2 プリント設定画面を表示する

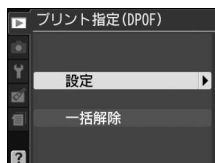
- OKボタンを押すと、プリント設定画面が表示されます。

3 プリント設定の項目を設定する

- 「複数の画像をプリントする」の手順4（⊡120）と同様に、プリント設定の項目を設定してから、プリントしてください。
- 用紙サイズによっては、インデックスプリントができない場合があります（警告画面が表示されます）。
- インデックスプリントできるのは256コマまでです。SDカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります（確認画面が表示されます）。

プリントしたい画像を指定する（プリント指定）

SDカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはカメラとプリンターを直接接続してダイレクトプリントするとき（□114）に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます（プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります）。プリント指定の方法は次の通りです。

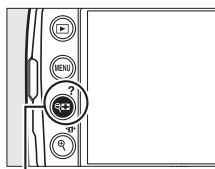
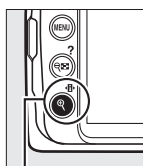
1 再生メニューの［プリント指定（DPOF)］で［設定］を選ぶ

- ［**設定**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、プリント画像の選択画面が表示されます。

2 プリントする画像と枚数を設定する

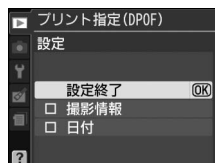
- マルチセレクターを操作してプリントする画像を選び、Q⊞ボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。
- 設定した画像には、🖶アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると🖶アイコンが消え、その画像はプリントされません。

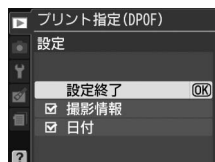
Q⊞ボタン

- Qボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。

Qボタン

- 画像と枚数を設定したら、OKボタンを押します。
- MENUボタンを押すと、画像選択を中止して、再生メニューに戻ります。

3 プリント指定の項目を設定する

- 撮影情報や日付を画像に写し込まない場合は、そのまま［**設定終了**］を選んでⓄⓚボタンを押してください。
- 指定した画像全てに撮影情報や日付をプリントしたい場合は、［**撮影情報**］または［**日付**］を選んで▶を押して☐に✔を入れてください。

4 プリント指定を終了する

- ［**設定終了**］を選んで、Ⓞⓚボタンを押します。

✔ プリント指定についてのご注意

- ダイレクトプリント時には、［**プリント指定（DPOF）**］の［**撮影情報**］、［**日付**］の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの［**日付プリント**］を［**あり**］にしてください。
- SDカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW画像（🕮51）は、プリント指定ができません。RAW画像は画像編集メニューの［**RAW現像**］（🕮167）で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- プリント指定を行ったSDカード内のデータを、このカメラ以外で削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

設定したプリント指定を一括で解除したいときは

前ページの手順1の画面で［**一括解除**］を選ぶと、プリント指定（DPOF）で設定した内容を全て解除します。

画像をテレビで見る

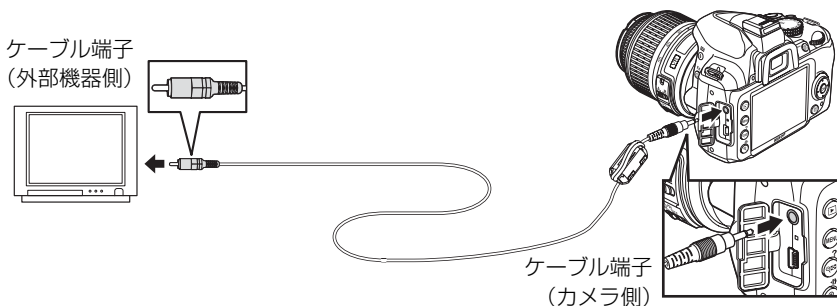
カメラをテレビや録画機器などに接続して、撮影した画像をテレビ画面に表示したり、録画したりできます。接続には別売のビデオケーブルEG-D100（以下、ビデオケーブル）が必要です。

1 セットアップメニューの［ビデオ出力］を、テレビに合わせる（□138）。

- 日本国内では［**NTSC**］（初期設定）にしてください。

2 カメラの電源をOFFにする

- ビデオケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

3 カメラとテレビを接続する

4 テレビの入力をビデオ入力に切り換える

5 カメラの電源をONにして、▶ボタンを押す

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- カメラをテレビに接続している間、液晶モニターは消灯します。

画像がテレビに映らないとき

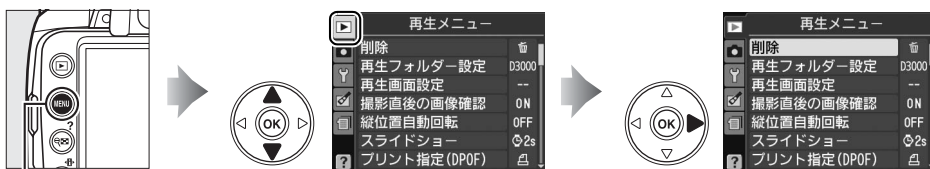
ビデオケーブルでカメラとテレビを正しくつないでも、画像がテレビに映らないときは、セットアップメニューの［**ビデオ出力**］（□138）がお使いのテレビに合っているかを確認してください。

テレビでの画像の再生について

- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部ケラレて表示される場合があります。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のパワーコネクター EP-5 と AC アダプター EH-5aを組み合わせてお使いになることをおすすめします。ACアダプター接続中は、［**パワーオフ時間**］（□143）の設定にかかわらず、液晶モニターのパワーオフ時間は約30分に固定されます。

メニューガイド

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの▶アイコンを選ぶと、再生メニューが表示されます。

MENUボタン

再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	初期設定	🕮
削除	―	105
再生フォルダー設定	記録中のフォルダー	126
再生画面設定	―	126
撮影直後の画像確認	する	127
縦位置自動回転	しない	127
スライドショー	―	108
インターバル設定	2秒	
プリント指定（DPOF）	―	122
ストップモーション再生	―	172

再生フォルダー設定

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

画像はSDカード内のフォルダーに保存されます。

画像の再生（□93）時に表示するフォルダーを設定します。

記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。
全てのフォルダー	SDカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。

再生フォルダー設定についてのご注意

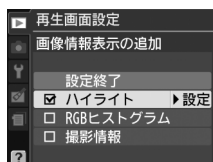
- ［**全てのフォルダー**］にした後に撮影を行うと、自動的に［**記録中のフォルダー**］に変更されます。全てのフォルダーの画像を再生するには、改めて［**全てのフォルダー**］にしてください。
- 画像を記録するフォルダーはセットアップメニューの［**記録フォルダー設定**］（□151）で設定できます。
- ［**記録中のフォルダー**］にして、SDカードを交換した後、撮影を行わずに画像を再生すると、液晶モニターに［撮影画像がありません。］と表示されます。［**全てのフォルダー**］に変更すると、SDカード内の画像が再生できます。

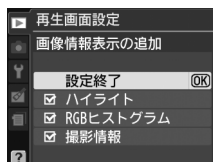
再生画面設定

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

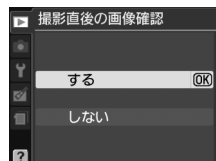
画像情報（□94）に、ハイライト表示やRGBヒストグラム表示、撮影情報を追加できます。

1 項目を選ぶ

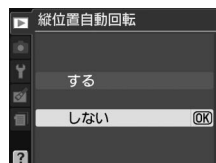
- 画像情報に表示したい項目を選択し、マルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。
- もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。

2 ［設定終了］を選ぶ

- ［**設定終了**］を選んでⓄKボタンを押すと、設定を完了します。

撮影直後の画像確認

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

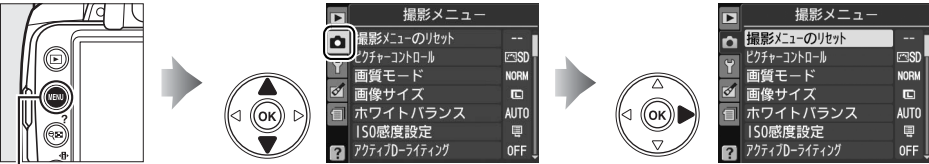
撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。
［**しない**］を選択した場合に撮影画像を表示確認するには▶ボタンを押してください。

縦位置自動回転

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示することができます。

☑ 縦位置自動回転についてのご注意

- ［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、セットアップメニューの［**縦横位置情報の記録**］（🕮141）を［**しない**］にして撮影した画像は、全て横位置で表示されます。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

撮影メニュー：撮影で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブのアイコンを選ぶと、撮影メニューが表示されます。

MENUボタン

撮影メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目			初期設定	
撮影メニューのリセット			ー	129
ピクチャーコントロール			スタンダード	89
画質モード			NORMAL	51
画像サイズ			サイズL	53
ホワイトバランス			オート	82
ISO感度設定				
	ISO感度	撮影モードAUTO、、、、、、、	オート	63、129
		撮影モードP、S、A、M	100	
	感度自動制御		しない	
アクティブD-ライティング			しない	65
色空間			sRGB	131
ノイズ低減			しない	132
レリーズモード			単写（1コマ撮影）	54
フォーカスモード			AFサーボモード自動切り換え	41
AFエリアモード				
	撮影モード、		シングルポイントAFモード	44
	撮影モード		ダイナミックAFモード	
	撮影モードAUTO、、、、、P、S、A、M		オートエリアAFモード	
内蔵AF補助光の照射			する	132
測光モード			マルチパターン測光	75
内蔵フラッシュ発光			TTLモード	133

撮影メニューのリセット

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

撮影メニューをリセットして初期設定に戻します（□128）。

撮影メニューのリセットについて

撮影メニューの項目の他に、次の撮影時の設定も初期設定に戻ります。

項目	初期設定	□
フォーカスポイント	中央※	46
プログラムシフト	解除	68
AE/AFロックボタンのホールド状態	解除	148
フラッシュモード		
撮影モードAUTO、、、	通常発光オート	60
撮影モード	通常発光オート＋スローシャッター	
撮影モードP、S、A、M	通常発光	
露出補正	解除（0.0）	78
フラッシュ調光補正	解除（0.0）	80
ピクチャーコントロールの調整	解除	90

※［**AFエリアモード**］が［**オートエリアAFモード**］のときは、フォーカスポイントは表示されません。

ISO感度設定

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

ISO感度（□63）と感度自動制御を設定します。

感度自動制御

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で使えます。感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

する	カメラが自動的にISO感度を変更します。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正になるように感度自動制御が機能します。 • 制御上限感度と低速限界設定を設定してください。
しない	［**ISO感度**］（□63）で設定したISO感度に固定されます。

• ［**する**］にしたときは、ISO感度の制御条件を設定してください。

制御上限感度	ISO感度が高くなると、低いときに比べて多少ざらついた画像になることがあります。感度自動制御で、ISO感度が高くなり過ぎないように上限感度（200～Hi 1）を設定できます。ISO感度の下限は100になります。
低速限界設定	撮影モード**P**または**A**で感度自動制御が働き始めるシャッタースピード（1/2000～1秒）を設定できます。ここで選択したシャッタースピードでは露出不足となる場合に、ISO感度を自動的に変更します。ただし、ISO感度を［**制御上限感度**］まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

［**感度自動制御**］を［**する**］にすると、インフォ画面に**ISO-A**、ファインダー内に**ISO-AUTO**が表示されます。

• **ISO-AUTO**マークが点灯している場合は、［**ISO感度**］で設定したISO感度で撮影されます。
• **ISO-AUTO**マークが点滅している場合は、設定したISO感度では適正露出が得られないため、カメラがISO感度を変更していることを示しています。

感度自動制御についてのご注意

• ［**ISO感度**］で設定したISO感度よりも、［**制御上限感度**］で設定したISO感度が低い場合、［**制御上限感度**］で設定したISO感度が優先されます。
• 内蔵フラッシュ撮影時または別売スピードライトSB-900、SB-800、SB-600またはSB-400の装着時にフラッシュモードをスローシャッターに設定していても、背景の明るさがより適正になるように感度自動制御が機能してISO感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります。

色空間

記録する画像の色空間を指定します。［**sRGB**］色空間は画像調整を行わずに再生やプリントをする場合に適しています。［**Adobe RGB**］色空間は、［**sRGB**］に比べて色域が広いため、商業印刷に適しています。

色空間についてのご注意

- カラーマネージメント機能を持たないアプリケーションで画像を開く場合、または印刷する場合には、sRGB色空間をおすすめします。
- Adobe RGB色空間で記録したJPEG画像は、DCFオプション色空間に対応しています。DCFオプション色空間に対応しているアプリケーションやプリンターの場合、自動的に正しい色空間が設定されます。DCFオプション色空間に対応していないアプリケーションやプリンターの場合は、Adobe RGB色空間に設定してください。詳細については、アプリケーションやプリンターの説明書をご覧ください。
- ExifPrint、市販プリンターなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスなどでプリントする場合、sRGB色空間をおすすめします。Adobe RGB色空間で記録すると、画像の彩度が低下することがあります。

ViewNXまたはCapture NX 2をお使いの場合

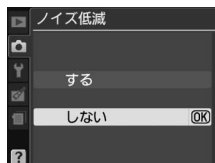
付属のソフトウェアViewNXまたは別売のCapture NX 2をお使いになると、正しい色空間での処理が自動的に行われます。

色空間とは

色を数値化して表現するときに、どの色にどの数値を対応させるかを定めたもので、「カラースペース」ともいいます。

ノイズ低減

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

シャッタースピードが約8秒より低速になったり、高感度で撮影したりすると、画像にノイズが入ることがあります。あらかじめ［**する**］にしておくと、このノイズを低減できます。

しない	ISO感度が800より高い場合のみ、ノイズの低減処理を行います。この場合のノイズ低減効果は、［**する**］に設定したときよりも弱めになります。
する	シャッタースピードが約8秒より低速になったり、ISO感度が400より高くなると自動的にノイズの低減処理を行います。 • シャッタースピードが低速になった時のノイズ低減処理中は、ファインダー内にjob nrが点滅します。この表示が消えるまで撮影はできません。 • シャッタースピードが低速になったときのノイズ低減処理には、シャッタースピードと同等の時間がかかります。

ノイズ低減についてのご注意

- ノイズ低減処理が行われると連写速度が遅くなります。また、連写可能コマ数も少なくなります。
- ノイズ低減処理中に電源をOFFにすると、処理は行われず、ノイズ低減処理を行う前の画像が保存されます。

内蔵AF補助光の照射

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

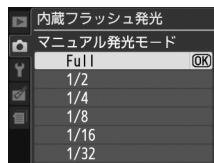
する	オートフォーカスでのピント合わせの際に次の条件が全て満たされたときに自動的にAF補助光を照射します。 • 被写体が暗い場合 • フォーカスモードが［**AF-S**］、または［**AF-A**］で自動的に［**AF-S**］が選ばれた場合 • ［**AFエリアモード**］（0044）が［**[ ] シングルポイントAFモード**］、［**[ ] ダイナミックAFモード**］、［**[3D] 3D-トラッキング（11点）**］で中央のフォーカスポイントを選択した場合、または［**[ ] オートエリアAFモード**］の場合 AF補助光ランプ
しない	AF補助光を照射しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります。

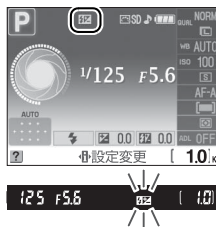
関連ページ

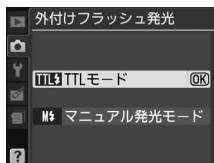
- 「AF補助光について」（0043）
- 「AF補助光撮影に制限のあるレンズについてのご注意」（00177）
- ［**内蔵AF補助光の照射**］を設定できる撮影モード → 「撮影モード別：設定できる機能一覧」（00197）

内蔵フラッシュ発光

撮影モードP、S、A、M で使えます。内蔵フラッシュの発光方式を設定できます。

TTL⚡	TTLモード	内蔵フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
M⚡	マニュアル発光モード	［**Full**］（フル発光）のほか、［**1/2**］～［**1/32**］の5段階の発光量を選べます。 • ［**Full**］（フル発光）に設定した場合、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約13（ISO 100・m、20℃）となります。

フラッシュ調光補正マークの表示について

［**マニュアル発光モード**］にすると、フラッシュ使用時にインフォ画面とファインダー内にマークが点滅します。

別売スピードライトSB-400を装着している場合について

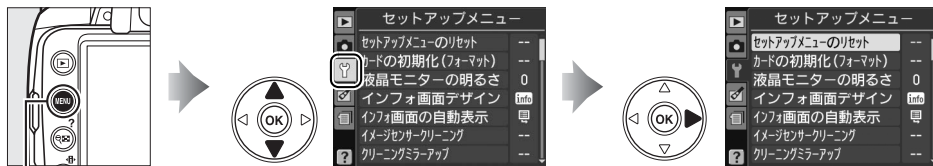
別売スピードライトSB-400を装着してスピードライトの電源をONにすると、［**内蔵フラッシュ発光**］が［**外付けフラッシュ発光**］に切り替わり、SB-400の発光方式を［**TTLモード**］または［**マニュアル発光モード**］に設定できます。

フラッシュ撮影時の発光量制御について

CPUレンズをお使いの場合、内蔵フラッシュの発光量は、次の2種類の制御方式のどちらかで決定されます。通常はi-TTL-BL調光ですが、測光モード（□75）を［**スポット測光**］にした場合は、スタンダードi-TTL調光になります。

i-TTL-BL調光	マルチパターン測光による測光情報を元に、メインの被写体と背景のバランスを考慮して発光量を決定します。
スタンダードi-TTL調光	背景の明るさを考慮せず、メインの被写体を基準にして発光量を決定します。メインの被写体の明るさを重視する場合や、露出を補正する場合に適しています。

別売スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400をお使いの場合も、内蔵フラッシュと同様に、i-TTL-BL調光に設定していても、測光モード（□75）を［**スポット測光**］にすると、スタンダードi-TTL調光になります。

セットアップメニュー：カメラを使いやすくする基本設定

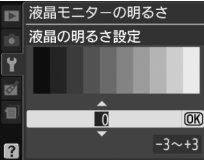
MENUボタンを押して、タブのアイコンを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。

MENUボタン

セットアップメニューの項目は次の通りです。

項目		初期設定	🕮
セットアップメニューのリセット		—	135
カードの初期化（フォーマット）		—	21
液晶モニターの明るさ			
	液晶の明るさ設定	0	135
	自動減光の設定	する	
インフォ画面デザイン		グラフィックデザイン：グリーン	136
インフォ画面の自動表示		自動表示する	138
イメージセンサークリーニング			
	電源スイッチに連動	電源ONとOFFで実行	190
クリーニングミラーアップ※1		—	192
ビデオ出力※2		—	138
地域と日時※2			
	夏時間の設定	しない	139
言語（Language）※2		—	140
画像コメント		—	140
縦横位置情報の記録		する	141

項目		初期設定	🕮
イメージダストオフデータ取得		—	141
パワーオフ時間		標準	143
セルフタイマー時間		10秒	143
リモコン待機時間		5分	143
電子音設定		する	144
ファインダー表示の設定			
	格子線の表示	しない	145
	フォーカスエイドインジケーター	しない	
連番モード		しない	146
ボタン動作のオプション			
	⏲/Fnボタンの機能	セルフタイマー設定	147
	AE/AFロックボタンの機能	AE-L/AF-L	
	半押しAEロック	しない	
カードなし時レリーズ		レリーズ禁止	148
デート写し込み設定		しない	149
記録フォルダー設定		—	151
Eye-Fi送信機能※3		有効	153
ファームウェアバージョン		—	153

※1 バッテリー残量表示が以下のときは選べません。

※2 販売地域によって異なります。

※3 この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます。

セットアップメニューのリセット　MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

セットアップメニューをリセットして、初期設定（□134）に戻します（［**ビデオ出力**］、［**地域と日時**］、［**言語（Language）**］、［**記録フォルダー設定**］を除く）。

液晶モニターの明るさ　MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

液晶モニターの明るさと省電力のための自動減光を設定します。

液晶の明るさ設定	液晶モニターの明るさを、マルチセレクターの▲または▼を押して－3～＋3の調整ができます。+にすると明るく、－にすると暗くなります。
自動減光の設定	［**する**］に設定すると、インフォ画面の表示中に時間経過とともに液晶モニターが暗くなります。

インフォ画面デザイン

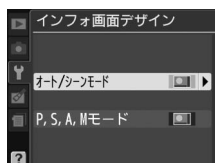
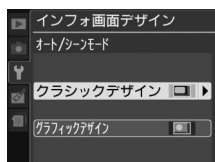
MENUボタン ➜ セットアップメニュー

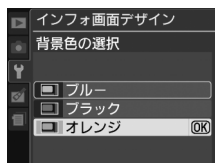
インフォ画面（□6）のデザインを、次のような「クラシックデザイン」、「グラフィックデザイン」の2種類から選べます。［**インフォ画面デザイン**］は、［**オート/シーンモード**］と［**P、S、A、Mモード**］でそれぞれ設定できます。

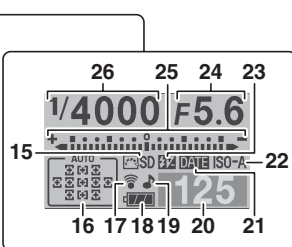
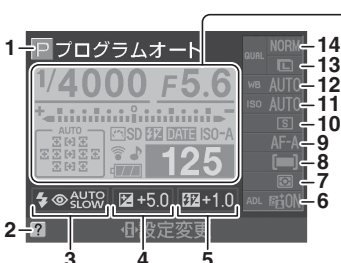
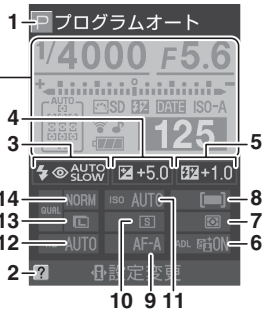
クラシックデザイン
（□137）

グラフィックデザイン
（□6）

インフォ画面デザインの設定方法

1 **［オート/シーンモード］または［P, S, A, Mモード］を選んで、マルチセレクターの▶を押す**

2 **設定したい画面デザインを選んで▶を押す**

3 **背景色を選んでⓀボタンを押す**

- ［**クラシックデザイン**］を選んだときは、背景色を［**ブルー**］、［**ブラック**］または［**オレンジ**］に変更できます。
- ［**グラフィックデザイン**］を選んだときは、背景色を［**グリーン**］、［**ブラック**］または［**ブラウン**］に変更できます。

クラシックデザインについて

「クラシックデザイン」の表示内容は次の通りです。

1	撮影モード （オート）または （発光禁止オート）で撮影する…… 25 シーンに合わせて撮影する…… 31 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**を使う…… 67	9	フォーカスモード…… 41	20	記録可能コマ数…… 26
2	ヘルプあり表示…… 206	10	レリーズモード…… 54	21	デート写し込み設定マーク…… 149
3	フラッシュモード…… 60	11	ISO感度…… 63	22	ISO-AUTOマーク…… 129
4	露出補正値…… 78	12	ホワイトバランス…… 82	23	マニュアル発光設定マーク…… 133 スピードライト調光補正マーク…… 183
5	フラッシュ調光補正値…… 80	13	画像サイズ…… 53	24	絞り値…… 70、71
6	アクティブD-ライティング…… 65	14	画質モード…… 51	25	露出インジケーター…… 72 露出補正インジケーター…… 79 フォーカスエイドインジケーター……145
7	測光モード…… 75	15	ピクチャーコントロール…… 89	26	シャッタースピード…… 69、71
8	AFエリアモード…… 44	16	オートエリアAF設定マーク…… 44 3D-トラッキング設定マーク…… 45 フォーカスポイント…… 46		
		17	Eye-Fi通信マーク…… 153		
		18	バッテリー残量表示…… 25		
		19	電子音マーク…… 144		

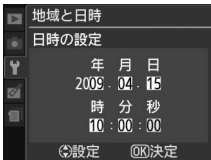
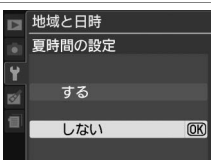
インフォ画面の自動表示

MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

- ［**自動表示する**］にすると、シャッターボタンを半押しして指を放すだけで、液晶モニターにインフォ画面を表示できます。また、［**撮影直後の画像確認**］が［**しない**］のときは、撮影直後もインフォ画面が表示されます。撮影設定を確認する機会が多いときに便利です。
- ［**自動表示しない**］にすると、シャッターボタンの半押しではインフォ画面を表示しません。インフォ画面を表示するには、infoボタンを押してください。
- ［**インフォ画面の自動表示**］は、［**オート/シーンモード**］と［**P、S、A、Mモード**］でそれぞれ設定できます。

ビデオ出力

MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

テレビやビデオなどに接続する場合のビデオ出力方式を設定します。

NTSC	NTSC方式のテレビやビデオに接続する場合に使います。通常、日本国内でお使いの場合は、こちらを選択します。
PAL	PAL方式のテレビやビデオに接続する場合に使います。

地域と日時

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。

現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、［**日時の設定**］で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
日時の設定	［**現在地の設定**］で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
日付の表示順	液晶モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、［**年/月/日**］、［**月/日/年**］、［**日/月/年**］から選びます。
夏時間の設定	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は［**する**］に、そうでない場合は［**しない**］に設定します。［**する**］にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は［**しない**］です。

言語（Language）

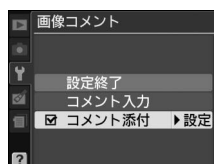
MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を、次の中から選べます。

Dk	Dansk	デンマーク語
De	Deutsch	ドイツ語
En	English	英語
Es	Español	スペイン語
Fi	Suomi	フィンランド語
Fr	Français	フランス語
It	Italiano	イタリア語
Nl	Nederlands	オランダ語
No	Norsk	ノルウェー語
Pl	Polski	ポーランド語
Pt	Português	ポルトガル語
Ru	Русский	ロシア語
Sv	Svenska	スウェーデン語
繁	中文(繁體)	繁体中国語
简	中文(简体)	簡体中国語
日	日本語	日本語
한	한글	韓国語

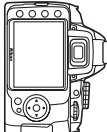
画像コメント

MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、付属のViewNXや別売のCapture NX 2（□186）のメタデータで確認できます。

コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。［**コメント入力**］を選ぶと、画像コメントの入力画面が表示されます。コメントを入力し、Ⓞボタンを押すと、コメントが登録されます。入力画面での文字の入力方法については、［**記録フォルダー設定**］の［**新規作成**］をご覧ください（□152）。

コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、［**コメント添付**］を選んでマルチセレクターの▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。［**設定終了**］を選んでⓄボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。

> **画像情報に表示される画像コメントについて**
> 入力・添付された画像コメントは、「撮影情報3」の「画像コメント」に表示されます（□98）。

縦横位置情報の記録

MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

する	液晶モニターや、付属のViewNXまたは別売のCapture NX 2（□186）で画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に回転表示されます。 記録されるカメラの縦横位置情報は、次の3種類です。 横位置 縦位置 時計回りに90º回転 縦位置 反時計回りに90º回転
しない	縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。

✔ 縦横位置情報記録についてのご注意

- レリーズモードが［**連写（連続撮影）**］（□54）の場合、最初の1コマを撮影した姿勢が記録されます。連続撮影中に構図を変えても、縦横位置情報には反映されません。
- カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

再生メニュー［縦位置自動回転］

再生メニューの［**縦位置自動回転**］（□127）では、［**縦横位置情報の記録**］を［**する**］に設定して縦位置で撮影された画像を、液晶モニターに縦位置で表示するように変更できます。

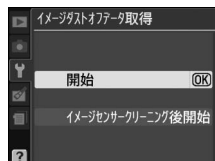
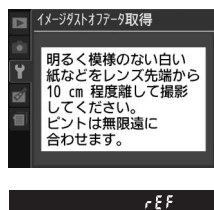
イメージダストオフデータ取得

MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

別売のCapture NX 2（□186）の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子の前面にあるローパスフィルターに付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、Capture NX 2の使用説明書をご覧ください。

イメージダストオフデータ取得の手順

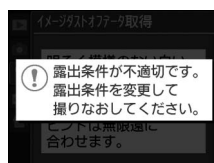
1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

- ［**開始**］を選んでⓄボタンを押すと、［イメージダストオフデータ取得］画面が表示されます。

- ［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選んでⓀボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、［イメージダストオフデータ取得］画面が表示されます。

- ファインダー内に、右のように表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、MENUボタンを押してください。

2 レンズ先端から10cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

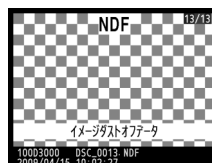
- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 被写体が暗いとき、ノイズ低減が自動的に実行される場合があります。その場合、SDカードへの記録に時間がかかることがあります。
- シャッターボタンを押すと、液晶モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。

✔ イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致しなくなるため、Capture NX 2のイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選択後に撮影することをおすすめします。

✔ イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、［**イメージダストオフデータ取得**］を選べません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のものをおすすめします（□175）。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。

パワーオフ時間

MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間や半押しタイマーがオフになるまでの時間を変更できます。

インフォ画面のパワーオフ時間は半押しタイマーに連動します。

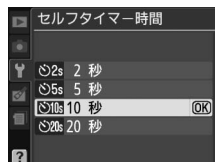
SHORT 短め	［**SHORT 短め**］、［**NORM 標準**］、［**LONG 長め**］の場合、何もしないまま下記の時間が経過すると、液晶モニターが消灯します。 • ［**再生/メニュー表示**］： SHORT 8秒、NORM 12秒、LONG 20秒 • ［**撮影直後の画像確認**］： SHORT 4秒、NORM 4秒、LONG 20秒 • ［**半押しタイマー**］： SHORT 4秒、NORM 8秒、LONG 1分
NORM 標準	
LONG 長め	
カスタマイズ	［**再生/メニュー表示**］、［**撮影直後の画像確認**］、［**半押しタイマー**］で液晶モニターが自動的に消灯までの時間をそれぞれ設定できます。各項目の設定後、［**設定終了**］を選んでOKボタンを押すと設定が有効になります。

パワーオフ時間について

- パワーオフ時間が長いほど、バッテリーの消耗が早くなります。
- 別売のパワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5a（□187）を接続しているときは、［**パワーオフ時間**］の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。
- パソコンやPictBridge対応のプリンターを接続しているときは（□111）、［**パワーオフ時間**］の設定にかかわらず、ファインダー内表示は消灯しません。

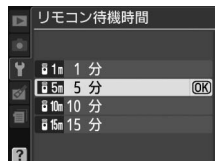
セルフタイマー時間

MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

セルフタイマー撮影時（□54）にシャッターがきれるまでの時間を変更できます。

リモコン待機時間

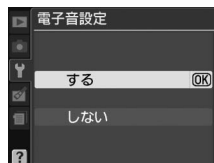
MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

リモコンモードに設定してから、カメラがリモコンからの信号を待ち受ける時間を設定します。

- リモコン待機時間を長くすると、カメラのバッテリーの消耗が早くなります。
- リモコンモードにしてから、リモコン撮影をしないままで受信待機時間が過ぎると、リモコンモードが解除され、［**S 単写（1コマ撮影）**］または［**連写（連続撮影）**］モード（□54）に戻ります。

電子音設定

電子音を鳴るようにしたり、鳴らないようにしたりできます。

［**する**］に設定すると、次の場合に電子音が鳴ります。

- セルフタイマー（□56）の作動中
- 2秒リモコン撮影（□56）の作動中
- 瞬時リモコン撮影（□56）の完了時
- オートフォーカスのピントが合ったとき（ただし、フォーカスモード（□41）が［**AF-C**］、または［**AF-A**］で被写体が動いているとカメラが判断したときは、電子音は鳴りません）

電子音設定時の表示について

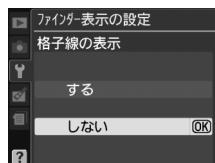
［**する**］のときはインフォ画面に♪マークが、［**しない**］のときは🔇マークが表示されます。

ファインダー表示の設定

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

ファインダー内の格子線の表示やフォーカスエイドインジケーターについて設定します。

格子線の表示

ファインダー内に構図用格子線を表示するかしないかを設定できます（□5）。

フォーカスエイドインジケーター

M以外の撮影モードでマニュアルフォーカスで撮影するときに、ピントのズレ具合をファインダーで確認できます。

［**する**］に設定して、フォーカスモードを［**MF**］（マニュアルフォーカス）（□42）にすると、ファインダー内の露出インジケーターが、次のようなフォーカスエイドインジケーターに切り替わります。

インジケーター	意味	インジケーター	意味
0	フォーカスポイント内の被写体にピントが合っています。	0	被写体の少し後方にピントが合っています。
0	被写体の少し前方にピントが合っています。	0	被写体のかなり後方にピントが合っています。
0	被写体のかなり前方にピントが合っています。		ピントエラー（ピントを合わせられません）

フォーカスエイドインジケーターについて

- 開放F値がF5.6以上明るいレンズで使えます。
- オートフォーカスの苦手な被写体（□42）では、適切に作動しないことがあります。

連番モード

MENUボタン ➜ Yセットアップメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	SDカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、以前からの続きの連番でファイル番号を付けます。複数のSDカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	SDカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 • 連番モードを［**する**］から［**しない**］に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に［**する**］に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。
RESET リセット	カメラが記憶しているファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、新しいフォルダーが作成され、「0001」からの連番でファイル番号が付けられます。

ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999に達しているときにファイル番号が9999に達するか、ファイル数が999個に達すると、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。この場合は、［**連番モード**］を［**リセット**］した後、SDカードを初期化するか、交換してください。

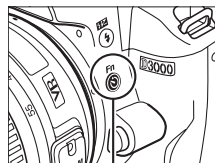
フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に999個のファイルが記録された場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号＋1という番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーが選ばれます。
- 撮影中にファイル番号が9999となった場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号＋1の番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーが選ばれます。

ボタン動作のオプション

/FnボタンとAE/AFロックボタンの機能や半押しAEロックの設定を変更できます。

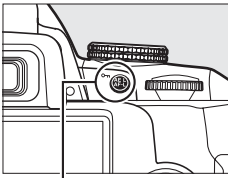
/Fnボタンの機能

Fn（）ボタンを押したときの機能を設定できます。

Fn（）ボタン

	セルフタイマー設定	**Fn**（）ボタンを押すと、セルフタイマー撮影（56）に切り替わります。
	レリーズモード設定※	**Fn**（）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、レリーズモード（54）が切り替わります。
QUAL	**画質モード/画像サイズ設定**※	**Fn**（）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、画質モード（51）と画像サイズ（53）の組み合わせが切り替わります。
ISO	**ISO感度設定**※	**Fn**（）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ISO感度（63）が切り替わります。
WB	**ホワイトバランス設定**※	**Fn**（）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランス（82）が切り替わります（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**のみ）。
	アクティブD-ライティング※	**Fn**（）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すとアクティブD-ライティング（65）が切り替わります。
	格子線表示設定※	**Fn**（）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ファインダーの構図用格子線の表示/非表示（145）が切り替わります。

※［**/Fnボタンの機能**］で選択した機能のアイコンは、インフォ画面で白黒反転して表示されます。［**レリーズモード設定**］の場合は、**Fn**アイコンが表示されます。

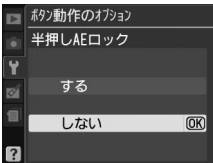
AE/AFロックボタンの機能

AE/AFロックボタンを押したときの機能を設定できます。

AE/AFロックボタン

AE-L/AF-L	AE/AFロックボタンを押すと、AEロック（□76）とフォーカスロック（□47）が同時に行われます。
AE-L	AE/AFロックボタンを押すと、AEロックだけが行われます。
AF-L	AE/AFロックボタンを押すと、フォーカスロックだけが行われます。
AE-L（ホールド）	AE/AFロックボタンを押すと、カメラの半押しタイマーがオフになるか、もう一度AE/AFロックボタンを押すまで、AEロックが維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。
AF-ON	AE/AFロックボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。

半押しAEロック

シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行うかどうかを設定できます。

カードなし時レリーズ

MENUボタン → セットアップメニュー

カメラにSDカードを入れていないときのレリーズ操作を設定できます。

LOCK レリーズ禁止	SDカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK レリーズ許可	SDカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。ただし、SDカードが入っていないときに撮影した画像は、液晶モニターに表示されますが、画像上に［**デモモード**］と表示され、プリントやSDカードへの保存はできませんのでご注意ください。

デート写し込み設定

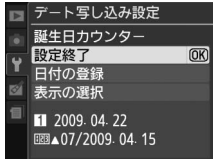
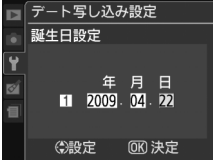
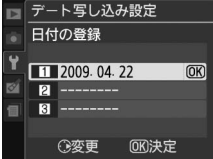
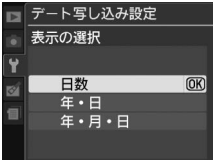
画像に直接日時を写し込みます。

しない	日付、時刻のどちらも写し込みません。	
DATE 年・月・日	撮影した画像の右下に、日付を写し込みます。	2009.04.15
DATE⊕ 年・月・日・時刻	撮影した画像の右下に、日付と時刻を写し込みます。	2009.04.15 10:02
123 誕生日カウンター（□150）	撮影した画像の右下に、撮影した日付と、（誕生日など）登録した日までの日数を写し込みます。	

デート写し込み設定をすると、インフォ画面にDATEが表示されます。

✔ デート写し込みについてのご注意

- 一度写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込んだりすることはできません。
- 年月日の並びは、［**地域と日時**］（□139）での設定と同じになります。
- RAWを含む画質モード（□51）の場合、日時を写し込みできません。

日時をプリントするには

デート写し込み設定を［**しない**］にして撮影した画像の場合も、次の方法で日時をプリントすることができます。

- カメラとプリンターを直接つないでダイレクトプリントするときは、［**日付プリント**］を［**あり**］に設定します（□116、120）。
- プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するときは、再生メニューの［**プリント指定（DPOF）**］で［**日付**］のチェックボックスに✔を入れます（□123）。

誕生日カウンターの使い方

誕生日や結婚式など記念日までの日数をカウントダウン形式で入れたり、お子様が産まれた日からの経過日数を入れたりするときなどに使います。

日付の登録	初めて誕生日カウンターを設定する場合、［誕生日設定］画面が表示されます。マルチセレクターで日付を設定してからⓀボタンを押すと、日付を登録できます。 • 日付は3種類まで登録できます。 • 他の日付に切り換えるには、［日付の登録］画面で1～3のいずれかを選んでⓀボタンを押してください。 • 登録した日付を変更したいときは、1～3のいずれかを選んで▶を押して、［誕生日設定］画面を表示してください。	
表示の選択	日数の表示形式を選んでⓀボタンを押してください。	

• ［**設定終了**］を選んでⓀボタンを押すと、設定を完了します。

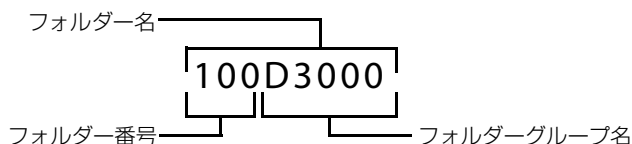
• 誕生日カウンターを使って撮影した画像には、次のように日付が写し込まれます。

記念日まであと2日の場合

記念日から2日後の場合

記録フォルダー設定

画像を記録するフォルダー（画像が記録される場所）を選んだり、新しく作成することができます。

フォルダー名は3ケタの数字（フォルダー番号）と5ケタの英数字（フォルダーグループ名）で構成されています。

■ 記録フォルダー選択

［**記録フォルダー選択**］を選ぶと、次のような［記録フォルダー選択］画面が表示され、画像を記録するフォルダーグループを選ぶことができます。

フォルダー選択画面の見方は次の通りです。

※ 記録フォルダーに設定したフォルダーグループは、［**空フォルダー削除**］で削除したり、SDカードを交換した場合でもそのまま表示されます。このフォルダーグループを選んだままで撮影を行うと、同じ名称のフォルダーグループが、再び作成されます。

▮▮新規作成

新しいフォルダーグループを作成します。［**新規作成**］を選ぶと、フォルダー名編集画面が表示されます。5文字までのフォルダーグループ名を入力し、Ⓞボタンを押すと、フォルダーグループが作成されます。

入力画面の操作方法

- 文字はカーソル位置に挿入されます。
- 入力エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、🔍ボタンを押します。
- 入力エリアのカーソルを左右に移動するには、コマンドダイヤルを回します。
- 入力エリアからあふれた文字は削除されます。
- 1文字削除するには、コマンドダイヤルを回して削除する文字の上にカーソルを移動させ、🗑ボタンを押します。
- MENUボタンを押すと、キャンセルして撮影メニューに戻ります。

▮▮フォルダー名変更

［**フォルダー名変更**］を選ぶと、フォルダーグループ名の一覧が表示されます。名称を変更したいフォルダーグループを選ぶと、グループ名編集画面が表示されます。5文字までのグループ名を入力し、Ⓞボタンを押すと、グループ名が変更され、同時にそのグループ内の全てのフォルダーのフォルダー名が変更されます。ただし、フォルダー番号は変更されません。

▮▮空フォルダー削除

画像が1コマも記録されていないフォルダーが全て削除されます。

☑ グループ内に複数のフォルダーがある場合のご注意

使用中のフォルダー内の画像ファイルが999コマに達するか、ファイル番号が9999に達した時に撮影を行うと、同じグループ名で番号が更新されたフォルダーが自動的に作成されます。

グループ内に複数のフォルダーがある場合、［**記録フォルダー選択**］でそのグループを選ぶと、グループ内でフォルダー番号が最大のフォルダーが選ばれます。たとえば、101D3000、102D3000というフォルダーがある場合、［**記録フォルダー選択**］で［**D3000**］を選ぶと、102D3000に画像が記録されます。

Eye-Fi送信機能

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

このメニューは、市販のEye-Fiカードをカメラに挿入したときのみ、表示されます。

有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効	Eye-Fi送信機能を使用しません。

- 電波の状態が悪い場合、［**有効**］に設定していても送信できないことがあります。
- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を［**無効**］にしてください。

Eye-Fiカード使用時の表示について

カメラ内のEye-Fiカードの通信状態は、インフォ画面のEye-Fi通信マークで確認できます。

- ：［**Eye-Fi送信機能**］が［**無効**］に設定されています。
- （点灯）：画像の送信を待っています。
- （点滅）：画像の送信中です。
- ：未送信の画像はありません。
- ：エラーが発生しました。

使用できるEye-Fiカードについて

このカメラでは、次のEye-Fiカードをお使いいただけます（2009年4月現在）。Eye-Fiカードのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。

- Eye-Fi Card 2GB
- Eye-Fi Share 2GB
- Eye-Fi Home 2GB
- Eye-Fi Explore 2GB

Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- Eye-Fi カードの使用方法は Eye-Fi カードの使用説明書をご覧ください。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。
- このカメラにはEye-Fiカードの通信機能を ON/OFF する機能がありますが、Eye-Fiカードの全ての機能を保障するものではありません。
- Eye-Fiカードは、ご購入された国でのみ使用が認められています（2009年4月現在）。使用する国の法律に従ってお使いください。

Eye-Fi送信機能が無効のときの警告表示について

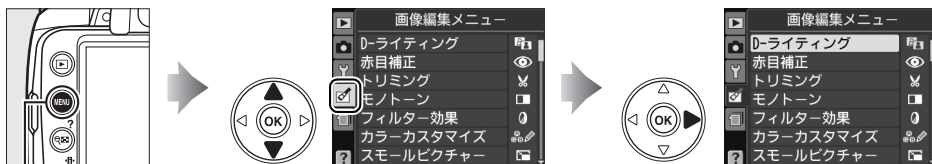
［**無効**］に設定しているときでも、電波が出力される場合があります。液晶モニターに警告表示（□207）が表示された場合は、カメラの電源をOFFにしてカードを取り出してください。

ファームウェアバージョン

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能

MENUボタンを押して、タブの アイコンを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。

MENUボタン

画像編集メニューでは、SDカード内の撮影済み画像を編集することができます。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像としてSDカードに記録されます。画像編集メニューの項目は次の通りです。

- カメラに SD カードが入っていない場合や SD カードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューは表示されません。

メニュー項目	📖
D-ライティング	157
赤目補正	158
トリミング	159
モノトーン	160
フィルター効果	161
カラーカスタマイズ	162
スモールピクチャー	163
画像合成※1	165
RAW現像	167
簡単レタッチ	168
塗り絵	168
ミニチュア効果	169
ストップモーション作成※1	169
編集前後の画像表示※2	173

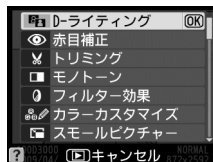
※1 MENUボタンを押して、タブの アイコンを選んだときのみ表示されます。

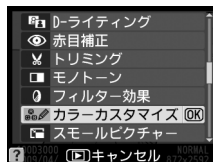
※2 編集前または編集後の画像を1コマ表示して ボタンを押したときのみ表示されます。

画像編集の操作方法

1 1コマ表示モード（□93）で編集したい画像を選ぶ

2 ㊉ボタンを押す

- 画像編集メニューが表示されます。

3 メニュー項目を選ぶ

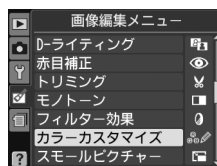
- マルチセレクターの▲または▼でメニュー項目を選んで㊉ボタンを押すと、選んだ項目の編集画面が表示されます。

4 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、▶ボタンを押してください。1コマ表示モードに戻ります。

5 編集した画像を記録する

- ㊉ボタンを押すと、編集した画像を記録します。
- 画像編集した画像には☑が付きます。

画像編集メニューから画像を選択する（MENUボタン ▶ ☑画像編集メニュー）

MENUボタンを押して画像編集メニューでメニュー項目を選んでから、編集を行いたい画像を選択することもできます。

メニュー項目を選び、▶を押す。

▶

編集する画像を選び、㊉ボタンを押す。

▶

選んだ画像を編集する

画像編集について

- このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまま12秒（初期設定）経過すると、液晶モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。セットアップメニュー［**パワーオフ時間**］（◻143）の［**再生/メニュー表示**］の時間を長く設定することをおすすめします。

画質モードと画像サイズについて

- ［**D-ライティング**］、［**赤目補正**］、［**モノトーン**］、［**フィルター効果**］、［**カラーカスタマイズ**］、［**簡単レタッチ**］、［**塗り絵**］、［**ミニチュア効果**］で作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録します。ただし、元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、［**画質モード**］が［**FINE**］、［**画像サイズ**］が［**サイズL**］のJPEG画像を作成します。
- ［**トリミング**］で作成した画像については、◻159をご覧ください。

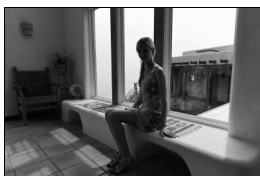
繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、退色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません（［**画像合成**］を除く）。
- 1つの画像に対して行うことのできる画像編集は、最大で10種類です。
- 画像編集の組み合わせによっては、繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

［デート写し込み設定］で日時を写し込んだ画像についてのご注意

セットアップメニュー［**デート写し込み設定**］（◻149）で日時を写し込んだ画像を編集する場合、画像編集機能の種類によっては、写し込んだ日時が切れたり、きれいに表示されないことがあります。

D-ライティング

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。

D-ライティング前

D-ライティング後

編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセレクターの▲または▼を押して、効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］の3段階から選びます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
- OKボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

赤目補正

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を、補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。

編集画面では、プレビュー画像が表示され、次の操作ができます。

操作	ボタン	説明	
拡大率を上げる	⊕	⊕ボタンを押すごとにプレビュー画像の拡大率が上がります。	赤目補正 / OK戻る
拡大率を下げる	⊖	プレビュー画像の拡大再生中は、⊖ボタンを押すごとに、プレビュー画像の拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）する	マルチセレクター	プレビュー画像の拡大再生中は、画面をスクロールして、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	拡大表示中にこれらの操作を行うと、画面の右下に画像全体が表示され、拡大部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えますが、もう一度操作すると表示されます。
拡大表示を終了する	OK	拡大表示中にOKボタンを押すと、拡大表示を終了します。	
画像を保存する	OK	補正した画像が記録されます。	

☑ 赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。

赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

トリミング

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。

切り抜く範囲を狭くする		ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が狭くなります。
切り抜く範囲を広くする		ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が広くなります。
画像のアスペクト比（縦横比）を変更する		コマンドダイヤルを回すと、縦横比を3：2、4：3、5：4、1：1、16：9に変更できます。
画面をスクロール（移動）する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。画面をスクロールさせて、切り抜きたい部分をプレビュー画像に表示します。
トリミングを実行して画像を保存する	OK	トリミングした画像が記録されます。

トリミング画像の画質モードと画像サイズについて

- トリミング画像の画質モード（51）は、元画像の画質モードが［**RAW**］または［**RAW+B**］のときは［**FINE**］になり、［**FINE**］、［**NORM**］、［**BASIC**］のときは元画像と同じ画質モードになります。
- トリミング画像の画像サイズは、トリミング時の拡大率とアスペクト比により、次のうちのいずれかになります。

アスペクト比	画像サイズ
3：2	3424×2280、2560×1704、1920×1280、1280×856、960×640、640×424
4：3	3424×2568、2560×1920、1920×1440、1280×960、960×720、640×480
5：4	3216×2568、2400×1920、1808×1440、1200×960、896×720、608×480
1：1	2560×2560、1920×1920、1440×1440、960×960、720×720、480×480
16：9	3424×1920、2560×1440、1920×1080、1280×720、960×536、640×360

モノトーン

モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

［**モノトーン**］を選ぶと、右のメニューが表示され、色調を選ぶことができます。

白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

編集画面では、プレビュー画像を表示します。

- ［**セピア**］または［**クール**］を選んだ場合は、マルチセレクターで色の濃さを調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。
- ㊵ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

フィルター効果

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

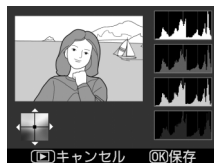
画像全体の色調などを演出できます。

スカイライト	スカイライトフィルターと同様に、画像の青みを抑える効果があります。	編集画面では、プレビュー画像を表示します。
ウォームトーン	画像を暖色にする効果があります。	
赤強調	赤色が強調されます。	マルチセレクターで強調の度合い（色の濃さ）を調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。
緑強調	緑色が強調されます。	
青強調	青色が強調されます。	
クロススクリーン	クロスフィルターのように、太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光の筋が伸びる効果があります。 • ［**光線の本数**］：光線の本数を、3種類から選べます。 • ［**クロスの量**］：クロスフィルターがかかる光源の量を3段階から選べます。 • ［**光線の傾き**］：光線の傾きを3段階から選べます。 • ［**光線の長さ**］：放射状に伸びる光の長さを3段階から選べます。	［**確認**］を選んでOKボタンを押すと、現在設定している内容を画像に反映します。拡大ボタンを押している間、1コマ表示モードと同じ大きさで画像を確認できます。保存する場合は［**保存**］を選んでOKボタンを押してください。
ソフト	画像をソフトな雰囲気に仕上げます。	マルチセレクターを▲または▼に押すと、効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］から選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。

• OKボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

カラーカスタマイズ

画像全体の色調を調整できます。

右のような画面が表示され、マルチセレクターで画像全体の色調を調整できます。▲▼◀▶を押すたびに、画面全体の色調が次のように変わります。	色調を操作すると、プレビュー画像と画面右側のRGBヒストグラム（色の分布図 ◻95）に反映されます。

- ⓄⓀボタンを押すと、編集した画像を記録します。

スモールピクチャー

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

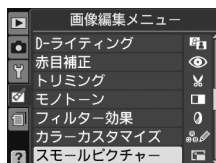
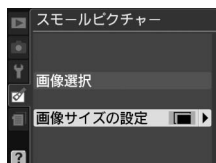
小さいサイズの画像（スモールピクチャー）を作成します。

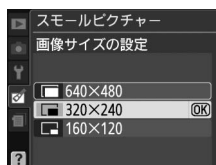
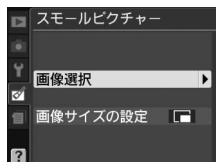
［**スモールピクチャー**］では、作成する画像の大きさ（ピクセル数）を次の中から選べます。

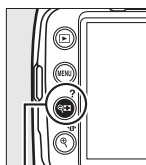
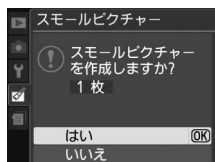
640×480	テレビでの表示に適しています。
320×240	ホームページでの使用に適しています。
160×120	電子メールへの添付に適しています。

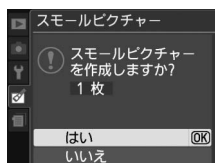
1コマ表示モードで画像を選んでから［**スモールピクチャー**］を実行する手順は、155と同様の操作ですが、MENUボタンを押して画像編集メニューを選ぶと、複数の画像のスモールピクチャーを作成できます。

複数の画像を選んでスモールピクチャーを作成する手順

1 **画像編集メニュー画面で［スモールピクチャー］を選ぶ**

2 **［画像サイズの設定］を選んでマルチセレクターの▶を押す**

3 **作成したいサイズを選ぶ**

- ▲または▼で、作成したいサイズを選んでOKボタンを押します。

4 **［画像選択］を選んで▶を押す**

5 スモールピクチャーを作成する画像を選ぶ

- ボタンを押して設定します。設定すると、選んだ画像の右上にアイコンが表示されます。
- ボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。
- ボタンを押すと、確認画面が表示されます。

ボタン

6 スモールピクチャーを作成する

- ▲または▼で、[**はい**]を選んでボタンを押すと、スモールピクチャーが記録され、再生画面表示になります。
- キャンセルして手順5に戻るには、[**いいえ**]を選んでボタンを押してください。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るには、MENUボタンを押してください。

スモールピクチャーについてのご注意

- スモールピクチャーは1コマ表示モード、サムネイル表示モードや、画像選択画面で、グレーの枠付きで表示されます。
- スモールピクチャーは拡大表示できません。
- 元画像とスモールピクチャーのアスペクト比が異なるため画像の長辺側が切り取られます。

画像合成

SDカードに記録されているRAW画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。
画像合成の手順は次の通りです。

1 画像編集メニュー画面で［画像合成］を選ぶ

- ［**画像合成**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、右のような画面が表示され、［**画像1**］欄がハイライト表示されます。

2 合成する画像の1コマ目を選ぶ

- ボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネイル一覧から、1コマ目の画像を選びます。
- ボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。

3 1コマ目の画像を決定する

- ボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、［**画像1**］欄にプレビューが表示されます。

4 2コマ目の画像を選ぶ

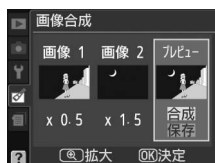
- ▶を押して［**画像2**］を選び、手順2〜3と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。

5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に［**画像1**］と［**画像2**］を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、［**画像1**］または［**画像2**］を選んでから▲または▼を押してゲイン（出力）を設定します。

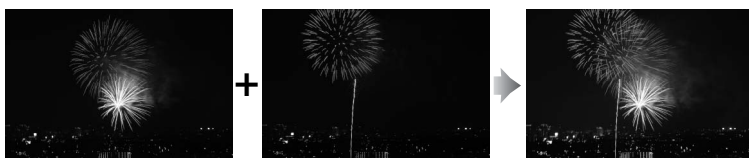
- ゲインは0.1〜2.0の範囲で、0.1刻みで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。

6 プレビュー欄に移動する

- ◀または▶を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、［**保存**］を選んで㊙ボタンを押してください。

7 合成画像を確認する

- ［**合成**］を選び、㊙ボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、⊖⊠を押してください。手順5の画面に戻ります。

8 合成画像を保存する

- もう一度㊙ボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。

☑ 画像合成についてのご注意

- 合成できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラやRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像の画質モード（□51）と画像サイズ（□53）は、合成時のカメラの設定になります（合成画像は全ての画質モード、画像サイズで保存できます）。画像合成を行う前に、これらの設定をご確認ください。合成した画像をさらに別のRAW画像と合成したいときは、画質モードをRAWに設定してください。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、［**画像1**］で選んだ画像の内容を引き継ぎます。

RAW現像（パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する）

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

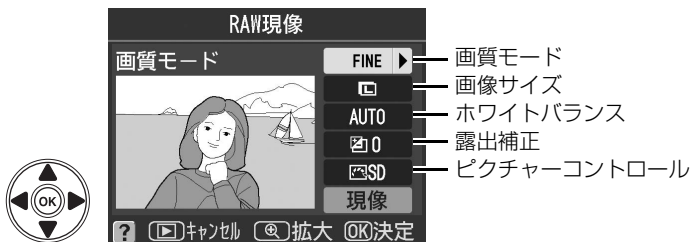
画質モード［**RAW**］または［**RAW+B**］（□51）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。

1 画像編集メニュー画面で［RAW現像］を選ぶ

- ［**RAW現像**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。

2 RAW現像する画像を選ぶ

- ▲▼◀▶で画像を選んで、OKボタンを押します。
- ボタンを押している間、選択画像を拡大表示できます。

3 ［画質モード］（□51）、［画像サイズ］（□53）、［ホワイトバランス］（□82）、［露出補正］（□78）および［ピクチャーコントロール］（□89）をそれぞれ設定する

- 作成したJPEG画像の［**色空間**］（□131）と［**ノイズ低減**］（□132）の内容は、撮影時ではなく、RAW現像時のカメラの設定になります。

4 RAW現像する

- ［**現像**］を選んでOKボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- RAW現像後のJPEG画像が保存され、1コマ表示になります。

- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、MENUボタンを押してください。

✔ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- ［**画像合成**］で編集した画像の場合、［**ホワイトバランス**］を選べません。
- ［**露出補正**］で設定できる明るさ（−3〜+3）は、通常の露出補正の段数とは異なります。

簡単レタッチ

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。

カメラがD-ライティングの機能を使って、画像の暗い部分を明るく補正したり、コントラストと彩度（色の鮮やかさ）を高めたりします。

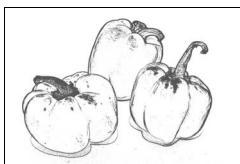
- マルチセレクターを▲または▼に押すと、効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］から選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。
- OKボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

塗り絵

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

輪郭を抽出して塗り絵の原画風の画像を作成できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- OKボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

塗り絵処理前

塗り絵処理後

ミニチュア効果

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

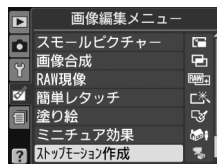
ミニチュア（模型）を接写したように加工します。ミニチュア効果には、高いところから見下ろして撮影した画像が適しています。

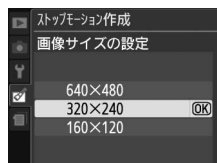
ぼかさない範囲を決める	▲▼	横位置で撮影した画像の場合、マルチセレクターの▲または▼を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。（ミニチュア効果／キャンセル 確認 保存／ぼかさない範囲）
	◀▶	縦位置で撮影した画像（141）の場合、◀または▶を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。（ミニチュア効果／キャンセル 確認 保存／ぼかさない範囲）
プレビューを表示する	⊕	プレビューが表示され、効果を確認できます。
キャンセルする	▶	編集中の画像を保存せずに、1コマ表示モードに戻ります。
ミニチュア効果を実行して画像を保存する	OK	ミニチュア効果の画像が記録されます。

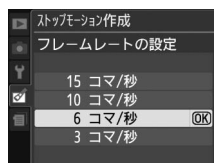
ストップモーション作成

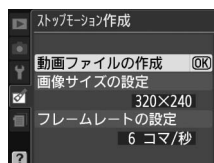
MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

撮影した画像をつなげて、動画として記録します。

1 画像編集メニュー画面で［ストップモーション作成］を選ぶ

2 画像サイズの設定を変える

- 必要に応じて［**画像サイズの設定**］で、画像サイズを選び、OKボタンを押します。

3 フレームレート（1秒間に再生されるコマ数）の設定を変える

- 必要に応じて［**フレームレートの設定**］でフレームレートを選び、Ⓞボタンを押します。
- フレームレートを変更すると、コマ送りの速度が変わります。

4 ［動画ファイルの作成］を選ぶ

- ［**動画ファイルの作成**］を選び、Ⓞボタンを押します。

5 マルチセレクターの◀または▶を押して、先頭画像（ストップモーションの最初の画像）を選ぶ

- マルチセレクターを押し続けると、高速でサムネイルを移動します。
- 画像を選んだ後、Ⓞボタンを押してください。

6 ◀または▶を押して、終了画像（ストップモーションの最後の画像）を選ぶ

- マルチセレクターを押し続けると、高速でサムネイルを移動します。
- 先頭画像と終了画像の間の画像には左上に✔が表示されます。
- 先頭画像より前にある画像を終了画像として選ぶと、逆方向にコマ送りされる動画になります。
- ストップモーションで使用できる画像は最大100コマです。

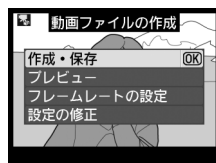
7 Ⓞボタンを押す

- Ⓞボタンを押すと、右のような画面が表示されます。
- 修正の必要がない場合は、［**作成**］を選んでⓄボタンを押し、手順9に進んでください。
- ストップモーションに入れたくない画像があるときや、先頭画像、終了画像を修正したいときは、［**修正**］を選んでⓄボタンを押し、手順8に進んでください。

8 ストップモーションを修正する

- 先頭画像を変えたいときは、［**先頭画像**］を選んで、手順5と同様の操作でもう一度先頭画像を選んでください。OKボタンを押すと手順7の画面に戻ります。
- 終了画像を変えたいときは、［**終了画像**］を選んで、手順6と同様の操作でもう一度終了画像を選んでください。OKボタンを押すと手順7の画面に戻ります。
- ストップモーションに入れたくない画像を取り除くには、［**中間画像**］を選んでから除きたい画像を選び、Q⊠ボタンを押してください。画像上の✔が消えます。設定が終わったらOKボタンを押してください。手順7の画面に戻ります。
- 修正せずに作成するときは［**修正しない**］を選んでOKボタンを押してください。

9 動画ファイルを作成する

- 右の画面で、［**作成・保存**］を選んでOKボタンを押すと、ストップモーションのファイルを作成して保存します。保存が終了すると、先頭画像が再生モードで1コマ表示されます。
- ［**プレビュー**］を選ぶと、保存する前に、設定した内容でストップモーションを再生できます。プレビュー中は、一時停止、巻き戻しや早送りができます。
- ［**フレームレートの設定**］を選ぶと、コマ送りの速度を変更できます。
- ［**設定の修正**］を選ぶと、手順8に戻り、ストップモーションを修正できます。

✔ ストップモーションについてのご注意

このカメラ以外で撮影した画像や、［**トリミング**］や［**スモールピクチャー**］で作成した画像は選択できません。

▮▮ストップモーション動画を再生する

再生メニューの［**ストップモーション再生**］（□125）では、作成したストップモーション動画を再生できます。

再生メニューで［**ストップモーション再生**］を選ぶと、作成したストップモーションのサムネイルが一覧表示されます。マルチセレクターの◀または▶でストップモーションを選び、Ⓞボタンを押して再生します。

ストップモーション動画再生中の操作方法：

操作	ボタン	説明
再生/一時停止	OK	Ⓞボタンを押すと再生します。もう一度押すと一時停止します。※
巻き戻し/早送り	◀▶	マルチセレクターの◀を押すと巻き戻し、▶を押すと早送りします。一時停止中に◀または▶を押すと、コマ送りします。
再生終了	▶ / ▲	▶ボタンまたはマルチセレクターの▲を押すとストップモーション動画の再生を終了します。

※一時停止中に何も操作しないまま3分経過すると、再生が終了してストップモーション再生開始直前の画面に戻ります。

編集前後の画像表示

画像編集を行った画像を、元画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示してOKボタンを押したときのみ表示されます。

■編集前後の画像表示方法

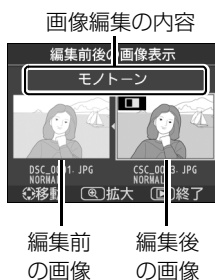
1　1コマ表示モードで画像を選ぶ

- 画像編集で作成した画像（✓が表示されている画像）または画像編集の元画像を選びます。
- 画像を選んでOKボタンを押すと、画像編集メニュー項目を表示します。

2　［編集前後の画像表示］を選ぶ

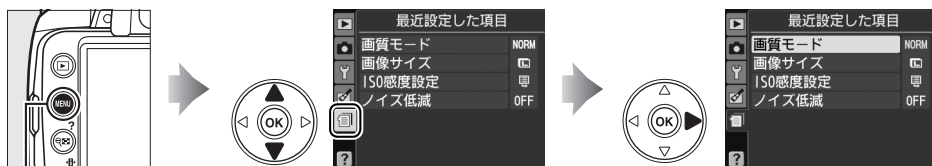
- ［**編集前後の画像表示**］を選んでOKボタンを押すと、［編集前後の画像表示］画面を表示します。

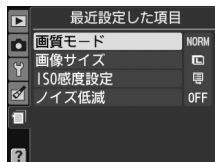
3　編集前と編集後の画像を比較する

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクターの◀または▶で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、▲または▼で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、▲または▼で編集後の画像を切り換えられます。
- 🔍ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- OKボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示モードで再生します。
- ▶ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

✓ 編集前後の画像表示についてのご注意

編集時の元画像にプロテクト（□104）が設定されている場合や、元画像を削除した場合、編集前の画像には表示されません。

最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

MENUボタンを押して、タブのアイコンを選ぶと、［最近設定した項目］画面が表示されます。

MENUボタン

最後に設定したメニュー項目から順番に最新の20項目が自動的に表示されます。マルチセレクターで設定したいメニュー項目を選んで▶を押すと、選択した項目の設定画面が表示されます。

最近設定した項目を削除するには

［**最近設定した項目**］画面で削除したい項目を選んでボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

資 料

このカメラで使えるアクセサリーやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。また、カメラの動作がおかしいときや警告メッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。

使用できるレンズ

このカメラでオートフォーカスでピントを合わせるには、AF-SレンズまたはAF-Iレンズが必要です。

- AF-SやAF-I以外のオートフォーカス（AF）レンズを装着しても、このカメラではオートフォーカス撮影できません。また、IXニッコールレンズは装着できません。
- このカメラで使用できるCPUレンズとレンズの仕様による撮影時の制限は次のとおりです。

モード	フォーカスモード			撮影モード		測光モード		
	オートフォーカス（AF）	フォーカスエイド	マニュアルフォーカス（MF）	M以外	M	マルチパターン測光		中央部重点測光/スポット測光
レンズ						3D-RGB	RGB	
AF-Iレンズ、AF-Sレンズ※1	○	○	○	○	○	○	×	○※2
Gタイプレンズ、DタイプのAFレンズ※1	×	○	○	○	○	○	×	○※2
PC-E NIKKORシリーズ	×	○※3	○	○※3	○※3	○※3	×	○※2,3
PCマイクロ 85mm F2.8D※4	×	○※3	○	×	○	○	×	○※2
AF-S/AF-Iテレコンバーター※5	○※6	○※6	○	○	○	○	×	○※2
Gタイプ・Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	×	○※7	○	○	○	×	○	○※2
AI-Pニッコール	×	○※8	○	○	○	×	○	○※2

※1 カメラの機能を最大限に引き出すためには、AF-SまたはAF-Iレンズをお使いになることをおすすめします。このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
※2 フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能（□75）。
※3 アオリ操作をしていない場合のみ可能。
※4 カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作（シフトまたはティルト）をしているとき、または開放絞り以外に絞り値が設定されているときには、正しく機能しません。
※5 AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用。
※6 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。
※7 AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S（New）、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
※8 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。

✔ AF-S レンズ、AF-Iレンズの見分け方

AF-S、AF-I は、レンズ名の次の部分に明示されています。

AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR

レンズ名のこの部分がAF-SまたはAF-Iであることをご確認ください。

レンズの開放F値とは

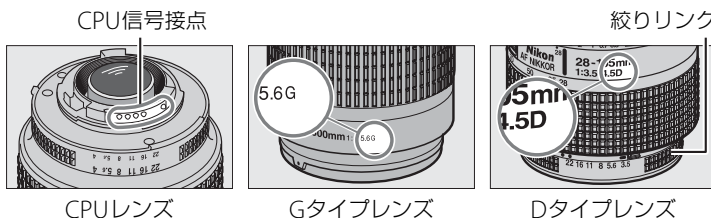
レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5–5.6」などと記されています。

✔ CPUレンズ、Gタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

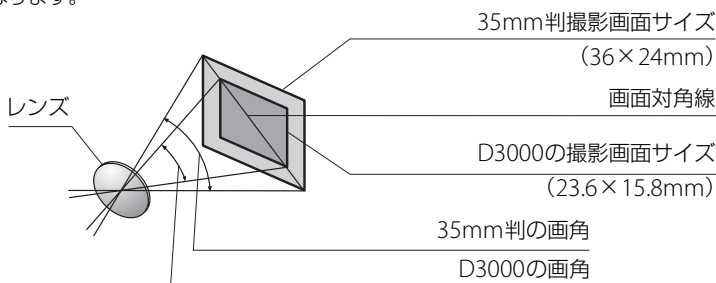
CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。Gタイプレンズには、絞りリングがありません。

CPUレンズ

Gタイプレンズ

Dタイプレンズ

レンズの画角と焦点距離について

D3000ではさまざまなニコン一眼レフカメラ用レンズが使用できます。ただし、これらのレンズをD3000に装着したときの画角は、レンズに表記されている焦点距離の1.5倍のレンズに相当する画角になります。これは35 mm判カメラの撮影画面サイズ（36×24 mm）に対して、D3000の撮影画面（約23.6×15.8 mm）が小さいためです。

例：D3000に24 mmのレンズを装着した場合の画角は、35 mm判カメラ換算でおおよそ36mmの焦点距離となります。

✔ 赤目軽減モードについてのご注意

レンズの種類によっては、赤目軽減ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に充分な赤目軽減効果が得られない場合があります。

✔ AF補助光撮影（□43）に制限のあるレンズについてのご注意

AF補助光を使ってオートフォーカス撮影ができないレンズ

- AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED
- AF-S VR ED 70–200mm f/2.8G
- AF-S NIKKOR 70–200mm f/2.8G ED VR Ⅱ
- AF-S ED 80–200mm f/2.8D
- AF-S VR ED 200mm f/2G
- AF-S VR ED 200–400mm f/4G

次のレンズでは、撮影距離1m以内でAF補助光がレンズによってさえぎられる場合があります。この場合、AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。

- AF-S ED 17–35mm f/2.8D
- AF-S DX ED 17–55mm f/2.8G
- AF-S DX NIKKOR 18–105mm f/3.5-5.6G ED VR
- AF-S DX VR ED 18–200mm f/3.5–5.6G
- AF-S DX NIKKOR 18–200mm f/3.5–5.6G ED VR Ⅱ
- AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED
- AF-S VR ED 24–120mm f/3.5–5.6G
- AF-S ED 28–70mm f/2.8D
- AF-S VR マイクロ ED 105mm f/2.8G

✔ ファインダーの周辺が暗くなる現象について

一部のレンズの装着時には、ファインダーをのぞいたときに周辺が暗くなっていることがありますが、撮影した画像には影響ありません。

☑ 内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについてのご注意

- 内蔵フラッシュ撮影には、焦点距離が18mmから300mmまでのレンズが使用できます。
  - ケラレを防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。
  - 撮影距離60cm未満では使用できません。
  - マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
  - 次のCPUレンズではフラッシュの光がさえぎられるため、焦点距離や撮影距離に制限があります。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S DX NIKKOR 10–24mm f/3.5–4.5G ED	• 焦点距離24mmでは撮影距離2.5m以上
AF-S DX ED 12–24mm f/4G	• 焦点距離20mmでは撮影距離3m以上 • 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上
AF-S DX NIKKOR 16–85mm f/3.5–5.6G ED VR	• 焦点距離24mm以上は制約なし
AF-S ED 17–35mm f/2.8D	• 焦点距離24mmでは撮影距離2m以上 • 焦点距離28mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離35mmでは制約なし
AF-S DX ED 17–55mm f/2.8G	• 焦点距離28mmでは撮影距離1.5m以上 • 焦点距離35mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離45mm以上は制約なし
AF ED 18–35mm f/3.5–4.5D	• 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離28mm以上は制約なし
AF-S DX ED 18–70mm f/3.5–4.5G	• 焦点距離18mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離24mm以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18–105mm f/3.5–5.6G ED VR	• 焦点距離18mmでは撮影距離2.5m以上 • 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上
AF-S DX ED 18–135mm f/3.5–5.6G	• 焦点距離18mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離24mm以上は制約なし
AF-S DX VR ED 18–200mm f/3.5–5.6G	• 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離35mm以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18–200mm f/3.5–5.6G ED VR II	• 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離35mm以上は制約なし
AF 20–35mm f/2.8D	• 焦点距離24mmでは撮影距離2.5m以上 • 焦点距離28mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離35mmでは制約なし
AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED	• 焦点距離35mmでは撮影距離1.5m以上 • 焦点距離50mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離70mmでは制約なし
AF-S VR ED 24–120mm f/3.5–5.6G	• 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 • 焦点距離28mm以上は制約なし
AF-S ED 28 –70mm f/2.8D	• 焦点距離35mmでは撮影距離1.5m以上 • 焦点距離50mm以上は制約なし
AF-S VR ED 200–400mm f/4G	• 焦点距離250mmでは撮影距離2.5m以上 • 焦点距離350mmでは撮影距離2m以上
PC-E NIKKOR 24mm f/3.5 ED	• アオリ操作をしていない状態で撮影距離3m以上

  - AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED使用時は、全ての撮影距離でケラレが発生します。

使用できる非CPUレンズ※1

モード / レンズ	フォーカスモード			撮影モード		測光モード	
	オートフォーカス（AF）	フォーカスエイド	マニュアルフォーカス（MF）	M以外	M	マルチパターン測光	中央部重点測光/スポット測光
AI-S、AI、シリーズEレンズ、AI改造レンズ	×	○※2	○	×	○※3	×	×
メディカル120mm f/4	×	○	○	×	○※4	×	×
レフレックスレンズ	×	×	○	×	○※3	×	×
PCニッコール	×	○※5	○	×	○※3	×	×
AI-S、AIテレコンバーター	×	○※6	○	×	○※3	×	×
ベローズPB-6 ※7	×	○※2	○	×	○※3	×	×
オート接写リング（PK-11A、12、13、PN-11）	×	○※2	○	×	○※3	×	×

※1 一部装着不可能なレンズがあります（下記参照）。
※2 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
※3 露出インジケーターは使用不可。
※4 フラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードで使用可。露出インジケーターは使用不可。
※5 アオリ操作をしていない場合のみ可能。
※6 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。
※7 縦位置にして装着してください（装着後、横位置に戻すことは可能です）。

非CPUレンズについてのご注意

- 非CPUレンズ装着時は、撮影モード**M**で撮影してください。**M**以外の撮影モードでは、シャッターがきれません。
- 絞り値の設定や確認はレンズの絞りリングで行ってください。
- カメラの露出計は使えません。
- i-TTLモードでのフラッシュ撮影などの機能は使えません。

使用できない非CPUレンズ

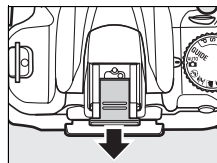
次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

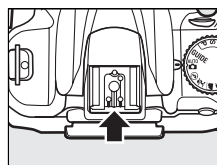
- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ（AI方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180–600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360–1200mm f/11（製品No.174031～174127）
- 200–600mm f/9.5（製品No.280001～300490）
- F3AF用（AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm f/4（製品No.180900以前の製品）
- PC35 mm f/2.8（製品No.851001～906200）
- 旧PC35 mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品No.200111～200310）

使用できるスピードライト（別売フラッシュ）

このカメラは、ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで、さまざまな機能が利用できます。なお、別売スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。

別売スピードライトをカメラに装着するには

1 アクセサリーシューカバーを取り外す

2 別売スピードライトをアクセサリーシューに取り付ける

- SB-900、SB-800、SB-600、SB-400などのセーフティーロックピン付きのスピードライトを取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。
- スピードライトの取り付け方は、ご使用になる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。

ホットシューアダプター AS-15

別売のホットシューアダプター AS-15を装着すると、シンクロターミナルが利用できます。

他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）について

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、様々な機能を提供します。

ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト

SB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200の主な仕様

	SB-900※1	SB-800	SB-600	SB-400	SB-R200※2
ガイドナンバー（ISO 100・m/ISO 200・m、20℃）	34/48（照射角35mm、スタンダード配光時）	38/53（照射角35mm時）	30/42（照射角35mm時）	21/30	10/14

※1 カメラのホワイトバランスをAUTO（オート）または⚡（フラッシュ）に設定し、SB-900用カラーフィルターを装着して撮影すると、カメラが自動的にフィルターを識別し、最適なホワイトバランスを設定します。

※2 リモート発光用スピードライトSB-R200を使用するには、SB-900、SB-800、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800が必要です。

SU-800

ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800は、CLS対応カメラに装着すると、ワイヤレスでSB-900、SB-800、SB-600、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて制御できます。SU-800には発光機能はありません。

ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離（m）」（ISO感度が100の場合）という関係があります。SB-800はガイドナンバーが38（照射角35mm、ISO感度100、20℃）なので、ISO感度が100で絞り値がF5.6なら、38÷5.6＝約6.8mまでフラッシュの光が届くことになります。また、実効ガイドナンバーはISO感度が2倍になると約1.4倍（$\sqrt{2}$倍）になります。たとえば、このカメラでISO感度200でSB-800を使用すると、絞り値がF5.6なら38÷5.6×1.4＝約9.5mまで光が届きます。

SB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200との組み合わせで使用できる機能

スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-R200を使用する場合、スピードライトとレンズの組み合わせによって次の機能が使用できます。

			1灯のみで使用			アドバンストワイヤレスライティング				
						主灯として使用		補助灯として使用		
スピードライト			SB-900 SB-800	SB-600	SB-400	SB-900 SB-800	SU-800※1	SB-900 SB-800	SB-600	SB-R200
発光モード	i-TTL※2	i-TTL-BL調光	○※3	○※3	○※3,4	○	○	○	○	○
		スタンダードi-TTL調光	○※5	○※5	○	—	—	—	—	—
	AA	絞り連動外部自動調光※2	○※6	—	—	○※7	○※7	○※7	—	—
	A	外部自動調光	○※6	—	—	○※7	—	○※7	—	—
	GN	距離優先マニュアル発光	○	—	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○※4	○	○	○	○	○
	RPT	リピーティングフラッシュ	○	—	—	○	○	○	○	—
機能		マルチエリアAF補助光※2	○	○	—	○	○	—	—	—
		発光色温度情報伝達	○	○	○	○	—	—	—	—
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○	○	○	○
	👁	赤目軽減発光	○	○	○	○	—	—	—	—
		オートパワーズーム	○	○	—	○	—	—	—	—
		感度自動制御（🕮129）	○	○	○	—	—	—	—	—

※1 SU-800本体に発光機能はありません。表中の○は、SU-800がコマンダーとして補助灯を制御できる機能です。

※2 非CPUレンズ装着時は使えません。

※3 スポット測光時は設定できません。

※4 カメラ側で設定できます（🕮133）。

※5 SB-900、SB-800、SB-600の場合は、スピードライト側でも設定できます。

※6 **AA**モードと**A**モードの選択は、SB-900、SB-800のカスタム設定で行います。

※7 SB-900、SB-800のカスタム設定にかかわらず、優先的に**AA**モードになります。

その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（**A**）あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト			SB-80DX/ SB-28DX	SB-50DX※1	SB-28/SB-26/ SB-25/SB-24	SB-30/SB-27※2 SB-22S/SB-22/ SB-20/SB-16B/ SB-15	SB-23/SB-29※3/ SB-21B※3/ SB-29S※3
区分	**A**	外部自動調光	○	―	○	○	―
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
	RPT	マルチフラッシュ	○	―	○	―	―
	REAR※4	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 撮影モードを**P**、**S**、**A**、**M**に設定し、内蔵フラッシュを収納した状態にして内蔵フラッシュが光らないようにしてください。内蔵フラッシュが自動的に上がって光ることがあるため、その他の撮影モードは使用しないでください。

※2 このカメラとSB-27を組み合わせると自動的にTTLモードになりますが、TTLモードでは使えません。SB-27をAモードに設定しなおしてください。

※3 SB-29・21B・29Sでオートフォーカスができるレンズは、AF-S VR マイクロニッコール ED 105mm F2.8GレンズとAF-S Micro NIKKOR 60mm F2.8G EDのみです。

※4 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

スピードライト使用時のご注意

- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。
- フラッシュモード（□60）の AUTO（オート：自動発光）機能は解除され、常に外付けのスピードライトが発光します。
- スピードライトを使うと、撮影モード、の場合も、フラッシュ撮影できます。
- スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800装着時に外付けスピードライト側で調光補正をしたときは、インフォ画面に（外付けスピードライト調光補正）マークが点灯します。
- i-TTL や外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出不足になる可能性のある場合には、発光直後にレディーライトが約3秒間点滅し、露出アンダー警告を行います。

- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO 100～1600相当です。
- ISO感度を1600よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。
- スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシャッターの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- SB-900、SB-800、SB-600以外のスピードライトとの組み合わせでは、カメラのAF補助光を照射します（🕮43）。
- スピードライトSB-900、SB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800の使用時に、AF補助光の発光条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光を自動的に照射します。
- スピードライトSB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離で全てのフォーカスポイントを照射しますが、オートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が17mmから105mmの場合		**AFレンズの焦点距離が106mmから135mmの場合**	

- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離で照射とオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AFレンズの焦点距離が24mmから34mmの場合		**AFレンズの焦点距離が35mmから105mmの場合**	

- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

使用できるアクセサリー

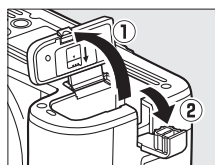
このカメラには撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

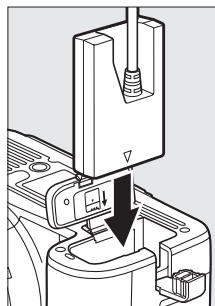
電源	• **Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9a**（□14、15） - ニコンデジタルカメラ D3000 用のバッテリーです。EN-EL9a を充電するには、クイックチャージャー MH-23を使用します。 - EN-EL9aの代わりにLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9も使えます。 • **クイックチャージャー MH-23**（□14） Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9a/EN-EL9用のチャージャーです。 • **パワーコネクター EP-5、ACアダプター EH-5a**※ ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。 - このカメラは、カメラ本体とACアダプターを接続するためにパワーコネクターEP-5が必要です。カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法」（□187）をご覧ください。 - EH-5aの代わりにACアダプター EH-5も使えます。 ※ 日本国内専用電源コード（AC 100V対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。
ビデオケーブル	• **ビデオケーブルEG-D100** ビデオケーブルでカメラをテレビに接続することによって、撮影した画像をテレビで見ることができます。
フィルター	• ニコンフィルターには、ネジ込み式、後部交換式、および組み込み式の3種類があります。他社製の特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL）をお使いください。 • フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L37C、またはNCフィルターの使用をおすすめします。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生する恐れがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、［**測光モード**］（□75）を［**中央部重点測光**］にして撮影することをおすすめします。［**マルチパターン測光**］では、充分な効果が得られない場合があります。詳しくは、フィルターの使用説明書をご覧ください。

ファインダー用 アクセサリー	• **接眼補助レンズDK-20C** 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。－5、－4、－3、－2、0、＋0.5、＋1、＋2、＋3m^{-1}の9種類が用意されていますが、いずれもこのカメラの視度調節レバーが基準位置（－1m^{-1}）の場合の値です。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能がついています（－1.7～＋0.5m^{-1}）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにお使いください。なお、接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当ては使用できません。 • **マグニファイヤー DG-2** ファインダー中央部の像を拡大します。接写や複写、超望遠レンズでの撮影など、より厳密なピント合わせが必要なときに使います。装着には、別売のアイピースアダプターが必要です。 • **アイピースアダプター DK-22** 上記DG-2を取り付けるためのアダプターです。 • **角窓用変倍アングルファインダー DR-6** カメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。
スピードライト （□180）	• **ニコンスピードライトSB-900、SB-800、SB-600、SB-400** • **ニコンワイヤレスリモートスピードライトSB-R200** • **ニコンワイヤレススピードライトコマンダー SU-800**
ニコンデジタル カメラ専用 ソフトウェア	• **Capture NX 2** 画像を詳細に編集できる、画像編集用ソフトウェアです。ホワイトバランス調整やカラーコントロールポイントなどさまざまな機能を備えています。必ず最新版※にバージョンアップしてお使いください。 ※ お使いのパソコンがインターネットに接続されていれば、ソフトウェアの起動時にニコンメッセージセンター（Nikon Message Center）が自動的に更新情報をチェックします。 • 対応OSについては、当社ホームページのサポート情報（□xvi）でご確認ください。
ボディー キャップ	• **ボディーキャップBF-1A** レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ミラーやファインダースクリーンなどへのゴミやホコリの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。
リモコン （□56）	• **リモコンML-L3** ワイヤレスでシャッターをきることができ、記念写真などに便利です。また、手ブレを防止するケーブルレリーズの代わりとしても利用できます。 **リモコン用電池（CR2025型3Vリチウム電池）の交換方法** 電池室のノブを右側に押しながら（①）、隙間に爪などを差し込んで手前に引き出してください（②）。リチウム電池を入れる際は、「+」と「－」の向きをよくご確認ください（④）。

カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法

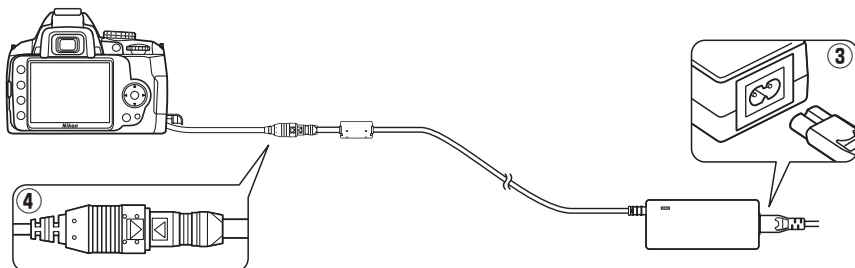
カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源がOFFになっていることを確認してください。

1 カメラのバッテリー室カバー（①）とパワーコネクターカバー（②）を開ける

2 パワーコネクター EP-5を入れる

- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。

3 カメラのバッテリー室カバーを閉じる

- パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリー室カバーを閉じます。

4 パワーコネクターとACアダプターを接続する

- 電源コードのACプラグを、EH-5aのACプラグ差し込み口に差し込みます（③）。
- パワーコネクター EP-5のDCプラグコネクターにEH-5aのDCプラグを差し込みます（④）。
- パワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5a使用時には、液晶モニター上のバッテリー残量表示が ![AC] に変わります。

推奨SDカード

次のSDカードの動作を確認しています。

- 次の容量のSDカードであれば、内部データ転送速度にかかわらず使用できます。

SanDisk製	512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2、8 GB※2、16 GB※2
東芝製	512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2、8 GB※2、16 GB※2、32 GB※2
Panasonic製	512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2、6 GB※2、8 GB※2、12 GB※2、16 GB※2、32 GB※2
LEXAR MEDIA社製	512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2、8 GB※2 プラチナⅡシリーズ：512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2、8 GB※2 プロフェッショナルシリーズ：1 GB、2 GB※1、4 GB※2、8 GB※2

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC 規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。

- 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、SDカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のSDカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。

カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、次の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%をこえる場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブロアーで払います。スプレー缶タイプのブロアーは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずをブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- とくに業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

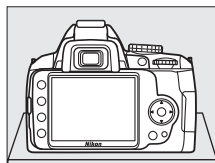
ローパスフィルターを自動で掃除する（イメージセンサークリーニング）

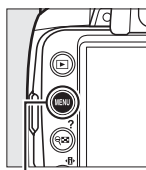
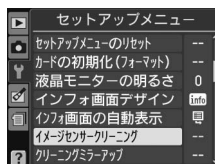
レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、ローパスフィルターを振動させてゴミをふるい落とすことができます。

イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

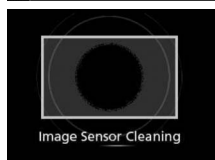
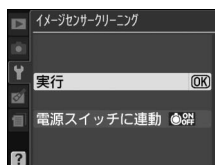
セットアップメニューの［イメージセンサークリーニング］から操作する

1 カメラを右図のように正位置に置く

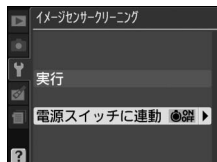
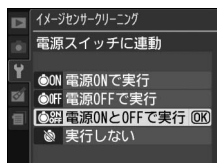
- 効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてイメージセンサークリーニングを行ってください。

2 ［イメージセンサークリーニング］を選ぶ

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**イメージセンサークリーニング**］を選びます。マルチセレクターの▶を押すと、［イメージセンサークリーニング］画面が表示されます。

MENUボタン

3 ［実行］を選ぶ

- ［**実行**］を選んでOKボタンを押すと、イメージセンサークリーニングを開始します。

- イメージセンサークリーニング中は、右の画面が表示されます。

■電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニングする

1 **［イメージセンサークリーニング］画面で［電源スイッチに連動］を選ぶ**

- ［**電源スイッチに連動**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［電源スイッチに連動］画面が表示されます。

2 **次の項目から選んで、OKボタンを押す**

ON	**電源ONで実行**	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
OFF	**電源OFFで実行**	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
ON OFF	**電源ONとOFFで実行**	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
	実行しない	電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

イメージセンサークリーニングについてのご注意

- イメージセンサークリーニング作動中にカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- カメラの電源ON時に内蔵フラッシュの充電が行われるときは、カメラの電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動する設定になっていても、イメージセンサークリーニングを行わないことがあります。
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、ローパスフィルターを市販のブロアーで掃除する（□192）か、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続して行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

ローパスフィルターをブロアーで掃除する

イメージセンサークリーニング（🕮190）でゴミやほこりを取りきれないときは、ローパスフィルターを次の手順でクリーニングできます。ただし、ローパスフィルターは非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

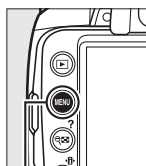
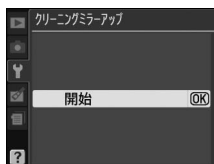
作業中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリー EN-EL9a、または別売のパワーコネクター EP-5とACアダプター EH-5aを組み合わせてお使いください。

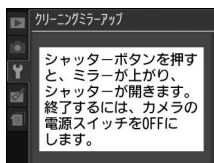
1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

- レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

2 ［クリーニングミラーアップ］※を選ぶ

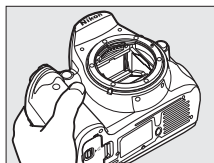
- MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**クリーニングミラーアップ**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。

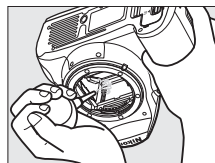
※バッテリー残量が▭以下の場合、このメニュー項目は操作できません。

MENUボタン

3 ㊍ボタンを押す

- 右のようなメッセージが表示され、クリーニングミラーアップの待機状態になります。
- ローパスフィルターのお手入れを止めるには、カメラの電源をOFFにしてください。

4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。

5 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。

6 ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブロアーで払う

- ブラシの付いていないブロアーをお使いください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディーキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

✔ 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、ただちに作業を終了してください。

✔ ローパスフィルター上のゴミ付着について

ニコンデジタルカメラは撮像素子の前面にあるローパスフィルターに付着するゴミについて、当社の品質基準に基づいて製造しています。しかし、このカメラはレンズ交換方式のため、レンズ交換の際にカメラ内にゴミが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子前面のローパスフィルターに付着したゴミが写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。その際、ボディーキャップのゴミも必ず除去してください。ローパスフィルターに付着したゴミを、イメージセンサークリーニング（🕮190）で取り除ききれないときは、上記の手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、別売のCapture NX 2（🕮186）や画像加工アプリケーションなどで修正できます。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こす恐れがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやホコリが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● ローパスフィルターの手入れ方法について

撮像素子の前面にあるローパスフィルターのクリーニングの方法については🕮190、192をご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液漏れなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態で、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- 液晶モニターの特性上、常時点灯あるいは非点灯の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。予めご了承ください。また、記録される画像には影響ありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミ等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● モアレについて

モアレは、被写体の模様と撮像素子の配列とが干渉して起きる現象で、連続するパターンのある画像（建物の格子や格子模様、格子状に並んだビルの窓など）や、規則的に繰り返す細かい模様を持つ被写体（カーテンレースの網目や衣類など）を撮影したときに発生することがあります。

モアレが発生しやすい被写体を撮影するときは、撮影距離を変える、ズームレンズをご使用の場合はズーミングして焦点距離を変える、被写体に対する角度を変えて撮影する、などの方法をおすすめします。

バッテリーの取り扱いについて

● 接点の汚れについて

バッテリーの接点が汚れている場合は、乾いた布などで拭いてください。

● 使用上のご注意

バッテリーの使用方法を誤ると液漏れにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。

- バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
- バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
- 必ず指定のバッテリーを使う。
- バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
- カメラから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について

電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。

● 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● バッテリーのリサイクルについて

充電を繰り返して劣化し使用できなくなったバッテリーは廃棄せず、再利用のためリサイクルにご協力ください。端子カバーを装着してからテープなどで固定して、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へご持参ください。

撮影モード別：設定できる機能一覧

それぞれの撮影モードごとに、設定できる機能とできない機能をまとめています。表の見方は次の通りです。

- ●　：設定できます。［**撮影メニューのリセット**］（□129）で初期設定に戻ります。
- ○　：設定できます。撮影モードを切り換えると、初期設定に戻ります。
- －　：設定できません。

		AUTO	発光禁止	ポートレート	風景	こどもスナップ	スポーツ	クローズアップ	夜景ポートレート	P	S	A	M
撮影メニュー	ピクチャーコントロール	－	－	－	－	－	－	－	－	●	●	●	●
	画質モード	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	画像サイズ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ホワイトバランス	－	－	－	－	－	－	－	－	●	●	●	●
	ISO感度設定	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	アクティブD-ライティング	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	色空間	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ノイズ低減	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	レリーズモード	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	フォーカスモード	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	AFエリアモード	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	●	●	●	●
	内蔵AF補助光の照射	●	●	●	－	●	－	●	●	●	●	●	●
	測光モード	－	－	－	－	－	－	－	－	●	●	●	●
	内蔵フラッシュ発光/外付けフラッシュ発光	－	－	－	－	－	－	－	－	●	●	●	●
撮影関連の設定	AE/AFロックボタンのホールド状態	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	プログラムシフト	－	－	－	－	－	－	－	－	●	－	－	－
	露出補正	－	－	－	－	－	－	－	－	●	●	●	●
	フラッシュモード	● ○	－	● ○	－	● ○	－	● ○	● ○	●	●	●	●
	フラッシュ調光補正	－	－	－	－	－	－	－	－	●	●	●	●

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

画質モード（□51）と画像サイズ（□53）の組み合わせによって、4GBのSDカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります※1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数	連続撮影可能コマ数※2
RAW＋B※3	L	約9.8MB	227コマ	6コマ
RAW	—	約8.6MB	235コマ	6コマ
FINE	L	約4.7MB	541コマ	100コマ
	M	約2.7MB	951コマ	100コマ
	S	約1.3MB	2000コマ	100コマ
NORM	L	約2.4MB	1000コマ	100コマ
	M	約1.4MB	1800コマ	100コマ
	S	約0.7MB	3900コマ	100コマ
BASIC	L	約1.3MB	2000コマ	100コマ
	M	約0.7MB	3400コマ	100コマ
	S	約0.4MB	6900コマ	100コマ

※1 LEXAR MEDIA社製の4GBプロフェッショナルシリーズSDHCメモリーカードを使用した場合。

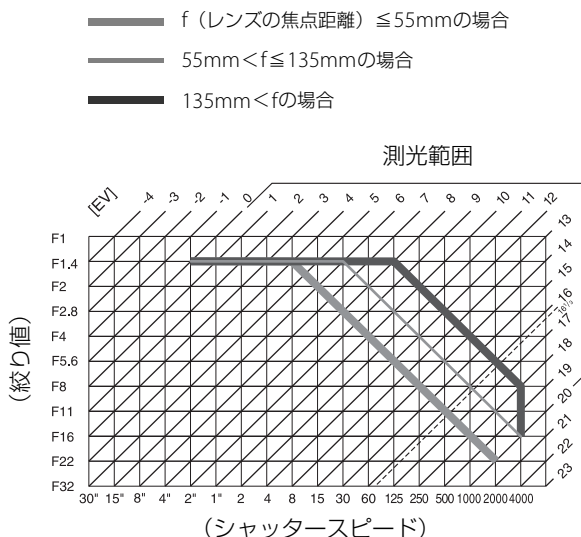
※2 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

- ISO感度（□63）が800より高い場合
- ［**ノイズ低減**］（□132）を［**する**］に設定した場合
- ［**アクティブD-ライティング**］（□65）を［**ON する**］に設定した場合

※3 画像サイズはJPEG画像のものです。ファイルサイズはRAW画像とJPEG画像の合計です。

撮影モードP（マルチプログラムオート）のプログラム線図

次のグラフは、撮影モードが**P**のとき（□68）の露出制御プログラム（ISO 100の場合）を表しています。

f（レンズの焦点距離）≦55mmの場合
55mm＜f≦135mmの場合
135mm＜fの場合

- 測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- ［**マルチパターン測光**］では、ISO 100の場合16 1/3を超えるEV値では、全て16 1/3として制御されます。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

表示関連

● ファインダー内がはっきり見えない

視度調節レバーで調節してください。調節後も見え方が不充分な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いください（□23、186）。

● ファインダー内が暗い

バッテリー残量は充分ですか？　バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量が無い場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります（□14、25）。

● ファインダー内や液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう

セットアップメニュー［**パワーオフ時間**］で、表示が消えるまでの時間を設定できます（□143）。

● インフォ画面が表示されない

- シャッターボタンの半押し中はインフォ画面は表示されません。
- シャッターボタンを半押しして指を放してください。それでもインフォ画面が表示されない場合は：
  - セットアップメニューの［**インフォ画面の自動表示**］が［**自動表示しない**］になっています（□138）。
  - バッテリー残量がありません（□14、25）。

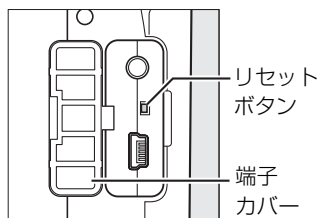
● カメラが作動しない

下記の「デジタルカメラの特性について」をご覧ください。

● ファインダー内の表示が薄い、表示が遅い

低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなることがあります。

デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し（ACアダプター使用時はいったん外してから付け直し）、もう一度電源をONにしてください。このときバッテリーが熱くなっていることがあるので、取り扱いには充分にご注意ください。状態が改善されない場合は、電源をOFFにしてから端子カバー内のリセットボタンを押してください。このときカメラの内蔵時計はリセットされます。また、カメラが作動しなくなったときのデータが失われるおそれがあります。さらに不具合が続く場合は、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連（全撮影モード共通）

● **電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる**

SDカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

● **シャッターがきれない**

- 残量のあるSDカードが入っていますか？（□20、26）
- SDカードがロックされていませんか？（□22）
- 内蔵フラッシュの充電中はシャッターがきれません（□30）。
- ピント表示（●）は点灯していますか？（□28）
- レンズの絞りリングは最小絞り（最も大きい値）になっていますか？（□176）
- CPUレンズが装着されていますか？非CPUレンズは撮影モード**M**以外ではお使いになれません（□179）。

● **ファインダーで見た視野と、撮影される画像の範囲が違う**

このカメラのファインダー視野率は上下左右とも約95%です。このため、ファインダーで見た視野よりも、やや広い範囲が撮影されます（□210）。

● **ピントが合わない**

- AF-Sレンズ、AF-Iレンズ以外の場合、オートフォーカス撮影はできません。
- 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください（□47、49）。
  明暗差がはっきりしない/遠くのものと近くのものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい
- フォーカスモードが［**MF**］（マニュアルフォーカス）になっていませんか？（□42）

● **シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない**

フォーカスモードが［**AF-C**］のときや、［**AF-A**］で［**AF-C**］が選ばれているときや動いている被写体を撮影するときは、AE/AFロックボタンでフォーカスをロックしてください（□42、47）。

● **フォーカスポイントを選べない**

- ［**AFエリアモード**］が［**[■] オートエリアAFモード**］のときは、選べません（□44）。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか？フォーカスポイントを選択するには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください（□26）。

● **AFエリアモードを変更できない**

フォーカスモードが［**MF**］になっていませんか？ AFエリアモードを変更するには、フォーカスモードを［**MF**］以外に変更してください（□42）。

● **画像サイズを変更できない**

［**画質モード**］が［**RAW**］または［**RAW+B**］のときは、画像サイズを変更できません（□52）。

● **画像の記録に時間がかかる**

撮影メニュー［**ノイズ低減**］が［**する**］になっていませんか？（□132）

● **画像がざらつく**

- ISO 感度が高くなっていませんか？ ISO 400 より高い感度で撮影する場合、撮影メニュー［**ノイズ低減**］を［**する**］にすれば、ざらつきを軽減できます（□132）。
- シャッタースピードが 8 秒より低速な場合は、ノイズが発生しやすくなります。撮影メニュー［**ノイズ低減**］を［**する**］にして撮影すると、ざらつきを軽減できます（□132）。

● **AF補助光ランプが光らない**

- 撮影モード🏔または🏃（🕮31）の場合は、AF補助光を照射しません。
- 次の場合、AF補助光を照射しません。
  - フォーカスモードが［**AF-C**］のとき、または［**AF-A**］で自動的に［**AF-C**］が選ばれたとき（🕮42）
  - ［**[▫] シングルポイントAF**］、［**[⊹] ダイナミックAF**］または［**[3D] 3D-トラッキング（11点）**］時に中央以外のフォーカスポイントが選択された場合（🕮46）
- 撮影メニュー［**内蔵AF補助光の照射**］が［**しない**］になっていませんか？（🕮132）
- AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと再び照射するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。

● **リモコンの送信ボタンを押しても撮影できない**

- リモコンの電池残量はありますか？（🕮186）
- リモコンモードに設定されていますか？（🕮54、56）
- フラッシュの充電中は、シャッターがきれません（🕮30）
- 送信ボタンを押す前にセットアップメニュー［**リモコン待機時間**］を過ぎると、リモコンモードはリセットされます（🕮143）。
- 極端な逆光状態などでは、リモコン撮影ができない場合があります。

● **画像にゴミが写り込む**

- レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？
- 撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミが付着していませんか？イメージセンサークリーニングを行ってください（🕮190）。

● **デート写し込みができない**

［**画質モード**］が［**RAW**］または［**RAW＋B**］に設定されていませんか？（🕮51、149）

● **選択または設定できないメニュー項目がある**

撮影モードによっては、設定できない機能があります。この場合、その項目は選択できません（🕮197）。

撮影関連（撮影モードP、S、A、M）

● **シャッターがきれない**
- CPUレンズが装着されていますか？非CPUレンズは撮影モード**M**以外ではお使いになれません（□179）。
- 撮影モード**M**でシャッタースピードをBulbまたはTimeに設定し、そのまま撮影モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください（□69）。

● **設定できるシャッタースピードの範囲が狭い**
フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます（□62）。

● **画像の色合いがおかしい**
- ホワイトバランスは正しく設定されていますか？（□82）
- ［**ピクチャーコントロール**］は正しく設定されていますか？（□89）

● **ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない**
被写体が明るすぎるか、暗すぎます（□86）。

● **ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある**
この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません（□88）。

● **［ピクチャーコントロール］の効果が安定しない**
［**ピクチャーコントロール**］の調整画面で、［**輪郭強調**］、［**コントラスト**］、［**色の濃さ（彩度）**］のいずれかが［**A**］（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を［**A**］（オート）以外に設定してください（□91）。

● **ピクチャーコントロールで［コントラスト］を調整できない**
［**アクティブD-ライティング**］が［**ON する**］の場合、ピクチャーコントロールの［**コントラスト**］は調整できません。［**アクティブD-ライティング**］を［**OFF しない**］にしてから［**コントラスト**］を調整してください。

● **測光モードが変更できない**
AEロック中は測光モードを変更できません（□76）。

● **露出補正ができない**
撮影モードが**M**の場合、露出補正を行っても、露出インジケーターの基準値が変わるだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません（□79）。

● **連続撮影できない**
内蔵フラッシュが上がっているときは、連続撮影できません（□55）。

● **画像の一部が赤っぽくなる**
シャッタースピードをBulbまたはTimeにした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなることがあります。この現象は、撮影メニュー［**ノイズ低減**］を［**する**］に設定することで軽減できます（□132）。

再生関連

- **画像の一部がチカチカと点滅する**

  画像情報の設定がハイライト表示になっています（□94、126）。

- **画像と重なって文字が表示される**

  画像情報の設定が撮影情報表示になっています（□94、126）。

- **グラフが表示される**

  画像情報の設定がRGBヒストグラム表示になっています（□94、126）。

- **RAW画像が表示されない**

  ［**画質モード**］を［**RAW＋B**］にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません（□52）。

- **全ての画像が表示されない**

  再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください。なお、［**全てのフォルダー**］にした後に撮影すると、［**再生フォルダー設定**］は自動的に［**記録中のフォルダー**］に変更されます（□126）。

- **画像の縦位置・横位置が正しく表示されない**
  - 再生メニュー［**縦位置自動回転**］が［**しない**］になっていませんか？（□127）
  - セットアップメニュー［**縦横位置情報の記録**］が［**しない**］になっていませんか？（□141）
  - 連続撮影したときの縦横位置は、最初の1コマを撮影した構図で固定されます（□55）。
  - 撮影直後の画像確認時は、自動回転しません（□127）。
  - カメラを上向き・下向きにして撮影すると、姿勢情報が正しく得られない場合があります（□141）。

- **画像を削除できない**
  - SDカードがロックされていませんか？（□22）
  - 画像にプロテクトが設定されていませんか？（□104）

- **画像が編集できない**
  - このカメラでは編集できない画像です（□156）。

- **プリント指定ができない**
  - SDカードがロックされていませんか？（□22）
  - SDカードの空き容量が不足していませんか？（□26）

- **RAW画像をプリントできない**
  - 画像編集メニューの［**簡単レタッチ**］や［**RAW現像**］などでRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください（□167、168）。
  - RAW 画像はパソコンに転送してから、付属ソフトウェアや別売のCapture NX 2などのソフトウェアを使ってプリントしてください（□111）。

- **画像がテレビに映らない**

  セットアップメニュー［**ビデオ出力**］が正しく設定されていますか？（□138）

- **画像をパソコンに転送できない**

  お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります（□111）。カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに保存してください。

- **Capture NX 2で画像が表示されない**

  ソフトウェアのバージョンが最新になっていますか？（□186）

● **Capture NX 2でイメージダストオフ機能が動作しない**

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、ローパスフィルター表面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません（□142）。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
- イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき

その他

● **撮影日時が正しく表示されない**

カメラの内蔵時計は合っていますか？カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないため、定期的に日時設定を行うことをおすすめします（□19、139）。

● **表示されているメニュー項目が選択できない**

- SDカードをカメラに挿入していないときは、選択できない項目があります（□20、154）。
- 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選択できない場合があります（□13）。

警告メッセージ

液晶モニターとファインダーに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

警告表示について

液晶モニターに?、またはファインダー内に?が点滅している場合に?（Q）ボタンを押すと、警告の内容を確認することができます。

こんなとき		対処方法	📖
液晶モニター	ファインダー内表示		
レンズの絞りリングを最小絞り（一番大きい数字）にしてください。	FE E（点滅）	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。	18、176
レンズ未装着	F- -/?（点滅）	• レンズを装着してください。 • 非CPUレンズを装着しているときは、撮影モード**M**で撮影してください。	17 179
撮影できません。バッテリーを交換してください。	▭（点滅）	残量のあるバッテリーに交換してください。	14、15
このバッテリーは使用できません。専用バッテリーに交換してください。	▭（点滅）	専用バッテリー EN-EL9aに交換してください。	185
起動エラーが発生しました。復旧には電源スイッチをOFFにして再度ONにしてください。	▭（点滅）	電源を一度切ってから、バッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。	15、25
バッテリーが残り少なくなりました。ただちに作業を終了し、電源スイッチをOFFにしてください。	—	クリーニングを中止し、電源をOFFにしてください。	193
日時未設定	—	日時を設定してください。	19、139
メモリーカード未挿入	[-E-]	SDカードを正しく入れてください。	20
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	CHA（点滅）	SDカードのロックを解除してください。	22

こんなとき		対処方法	📖
液晶モニター	ファインダー内表示		
このメモリーカードは壊れている可能性があるため、使用できません。カードを交換してください。	[CHA] （点滅）	• このカメラで使用できるSDカードであるかどうかを確認してください。 • SDカードを初期化し直してください。状況が改善しない場合は、SDカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関にご相談ください。 • 新規フォルダー作成時にこのメッセージが表示された場合は、不要な画像を削除してください。 • 新しいSDカードに交換してください。 • セットアップメニューの［**Eye-Fi送信機能**］を［**無効**］にしても、電波が出力される場合があります。カメラの電源をOFFにしてからEye-Fiカードを取り出し、SDカードに交換してください。	20、188 21、226 34、105 20、188 153
このメモリーカードは初期化（フォーマット）されていません。フォーマットしますか？	[For] （点滅）	• SDカードをカメラで初期化してください。 • 電源をもう一度OFFにしてから、正しく初期化されたSDカードに交換してください。	21 20
メモリーカード空き容量不足	FuL （点滅）	• カードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいSDカードに交換してください。	105、111 20
—	● （点滅）	構図を変えるか、マニュアル（手動）でピントを合わせてください。	27、42、49
被写体が明るすぎます	Hi	• ISO感度を低くしてください。 • シャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • 絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。 • 市販のND（光量調節用）フィルターをお使いください。	63 69、71 70、71 185
被写体が暗すぎます	Lo	• ISO感度を高くしてください。 • フラッシュをお使いください。 • シャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • 絞りを開いて（より小さい数値にして）ください。	63 59 69、71 70、71
Sモード時Bulb制御不可	bulb （点滅）	• シャッタースピードを変えてください。	69
	- - （点滅）	• 撮影モード**M**で撮影してください。	71

こんなとき		対処方法	📖
液晶モニター	ファインダー内表示		
—	ϟ（点滅）	フラッシュがフル発光しました。撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り、フラッシュ調光範囲、ISO感度などをご確認ください。	—
フラッシュがTTLモードになっています。フラッシュをTTLモード以外に設定するか、CPUレンズに交換してください。	ϟ（点滅）	• スピードライトの調光モードを TTL モード以外に変更してください。 • CPUレンズに交換してください。	— 175
—	ϟ/⍰（点滅）	• フラッシュをお使いください。 • 撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO感度などを確認してください。 • 別売スピードライトSB-400をお使いの場合に、装着したSB-400の位置がバウンス位置になっていると、この警告表示になります。バウンスで撮影するときは、そのまま撮影を続けてください。 • 別売スピードライトSB-400をお使いの場合に、レンズの焦点距離が短すぎると、この警告表示になり、画像の周辺が暗くなることを警告します。この場合、レンズの焦点距離を長くしてください。	59 62、63、70 — —
スピードライトエラー	ϟ/⍰（点滅）	接続中のスピードライトはバージョンアップに失敗しているため使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。	226
何らかの異常を検出しました。復旧にはシャッターボタンをもう一度押してください。	Err（点滅）	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。	226
起動エラーが発生しました。サービス機関にお問い合わせください。	Err（点滅）	ニコンサービス機関にご相談ください。	226
自動露出エラー	Err（点滅）	ニコンサービス機関にご相談ください。	226
撮影画像がありません。	—	• 画像が記録されているSDカードを入れてください。 • 再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で、表示可能な画像があるフォルダーを選択してください。	20 126

こんなとき		対処方法	🕮
液晶モニター	ファインダー内表示		
このファイルは表示できません。	—	• パソコンで編集した画像など、DCF規格の画像ファイルではないため、再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。	—
このファイルは選択できません。	—	• パソコンで編集した画像など、DCF規格の画像ファイルではないため、再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。	156
処理できる画像がありません。	—	［**RAW現像**］で画像編集できるのはRAW画像だけです。	167
プリンターの状態を確認してください。※	—	インク交換してください。インクに残量がある場合は、プリンターの状態を確認してください。	—
用紙を確認してください。※	—	指定したサイズの用紙がセットされていません。指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでOKボタンを押して、プリントを再開してください。	—
紙詰まりです。※	—	用紙が詰まりました。詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］を選んでOKボタンを押して、プリントを再開してください。	—
用紙がありません。※	—	用紙がセットされていません。指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでOKボタンを押して、プリントを再開してください。	—
インクを確認してください。※	—	インクに異常があります。インクを確認した後、［**継続**］を選んでOKボタンを押して、プリントを再開してください。	—
インクがありません。※	—	インクがなくなりました。インクを交換した後、［**継続**］を選んでOKボタンを押して、プリントを再開してください。	—

※ プリンターの使用説明書もあわせてご覧ください。

主な仕様

ニコンデジタルカメラD3000

型式	
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント（AF接点付）
実撮影画角	レンズの焦点距離の約1.5倍に相当、ニコンDXフォーマット
有効画素数	
有効画素数	10.2メガピクセル
撮像素子	
方式	23.6×15.8 mmサイズCCDセンサー
総画素数	10.75メガピクセル
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、 イメージダストオフデータ取得（別売Capture NX 2必要）
記録形式	
記録画素数	• 3872×2592ピクセル（サイズL） • 2896×1944ピクセル（サイズM） • 1936×1296ピクセル（サイズS）
画質モード	• RAW • JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16） • RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景から選択可能、いずれも調整可能
記録媒体	SDメモリーカード、SDHC規格対応
対応規格	DCF 2.0（Design rule for Camera File system）、 DPOF（Digital Print Order Format）、 Exif 2.21（Exchangeable image file format for digital still cameras）、 PictBridge
ファインダー	
ファインダー	アイレベル式ペンタミラー使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	上下左右とも約95%（対実画面）
倍率	約0.8倍（50mm f/1.4レンズ使用、∞、$-1.0\ m^{-1}$のとき）
アイポイント	18 mm（$-1.0\ m^{-1}$のとき）
視度調節範囲	-1.7～$+0.5m^{-1}$
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンV（フォーカスフレーム付、構図用格子線の表示可能）
ミラー	クイックリターン式
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ	
交換レンズ	• **AF-SおよびAF-Iレンズ**：全ての機能を使用可能 • **モーターを内蔵しないAFレンズのGまたはDタイプ**：オートフォーカスを除く機能を使用可能 • **モーターを内蔵しないAFレンズのGまたはDタイプ以外**：オートフォーカス使用不可、3D-RGBマルチパターン測光IIを除く機能を使用可能 • **プロネア用IXレンズとF3AF用のAFレンズ**：使用不可 • **DタイプのPCレンズ**：オートフォーカス使用不可、撮影モードの一部を除く機能を使用可能 • **Pタイプレンズ**：オートフォーカス使用不可、3D-RGBマルチパターン測光IIを除く機能を使用可能 • **非CPUレンズ**：オートフォーカス使用不可、撮影モードは**M**（マニュアル）を使用可能（ただし、露出計は使用不可） • **開放F値がF5.6以上明るいレンズ**：フォーカスエイド可能

シャッター	
型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	1/4000～30秒（1/3ステップ）、Bulb、Time（別売のリモコンML-L3使用）
フラッシュ同調シャッタースピード	X=1/200秒以下の低速シャッタースピードで同調

レリーズ機能	
レリーズモード	S（単写）、連写アイコン（連写）、セルフタイマーアイコン（セルフタイマー）、リモコンアイコン 2s（2秒リモコン）、リモコンアイコン（瞬時リモコン）
連続撮影速度	最高約3コマ/秒（フォーカスモードがマニュアルフォーカス、撮影モードが**S**（シャッター優先オート）または**M**（マニュアル）、1/250秒以上の高速シャッタースピード、その他が初期設定時）
セルフタイマー	作動時間2、5、10、20秒に設定可能

露出制御	
測光方式	420分割RGBセンサーによるTTL開放測光方式
測光モード	• **マルチパターン測光**：3D-RGBマルチパターン測光II（GまたはDタイプレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光II（その他のCPUレンズ使用時） • **中央部重点測光**：φ8 mm相当を測光（中央部重点度約75%） • **スポット測光**：約φ3.5 mm相当（全画面の約2.5%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動
測光範囲	• **マルチパターン測光、中央部重点測光**：0～20 EV • **スポット測光**：2～20 EV （ISO 100換算、 f /1.4レンズ使用時、常温20℃）
露出計連動	CPU連動方式
撮影モード	AUTO：オート、発光禁止アイコン：発光禁止オート、ポートレートアイコン：ポートレート、風景アイコン：風景、こどもスナップアイコン：こどもスナップ、スポーツアイコン：スポーツ、クローズアップアイコン：クローズアップ、夜景ポートレートアイコン：夜景ポートレート、**P**：マルチプログラムオート（プログラムシフト可能）、**S**：シャッター優先オート、**A**：絞り優先オート、**M**：マニュアル

露出制御	
露出補正	範囲：±5段、補正ステップ：1/3ステップ
AEロック	AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式
ISO感度（推奨露光指数）	ISO 100～1600（1段ステップ）、ISO 1600に対し約1段（ISO 3200相当）の増感、感度自動制御が可能
アクティブD-ライティング	する、しないから選択可能

オートフォーカス	
方式	TTL位相差検出方式：フォーカスポイント11点（うち、クロスタイプセンサー1点）、マルチCAM 1000オートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF補助光（約0.5～3 m）付
検出範囲	–1～＋19 EV（ISO 100換算、常温（20℃））
レンズサーボ	• **オートフォーカス（AF）**：シングルAFサーボ（AF-S）、コンティニュアスAFサーボ（AF-C）、AFサーボモード自動切り換え（AF-A）を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 • **マニュアルフォーカス（MF）**：フォーカスエイド可能
フォーカスポイント	11点のフォーカスポイント
AFエリアモード	シングルポイントAFモード、ダイナミックAFモード、オートエリアAFモード、3D-トラッキング（11点）
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押し

フラッシュ	
内蔵フラッシュ	AUTO、ポートレート、子供、クローズアップ、夜景ポートレート時：オートポップアップ方式による自動発光 **P**、**S**、**A**、**M**時：押しボタン操作による手動ポップアップ方式 ガイドナンバー：約12（マニュアルフル発光時約13）（ISO 100・m、20℃）
調光方式	**420分割RGBセンサーによる次のTTL調光制御**： • 内蔵フラッシュ、SB-900、SB-800、SB-600またはSB-400と、マルチパターン測光または中央部重点測光の組み合わせ時に、i-TTL-BL調光可能 • 内蔵フラッシュ、SB-900、SB-800、SB-600またはSB-400と、スポット測光の組み合わせ時に、スタンダードi-TTL調光可能（SB-900、SB-800、SB-600使用時はスピードライト側でも設定可能） **絞り連動外部自動調光**：SB-900またはSB-800とCPUレンズとの組み合わせ時 **外部自動調光**：SB-900、SB-800、SB-80DX、SB-28DX、SB-28、SB-27、SB-22Sなどとの組み合わせ時 **距離優先マニュアル発光**：SB-900、SB-800との組み合わせ時

フラッシュ	
フラッシュモード	、、、時：内蔵フラッシュ使用時に通常発光オート、赤目軽減オート、発光禁止が設定可能、別売スピードライト使用時に通常発光、赤目軽減が設定可能 時：内蔵フラッシュ使用時に通常発光オート＋スローシャッター、赤目軽減オート＋スローシャッター、発光禁止が設定可能、別売スピードライト使用時に通常発光＋スローシャッター、赤目軽減＋スローシャッターが設定可能 、時：別売スピードライト装着時に通常発光、赤目軽減が設定可能 P、A時：通常発光、通常発光＋スローシャッター、赤目軽減発光、赤目軽減発光＋スローシャッター、後幕発光＋スローシャッターが設定可能 S、M時：通常発光、赤目軽減発光、後幕発光が設定可能
調光補正	範囲：–3～+1段、補正ステップ：1/3ステップ
レディーライト	内蔵フラッシュ、SB-900、SB-800、SB-600、SB-400、SB-80DX、SB-28DX、SB-50DXなど使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリーシュー	ホットシュー装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティロック機構（ロック穴）付
ニコンクリエイティブライティングシステム	• SB-900、SB-800またはSU-800をコマンダーとしたアドバンストワイヤレスライティングに対応 • 内蔵フラッシュ、またはニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで発光色温度情報伝達に対応
シンクロターミナル	ホットシューアダプター AS-15（別売）
ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート、電球、蛍光灯（７種）、晴天、フラッシュ、曇天、晴天日陰、プリセットマニュアル、プリセットマニュアル以外はいずれも微調整可能
液晶モニター	
液晶モニター	3型TFT液晶、約23万ドット、明るさ調整可能
再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル再生（4、9、72分割またはカレンダーモード）、拡大再生、D3000で作成したストップモーション動画の再生、スライドショー、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影画像の縦位置自動回転、画像コメント入力可能（英数字36文字まで）
インターフェース	
USB	Hi-Speed USB
ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能
表示言語	
表示言語	デンマーク語、ドイツ語、英語、スペイン語、フィンランド語、フランス語、イタリア語、オランダ語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ロシア語、スウェーデン語、繁体中国語、簡体中国語、日本語、韓国語
電源	
使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9a 1個使用
ACアダプター	ACアダプター EH-5a（パワーコネクター EP-5と組み合わせて使用）（別売）

三脚ネジ穴	
三脚ネジ穴	1/4（ISO 1222）

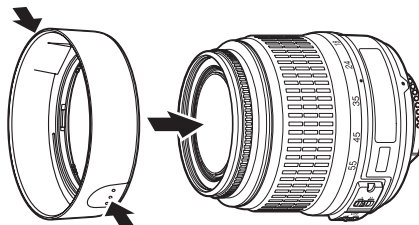
寸法・質量	
寸法（W×H×D）	約126×97×64 mm
質量	約485 g（バッテリー本体、SDメモリーカード、ボディーキャップを除く）

動作環境	
温度	0～40℃
湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、全て常温（20℃）フル充電バッテリー使用時のものです。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

クイックチャージャー MH-23	
電源	AC 100 ～ 240 V（50/60 Hz）
充電出力	DC 8.4 V、900 mA
適応電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9a、EN-EL9
充電時間	EN-EL9a充電時：約1時間40分、EN-EL9充電時：約1時間30分 ※残量のない状態からの充電時間
使用温度	0～40 ℃
寸法（W×H×D）	約82.5×28×65 mm
電源コード	長さ約1.8 m、日本国内専用AC 100V対応
質量	約80 g（電源コードを除く）

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9a	
形式	リチウムイオン充電池
定格容量	7.2 V、1080 mAh
寸法（W×H×D）	約36×14×56 mm
質量	約51 g（端子カバーを除く）

レンズAF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR	
型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-S DXニッコールズームレンズ（ニコンデジタル一眼レフカメラ［ニコンDXフォーマット］専用）
焦点距離	18 mm–55 mm
最大口径比	1：3.5–5.6
レンズ構成	8群11枚（非球面レンズ1枚）
画角	76º– 28º50´
焦点距離目盛	18、24、35、45、55mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報出力可能
ズーミング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能
手ブレ補正	ボイスコイルモーター（VCM）によるレンズシフト方式
最短撮影距離※	0.28 m（ズーム全域）
絞り羽根枚数	7枚（円形絞り）
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲	焦点距離18 mm時 f/3.5–22、55 mm時 f/5.6–36
測光方式	開放測光
アタッチメントサイズ	52 mm（P=0.75 mm）
寸法	約73 mm（最大径）×79.5 mm（バヨネットマウント基準面からレンズ先端まで）
質量	約265 g
レンズフード	HB-45（別売） レンズフードの取り付け方

※ 被写体から距離基準マークまでの距離（□50）

- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0**：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **DPOF（Digital Print Order Format）**：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- **Exif Version 2.21**：（Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras）：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報をいかして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge**：デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。

商標説明

- SDロゴ、SDHCロゴ、およびPictBridgeロゴは商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime は米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9a（1080mAh）による撮影可能コマ数（電池寿命）は、次の通りです。

- 1コマ撮影モード：約550コマ（CIPA基準準拠※1）
- 連写モード：約2000コマ（当社試験条件※2）

※1 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。1回レリーズ（2回に1回は内蔵フラッシュをフル発光）した後、液晶モニターを4秒間点灯。消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR、温度23（± 2）℃。

※2 レリーズモード連続、フォーカスモードAF-C、画質モードBASIC、画像サイズM、ホワイトバランスAUTO、ISO 100、シャッタースピード1/250秒、シャッターボタンの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続レリーズした後、液晶モニターを4秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR（VR機能OFF）、温度20℃。

※バッテリーの充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。

次の場合はバッテリーの消耗が早くなります。

- 液晶モニターを長時間使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAWに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL9aの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

索 引

マーク・英数字

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

アフターサービスについて

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理について、さらにご質問がございましたらニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

• ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

●お願い

• お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
• より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■修理を依頼される場合は

この製品の修理を依頼される場合は、ご購入店、またはニコンサービス機関にご依頼ください。

• ニコンサービス機関につきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。
• ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービス機関にご相談ください。
• カメラを修理に出される場合は、SDカードをカメラから取り出してください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後7年を目安としています。

• 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店、またはニコンサービス機関へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

■インターネットご利用の方へ

• ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社Webサイトでご覧いただくことができます。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/

製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

FAX:03-5977-7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日： 年 月 日
お買い上げ日： 年 月 日
製品名：　シリアル番号：
フリガナ お名前：
連絡先ご住所：□自宅 □会社 〒 TEL: FAX:
ご使用のパソコンの機種名： メモリー容量：　ハードディスクの空き容量： OS のバージョン： ご使用の当社ソフトウェアの名称およびバージョン名： ご使用のアプリケーションソフト名：
問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）

※ このページはコピーしてお使いください。

※ 整理番号：

製品の使い方に関するお問い合わせ

＜ニコン カスタマーサポートセンター＞

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000

一般電話･公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30～18：00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、（03）5977-7499 に送信ください。

修理サービスのご案内

インターネットでの修理のお申し込み

下記 URL から「ニコン ピックアップサービス」のお申し込みができます。宅配便などでお送りいただいた場合などの「修理金額見積り」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/repair/　※インターネットでの修理のお申し込みの場合、送料割引がございます。

修理品のお引き取りを依頼される場合は

＜ニコン ピックアップサービス＞

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が、梱包資材のお届け･修理品のお引き取り、修理後のお届け･集金までを一括して提供するサービスです。全国一律の配送料金にて承ります。

※宅配便で扱える大きさや重さには制限があるため、取り扱いできない製品もございます。

0120-02-8155

営業時間：9：30～18：00（年末年始12/29～1/4を除く毎日）

※左記のフリーダイヤルは、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。

製品に関するお問い合わせは、上記のカスタマーサポートセンターへお願いいたします。

修理に関するお問い合わせは、下記の修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と
修理に関するお問い合わせは

＜（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター＞

230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200

一般電話･公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30～17：30（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577（ニコンカスタマーサポートセンター）におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

株式会社 ニコン

株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Thailand

6MB06210-01